

# 第3章 分析視点別結果

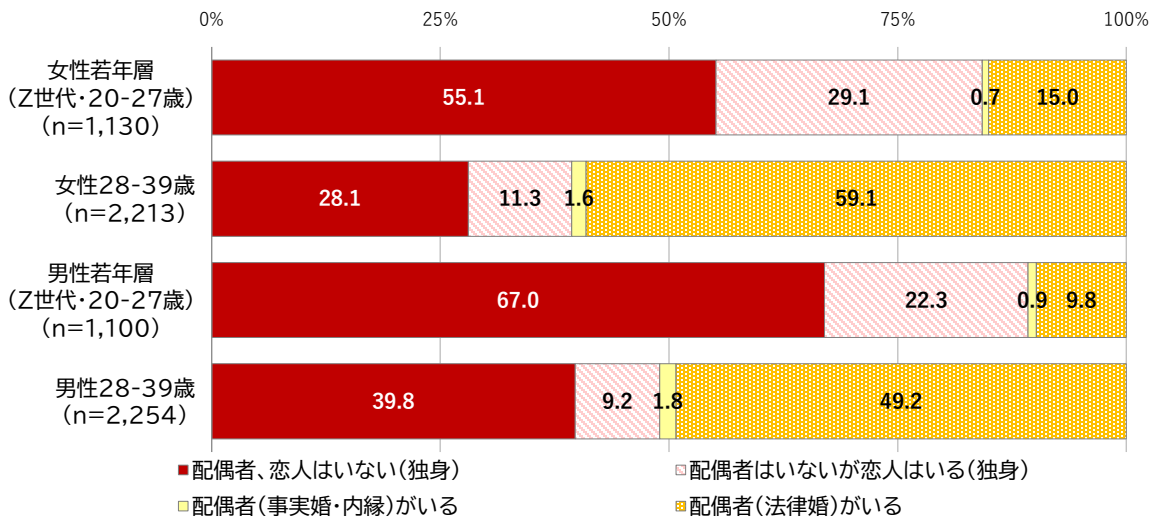
## 1. 若年層を取り巻く状況

※若年層(Z世代)=20歳~27歳を対象としている

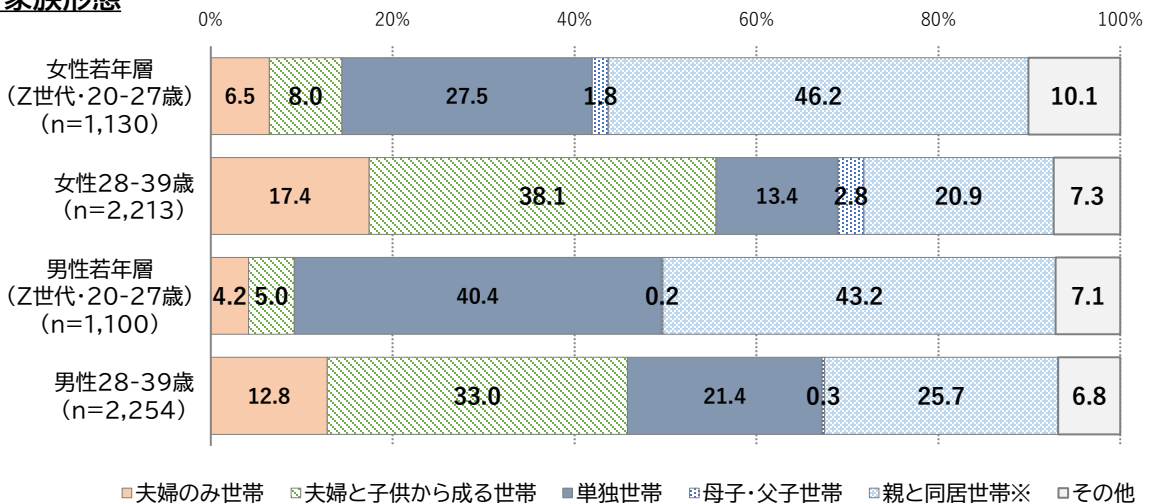
### (1) 若年層(Z世代)の基本属性情報

- ・調査時点で、20歳~27歳を「若年層(Z世代)」と定義して、傾向を分析する。
- ・配偶者等の状況についてみると、「女性若年層」では「配偶者、恋人はいない(独身)」が55.1%と最も高く、次に「配偶者はいないが恋人はいる(独身)」が29.1%、「配偶者(法律婚)がいる」が15%となっている。「男性若年層」でも同様に、「配偶者、恋人はいない(独身)」が最も高く67.0%。「配偶者はいないが恋人はいる(独身)」が22.3%。「配偶者(法律婚)がいる」は9.8%となっている。
- ・家族形態についてみると、「女性若年層」では「親と同居世帯」が46.2%と最も高く、次に「単独世帯」が27.5%と続く。「男性若年層」では「親と同居世帯」が43.2%、「単独世帯」が40.4%と同程度となっている。

#### ◆現在の配偶者等の状況



#### ◆家族形態



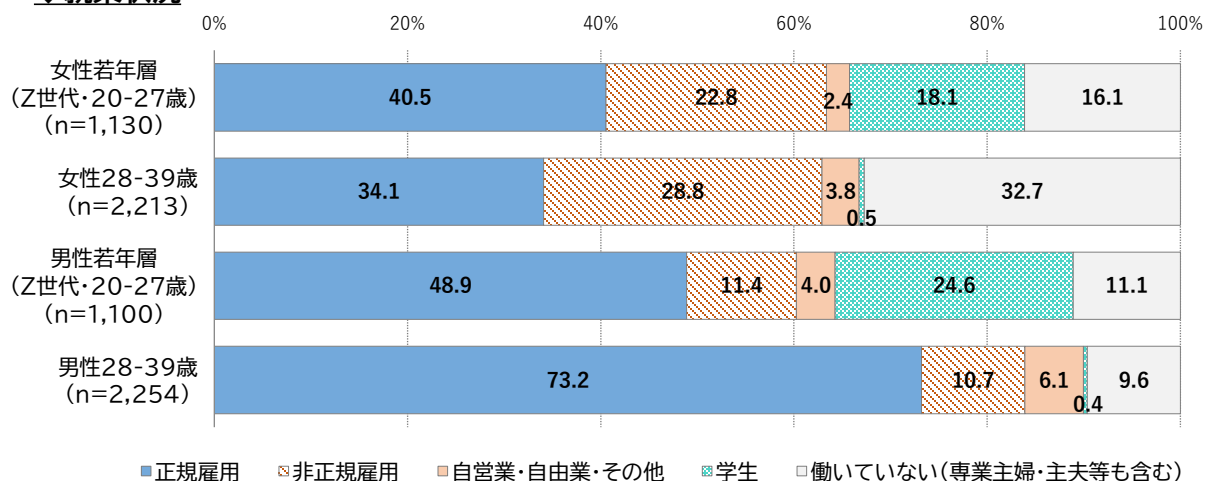
※「親と同居世帯」…自分と親の組み合わせで同居しており、かつ、配偶者・子供・孫と同居していない世帯

## (2) 就業状況と個人年収

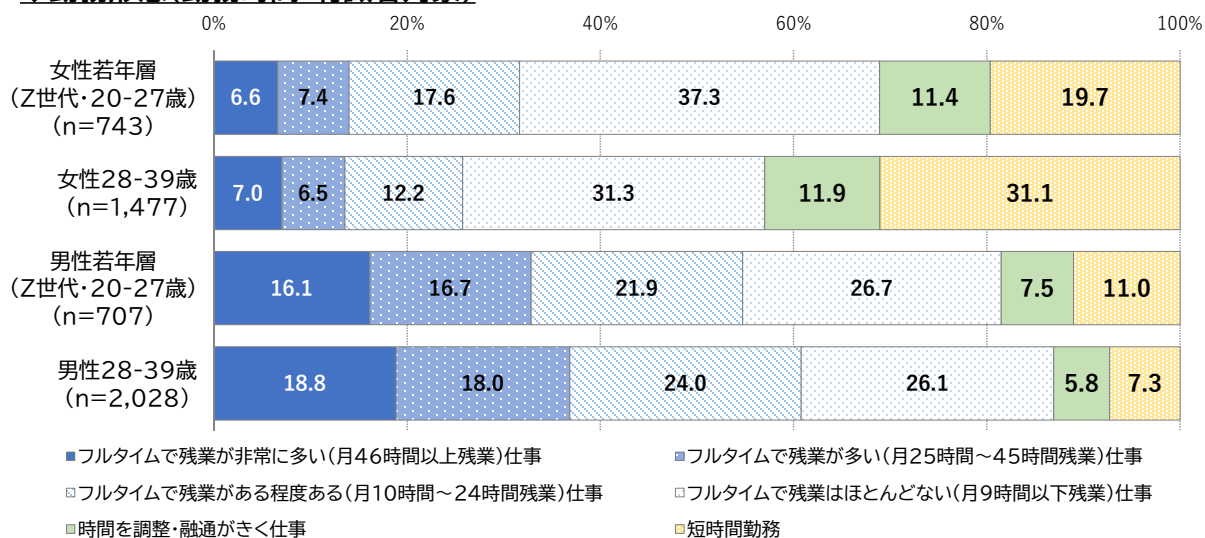
・現在の就業状況についてみると、「女性若年層」では「正規雇用」40.5%、「非正規雇用」22.8%、「学生」18.1%。「男性若年層」では「正規雇用」48.9%、「非正規雇用」11.4%、「学生」24.6%。男女で比較すると、女性の方が「非正規雇用」が10%ポイント以上高く、「正規雇用」「学生」は男性の方が高い。

・有職者における勤務形態(勤務時間)についてみると、「女性若年層」では「フルタイムで残業はほとんどない(月9時間以下残業)仕事」が37.3%と最も高い。一方、「男性若年層」でも「フルタイムで残業はほとんどない(月9時間以下残業)仕事」が26.7%と最も高いが、「フルタイムで残業が非常に多い(月46時間以上残業)仕事」が16.1%、「フルタイムで残業が多い(月25～45時間残業)仕事」も16.7%と、「女性若年層」と比べると、残業時間が長い傾向がある。また「28-39歳」と比較すると、女性においては「若年層」の方が「フルタイム」の割合が高く、「28-39歳」の方が「短時間勤務」の割合が高くなる。男性では、女性ほどの差異は見られない。

### ◆就業状況

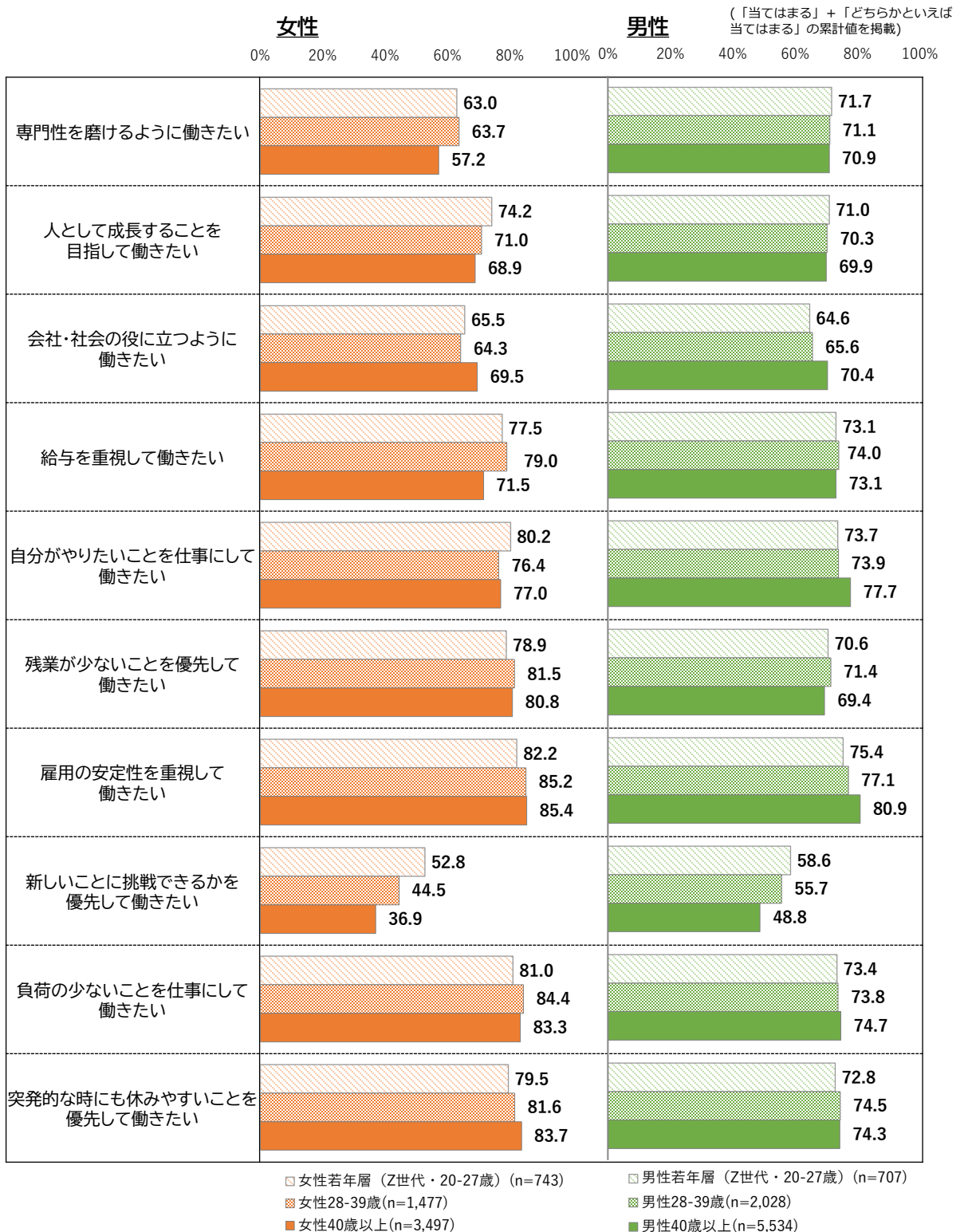


### ◆勤務形態(勤務時間・有職者対象)



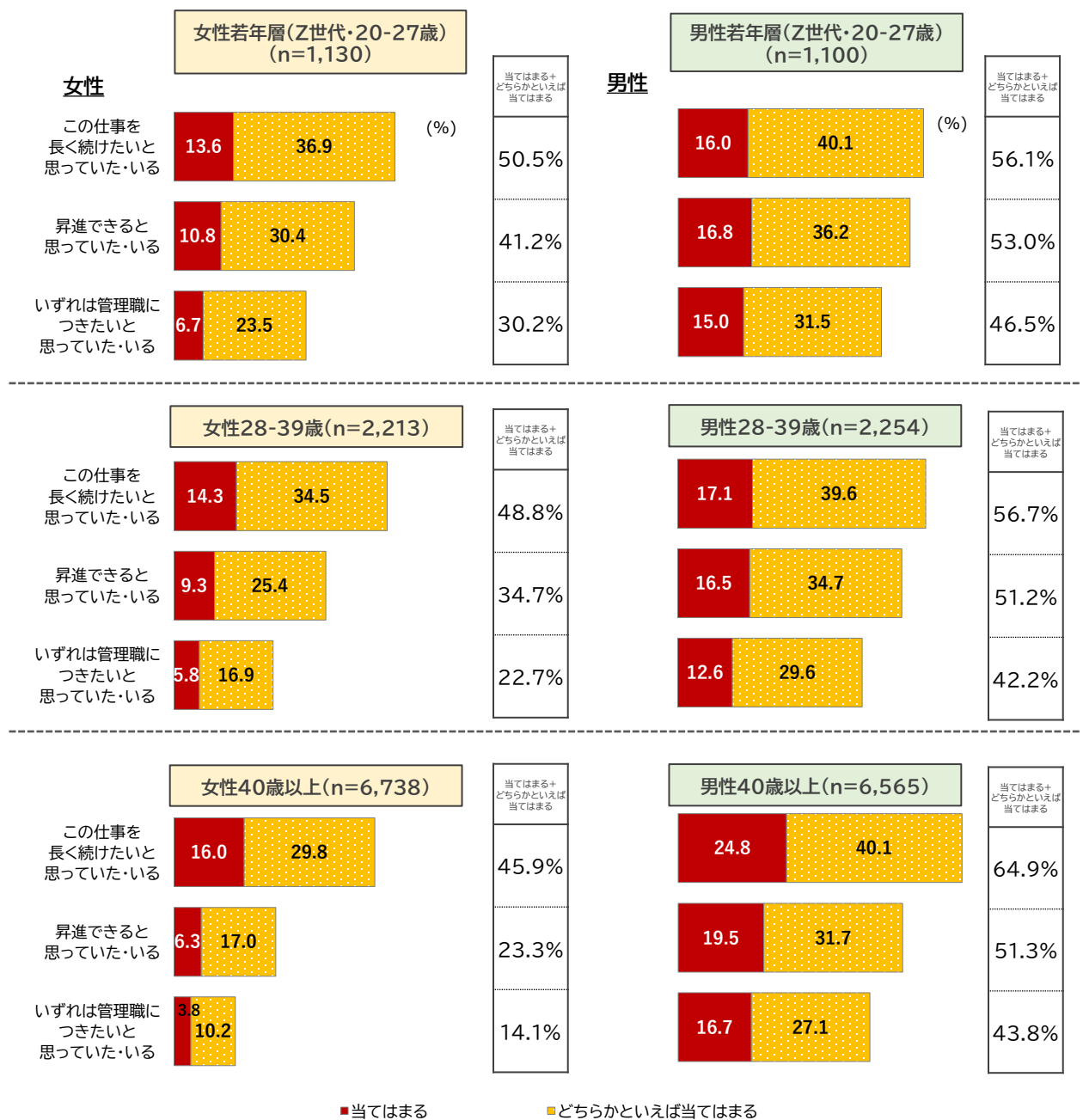
### (3) 仕事・働くことに対する現在の考え方(有職者対象)

・年代別に見てみると、男女ともに若い年代ほど「新しいことに挑戦できるかを優先して働きたい」が高く、「女性若年層」では52.8%、「男性若年層」では58.6%となっている。また、この項目について、男女差が最も小さいのが「若年層」となっており、上の年代になると男性の方が女性よりも10%ポイント以上高くなる。



#### (4)「仕事での昇進」 20代時点での考え方

- ・年代別にみると女性は、「長く続けたい」「昇進できる」「いずれは管理職」の全項目で「若年層」で割合が高く、特に「昇進できる」は41.2%、「いずれは管理職」は30.2%と、「28-39歳」と比べて5%ポイント以上高い。
- ・男性は、「昇進できる」「いずれは管理職」については、年代差はあまりない。一方、「長く続けたい」は、「40歳以上」で下の年代よりも8%ポイント程度高い。
- ・男女差は「40歳以上」で最も大きく、「昇進できる」「いずれは管理職」は男性の方が30%ポイント近く高い。また、その差は若い年代ほど小さく、「若年層」では「昇進できる」「いずれは管理職」について、男女差は10%ポイント程度となる。

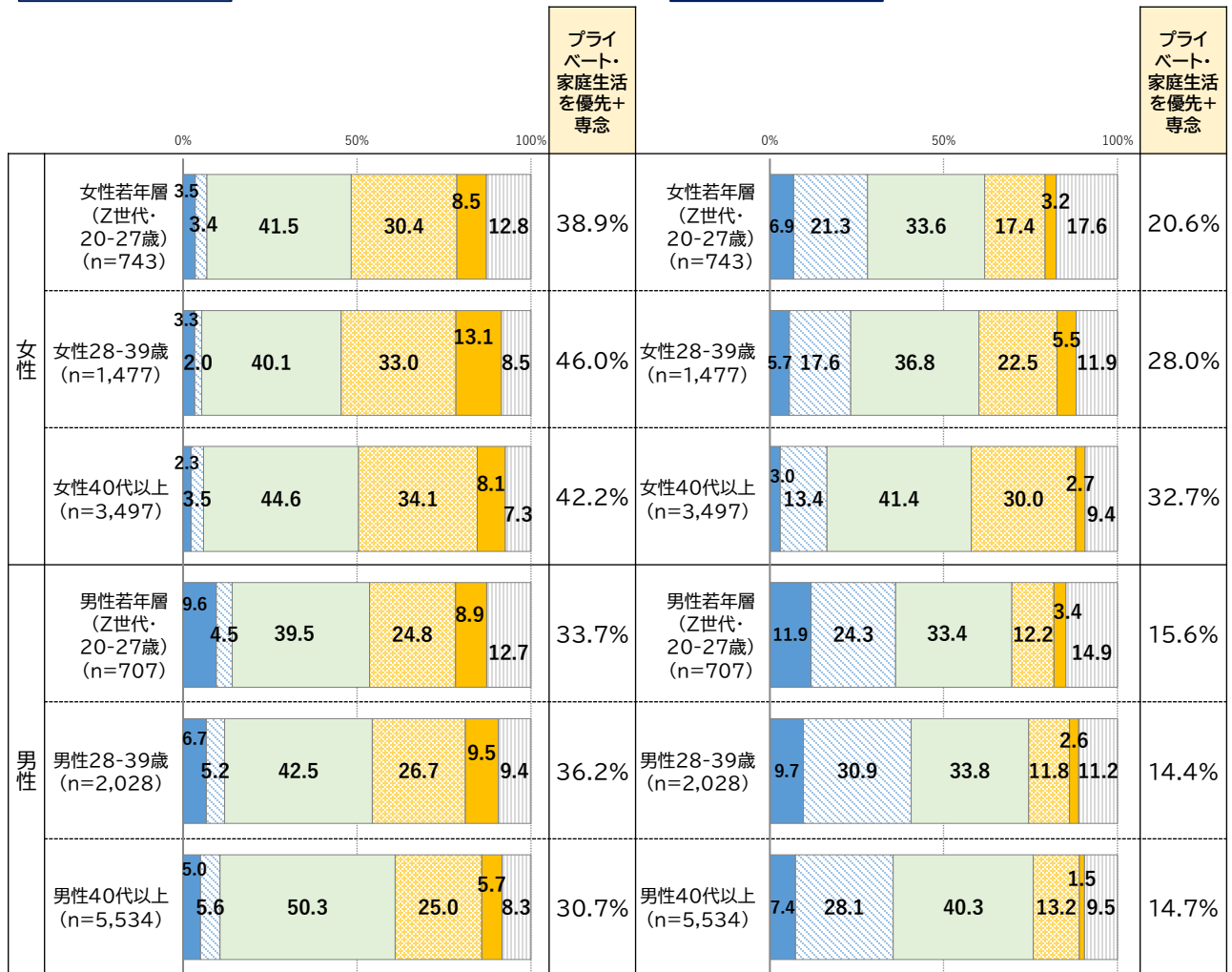


## (5) 仕事とプライベート・家庭生活のバランス 理想と現実(有識者が対象)

- ・男女ともに、全ての年代で「仕事とプライベート・家庭生活を両立」が最も高い。また全ての年代で「理想」に比べて「現実」の方が、「仕事に専念+優先」の割合が高い。
- ・「理想」においては、女性では年代による差はあまり大きくない。男性では、「仕事とプライベート・家庭生活を両立」は、上の年代ほど高い。一方、「プライベート・家庭生活を優先+専念」の男女差を見てみると、「若年層」ではその差は10%ポイント以内となっているが、「28-39歳」「40歳以上」では、女性の方が「プライベート・家庭生活を優先+専念」の割合が10%ポイント程度高くなっている。
- ・「現実」においては、女性では若い年代ほど「仕事に専念+優先」が高く、上の年代ほど「プライベート・家庭生活を優先」が高くなっている。「女性若年層」では、「プライベート・家庭生活を優先+専念」20.6%よりも、「仕事を優先+専念」28.1%の方が高い。男性では、年代による差はあまり大きくない。
- ・「現実」について男女で比較すると、「若年層」については、男女差が最も小さい。「28-39歳」では女性の方が「プライベート・家庭生活を優先+専念」が10%ポイント以上高くなり、「40歳以上」ではその差は20%ポイント近くまで広がる。

### ①理想

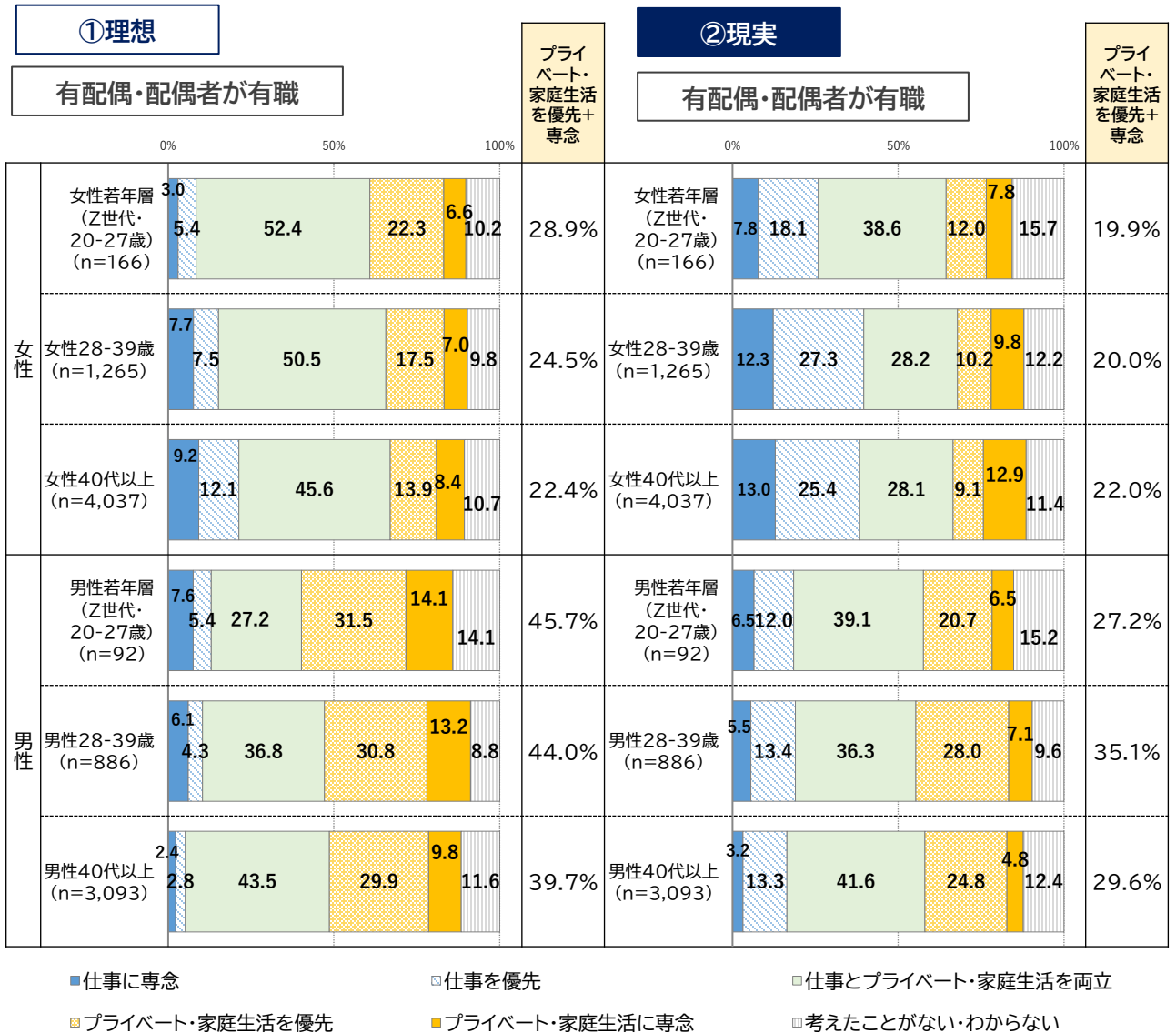
### ②現実



- 仕事に専念
- プライベート・家庭生活を優先
- 仕事を優先
- プライベート・家庭生活に専念
- 仕事とプライベート・家庭生活を両立
- 考えたことがない・わからない

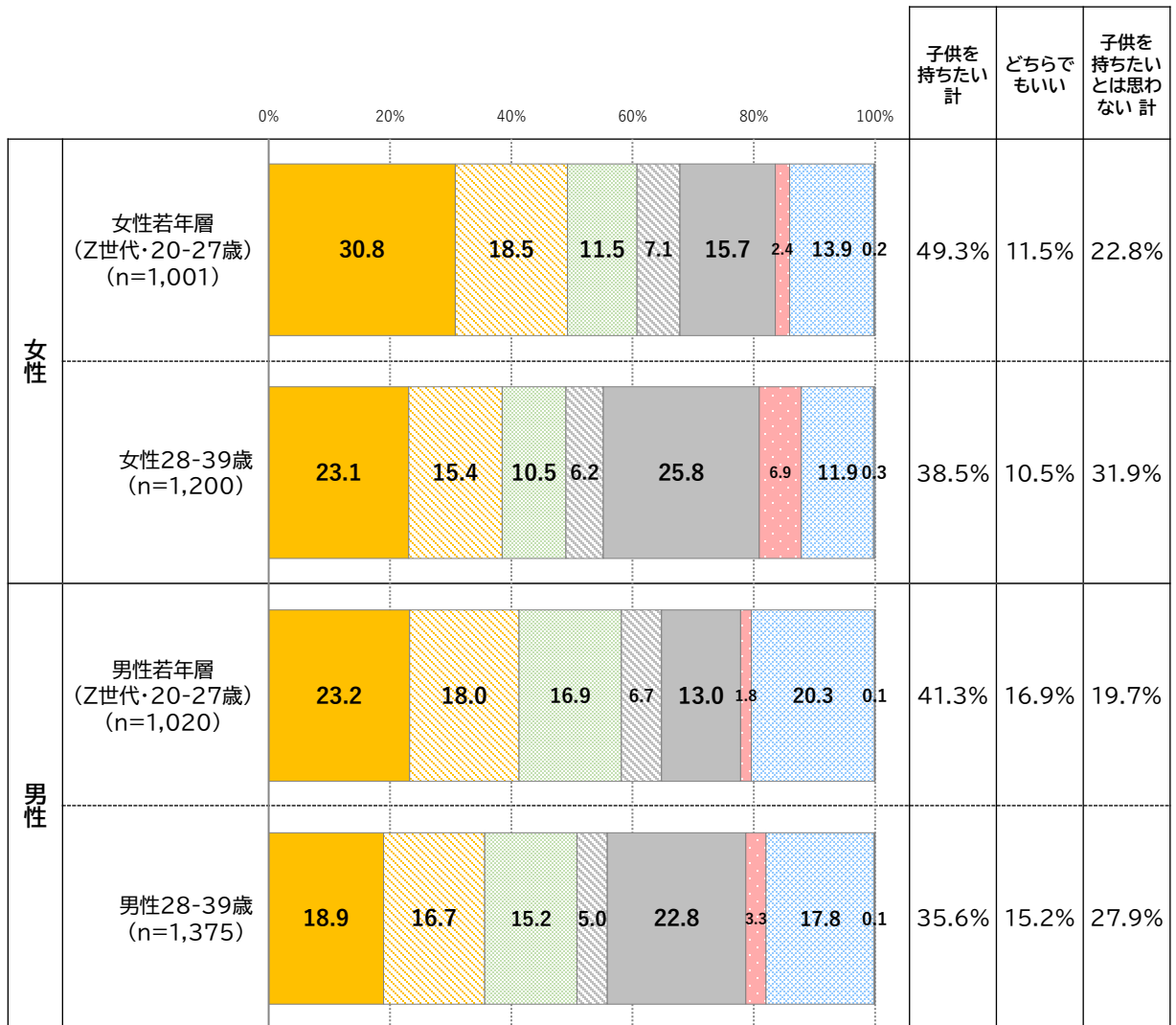
## (6) 配偶者の仕事とプライベート・家庭生活のバランス 理想と現実(配偶者が有職者対象)

- ・配偶者の仕事とプライベート・家庭生活のバランスについてみると、「理想」に比べて「現実」では、男女ともに全ての年代で「仕事に専念+優先」の割合が高い。
- ・「理想」においては、女性では全ての年代で「仕事とプライベート・家庭生活を両立」が最も高いが、「プライベート・家庭生活を優先+専念」は若い年代ほど高くなり、「若年層」では28.9%。一方、「仕事に専念+優先」は上の年代ほど高い。男性でも同様に、「プライベート・家庭生活を優先+専念」は若い年代ほど高く、「若年層」では45.7%。一方、「仕事に専念+優先」も、若い年代ほど高い。上の年代ほど「仕事とプライベート・家庭生活を両立」が高く、「40代以上」では43.5%。
- ・「現実」においては、女性では「仕事に専念+優先」の割合は、「若年層」と「28-39歳」「40代以上」で差があり、「若年層」では25.9%と、上の年代に比べて10%ポイント以上低い。一方「仕事とプライベート・家庭生活を両立」の割合は、「若年層」で38.6%と上の年代に比べて10%ポイント以上高い。男性では年代による差はそこまで大きくない。
- ・男女で比較すると、「理想」では「若年層」「28-39歳」においては、女性の方が「仕事とプライベート・家庭生活を両立」を望む割合が高く、男性の方が「プライベート・家庭生活を優先」を望む割合が高い。「現実」では、「仕事に専念+優先」の割合が、「若年層」では男女間で差はあまりないが、上の年代では20%ポイント以上「女性」の方が高い。



## (7) 今後、子供を持ちたいと思うか(子供を持ったことがない人対象)

- ・女性は、「若年層」では「子供を持ちたい(計)」が49.3%と、「子供を持ちたいと思わない(計)」22.8%を上回る。「28-39歳」と比べると、「子供を持ちたい(計)」は「若年層」の方が10%ポイント高い。
- ・男性は、「若年層」では「子供を持ちたい(計)」が41.3%と、「子供を持ちたいと思わない(計)」19.7%を上回る。「28-39歳」と比べると、「子供を持ちたい(計)」は「若年層」の方が高いが、女性ほどの差はない。



- 子供を持ちたいと思う
- ▨ 出来れば子供を持ちたいと思う
- ▨ どちらでもいいと思う
- あまり子供を持ちたいとは思わない
- 子供を持ちたいとは思わない
- 妊娠中である・既に子供を持つ予定がある
- まだわからない・考えたことがない
- その他

※子供を持ちたい(計) = 子供を持ちたいと思う + 出来れば子供を持ちたいと思う  
 ※子供を持ちたいとは思わない(計) = 子供を持ちたいとは思わない + あまり子供を持ちたいとは思わない

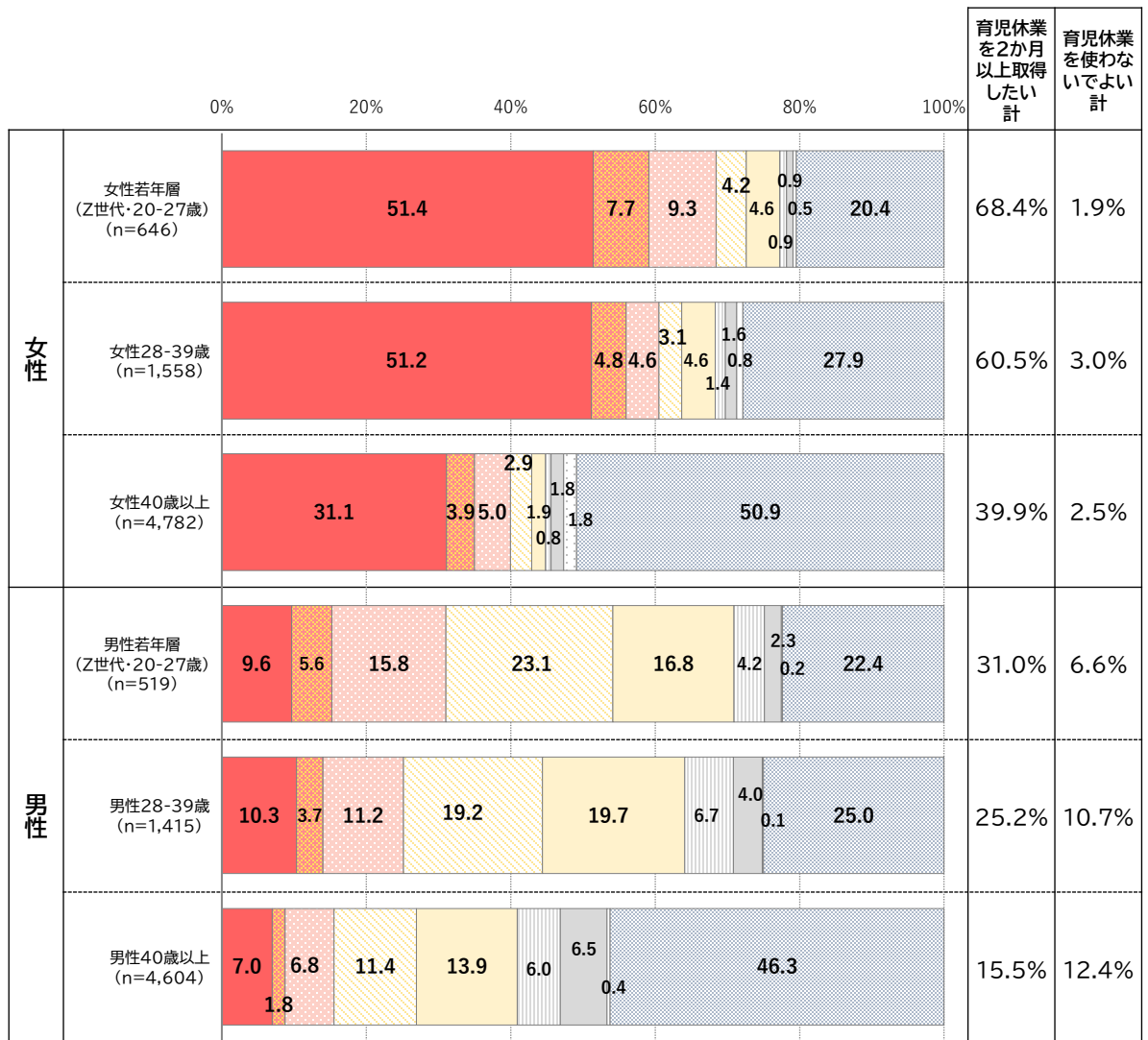
## (8) 育児休業取得(第1子が生まれてから、子供が0~3歳の頃)の希望

(子供がいる・子供を持ったことがある人、もしくは子供を持ったことがないが持ちたい人(妊娠中も含む)が対象)

・女性においては、「若年層」「28-39歳」では「育児休業を半年以上取得したい」が5割で最も高い。一方、40代以上では、「覚えていない・特に希望はない・なかった」が5割と高いが、育児休業取得希望の項目の中では「半年以上取得したい」が最も高い。また、若い年代ほど「2か月以上取得したい」が高く、「若年層」では68.4%となっている。

・男性においては、「若年層」では「育児休業を1か月程度取得したい」が23.1%と最も高く、「28-39歳」では「覚えていない・特に希望はない」が25.0%、育児休業取得希望の項目の中では「育児休業を数日間取得したい」「1か月程度取得したい」がどちらも19%程度となっている。「40歳以上」では「覚えていない・特に希望はない」が46.3%と最も高い。「2か月以上取得したい」計で見ると、若い年代ほど高く、「若年層」では31.0%となっている。

・男女で比較すると、女性では取得希望の期間においては「半年以上」が最も高いが、男性では「若年層」で「1か月程度」、それより上の年代では「数日間」希望が最も高く、差が大きい。



- 育児休業を半年以上取得したい
- 育児休業を4-5か月(半年未満)取得したい
- 育児休業を2-3か月取得したい
- 育児休業を1か月程度取得したい
- 育児休業を数日間取得したい
- 育児休業を使わず、有給休暇を数日間取得したい
- 育児休業も有給休暇も使わず、休まないでよい
- その他
- 覚えていない・特に希望はない・なかった

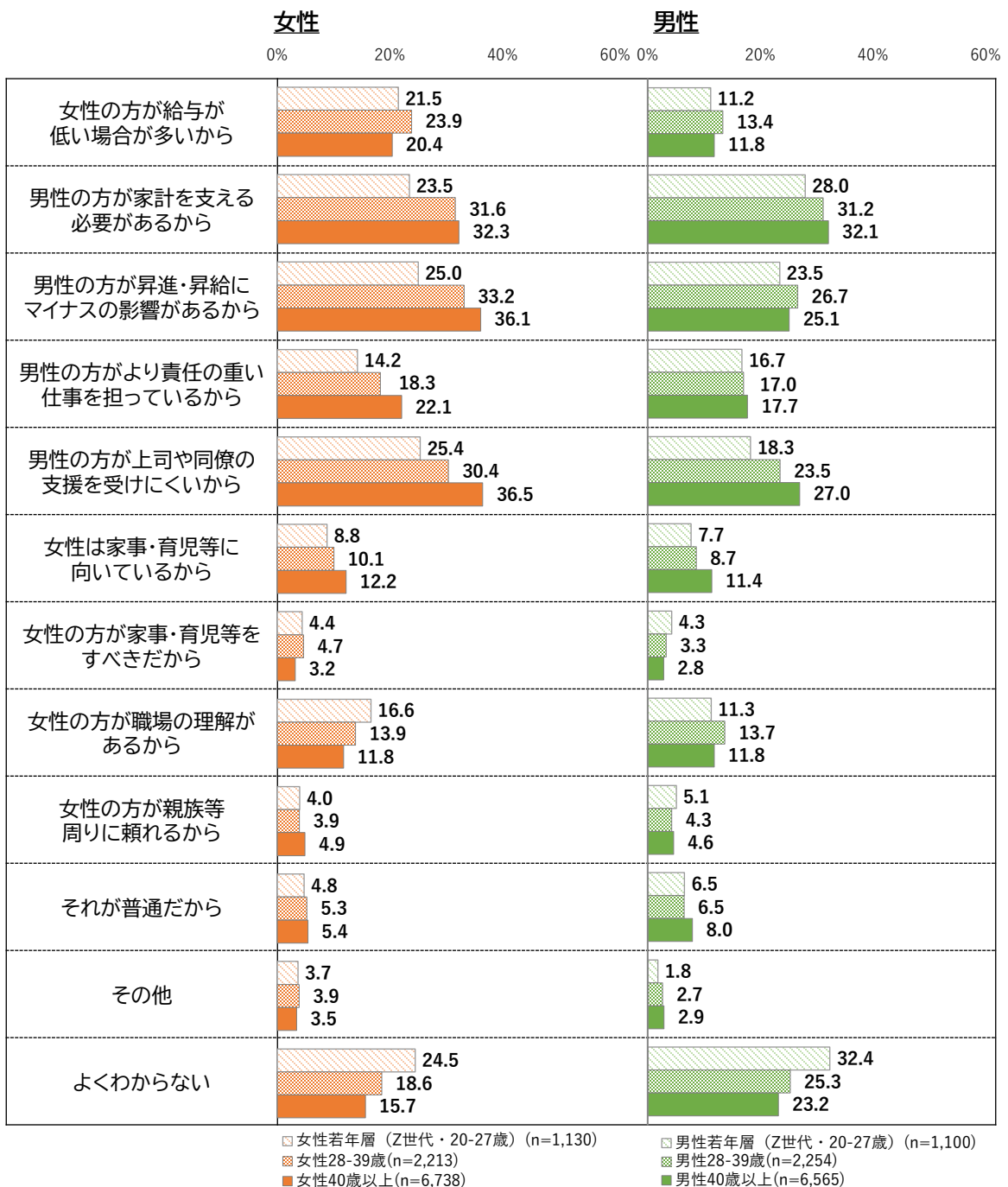
※育児休業を2か月以上取得したい(計) = 育児休業を半年以上取得したい + 育児休業を4-5か月(半年未満)取得したい + 育児休業を2-3か月取得したい  
 ※育児休業を使わないでよい(計) = 育児休業を使わず、有給休暇を数日間取得したい + 育児休業も有給休暇も使わず、休まないでよい



## (9) 男性の育児休業取得率が女性に比べて低い理由

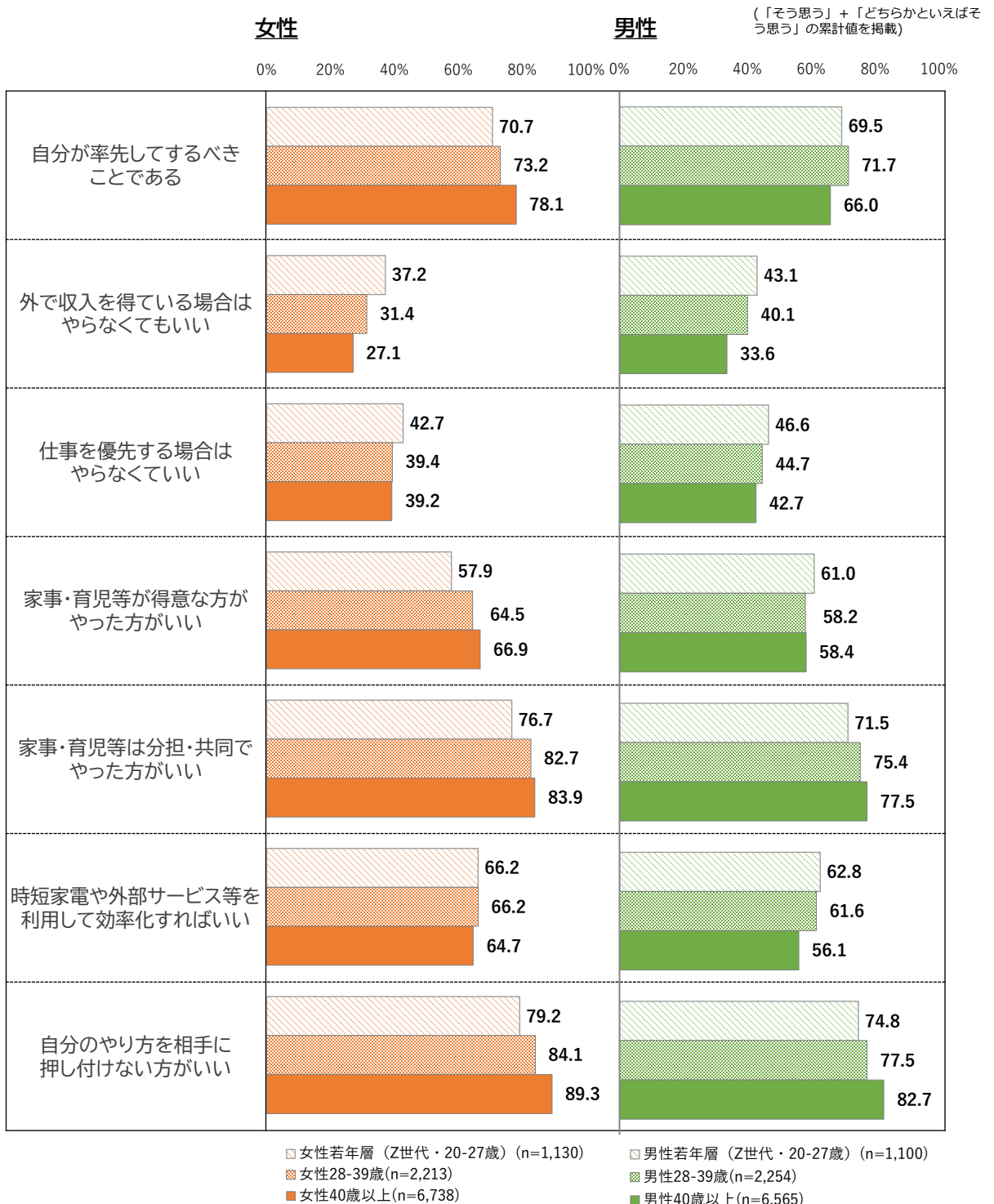
・年代別に見てみると、男女ともに上の年代ほど「男性の方が上司や同僚の支援を受けにくいから」が高い。また、「男性の方が家計を支える必要があるから」は、女性では「若年層」と「28-39歳」以上でやや差があり、「若年層」の方が低い。また、女性では上の年代ほど「男性の方がより責任の重い仕事を担っているから」「男性の方が昇進・昇給にマイナスの影響があるから」等が高くなる。一方、「女性の方が職場の理解があるから」は若い年代ほど高い。

・同年代の男女で比較すると、「女性の方が給与が低い場合が多いから」については、「若年層」「28-39歳」において10%ポイント以上女性の方が高い。「男性の方が昇進・昇給にマイナスの影響があるから」は、「40歳以上」では女性で36.1%、男性で25.1%と差が大きいが、若い年代では男女差が小さく、「若年層」では女性で25.0%、男性で23.5%と同程度。



## (10) 家事・育児等への考え方

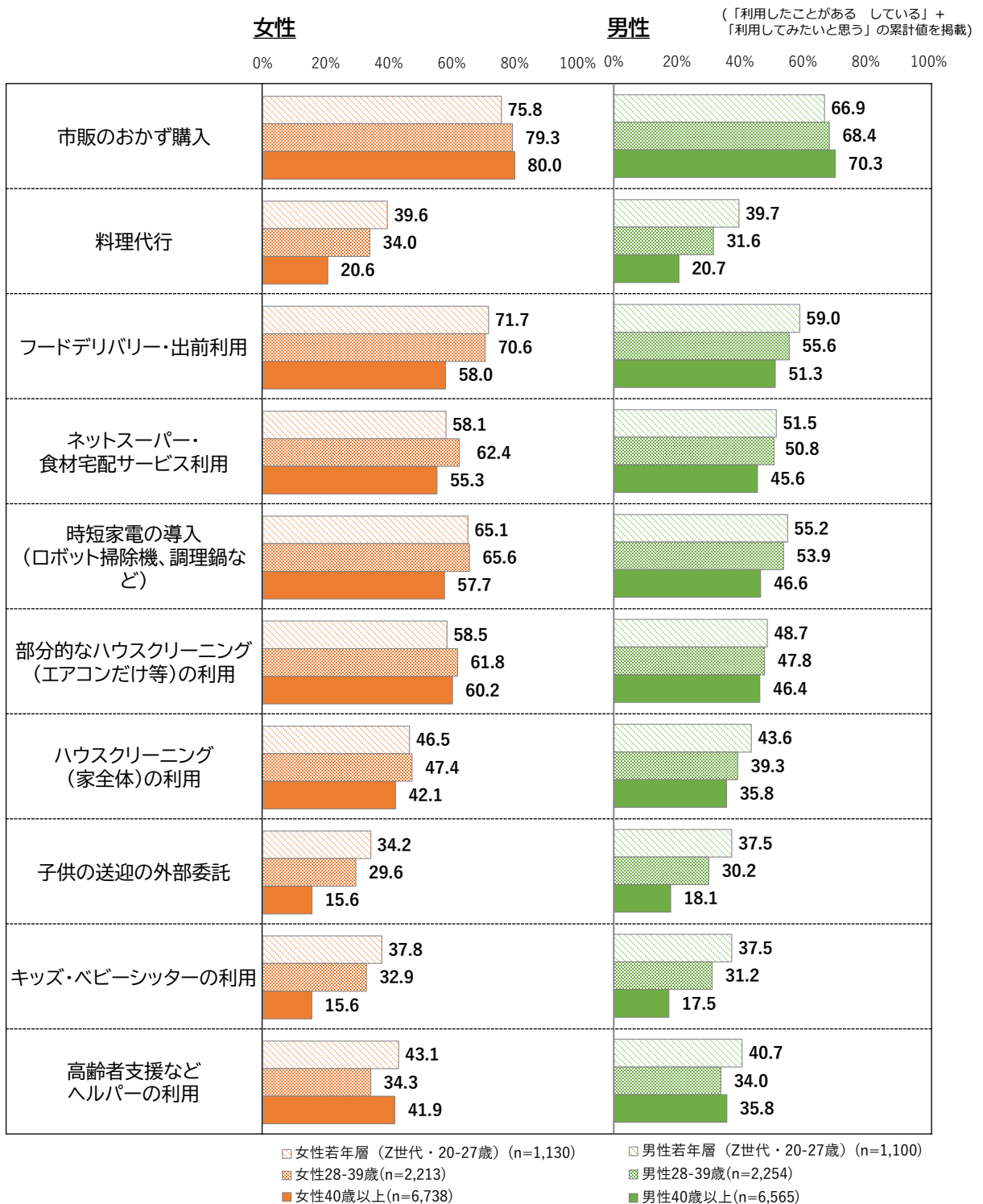
- ・家事・育児等への考え方について「そう思う」+「どちらかといえばそう思う」の累計値で見ると、年代別では、男女ともに若い年代ほど男女差が小さく、「若年層」では男女で10%ポイント以上差がある項目はない。
- ・「自分が率先してすべきことである」は、「40歳以上」では女性の方が10%ポイント以上高いが、「若年層」「28-39歳」では男女差は小さい。また、「外で収入を得ている場合はやらなくてもいい」は、若年層では男女ともに4割程度と高い。「時短家電や外部サービス等を利用して効率化すればいい」は、男性では「若年層」「28-39歳」と「40歳以上」でやや差が見られた。一方、「自分のやり方を相手に押し付けない方がいい」等は、男女ともに上の年代ほど高い。



## (11) 家事・育児等に関する外部サービスの利用経験・意向

・家事・育児等に関する外部サービスの利用経験、意向について「利用したことがある・している」+「利用してみたいと思う」の累計値で見ると、年代別では、男女ともに若い年代ほど「料理代行」「フードデリバリー・出前利用」「子供の送迎の外部委託」「キッズ・ベビーシッターの利用」などが高く、特に「若年層」では「料理代行」が男女ともに40%程度と高く、「子供の送迎の外部委託」「キッズ・ベビーシッターの利用」についても、男女とも35%以上となっている。

・同年代の男女で比較すると、女性の方が高い項目がほとんどだが、「若年層」ではやや男女差が小さい傾向。

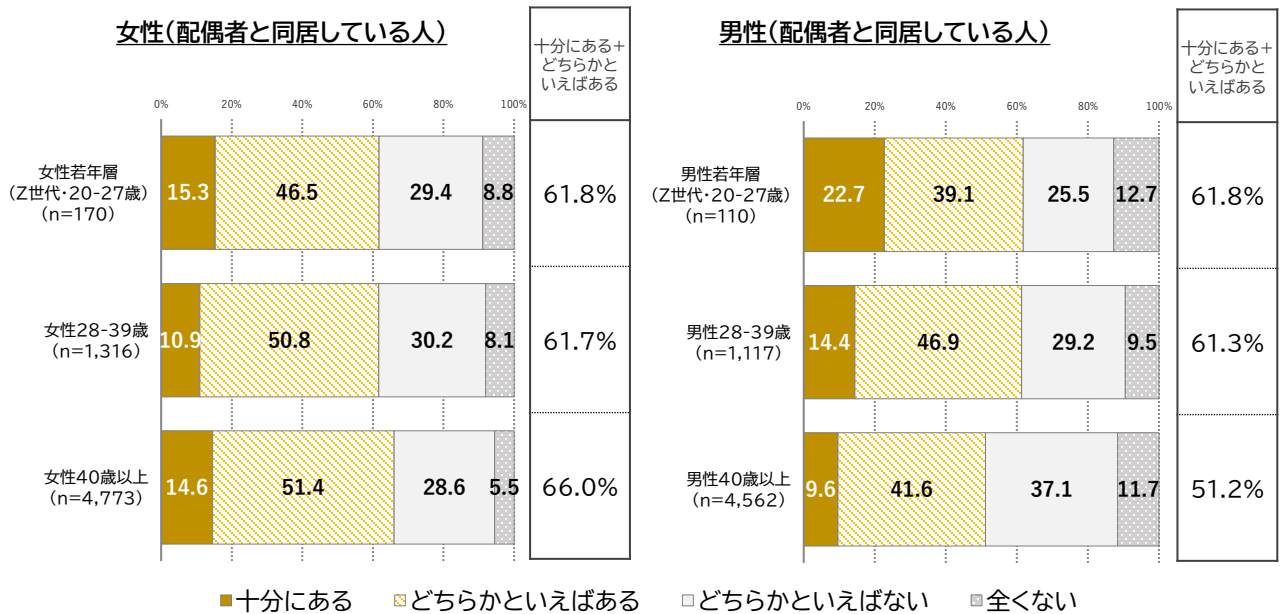


## (12) 自分の家事のスキル(能力)と配偶者の実施する家事への満足度 (配偶者と同居している人が対象)

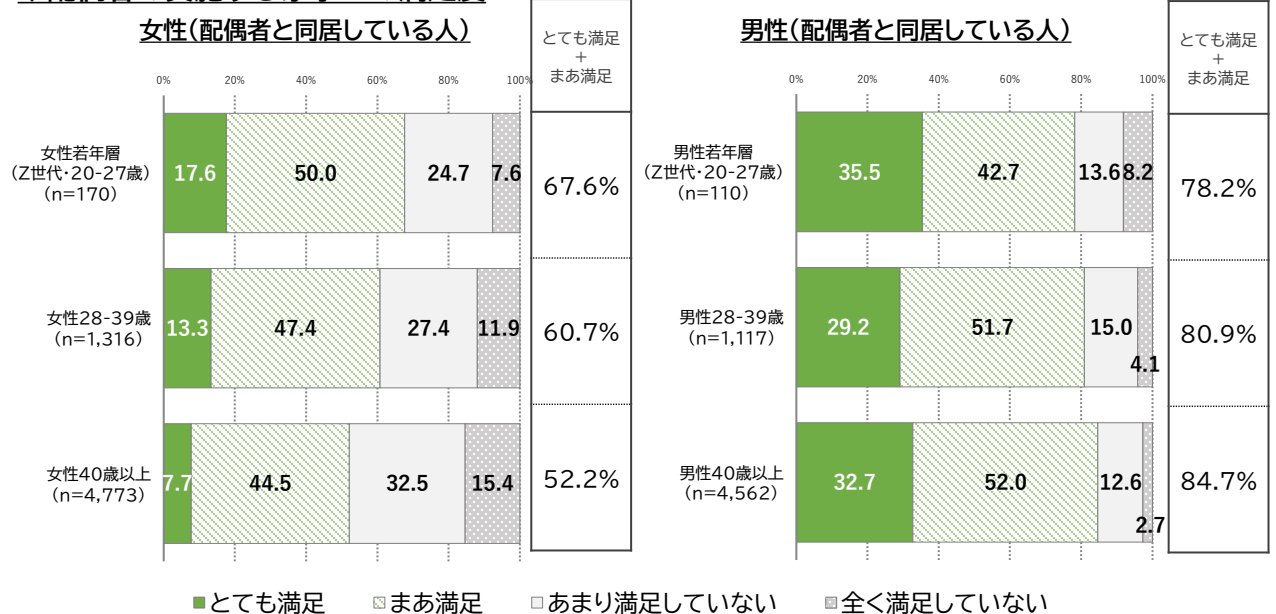
・自分の家事のスキル(能力)について、「十分にある」+「どちらかといえばある」の累計値を見てみると、「若年層」「28-39歳」では、男女ともに61~62%と同程度。一方、「40歳以上」では、女性で66.0%、男性で51.2%と男女で10%ポイント以上差がある。なお、「男性若年層」では、「十分にある」が22.7%と男女全ての年代の中で最も高い。

・配偶者の家事への満足度について、「とても満足+まあ満足」の累計値を見てみると、どの年代でも男性の方が満足度が10%ポイント以上高い。一方、「若年層」では満足度の男女差は10%ポイント程度であるが、「28-39歳」では20%ポイント程度、「40歳以上」では30%ポイント以上と、差が大きくなる。

### ◆自分の家事のスキル(能力)についての評価



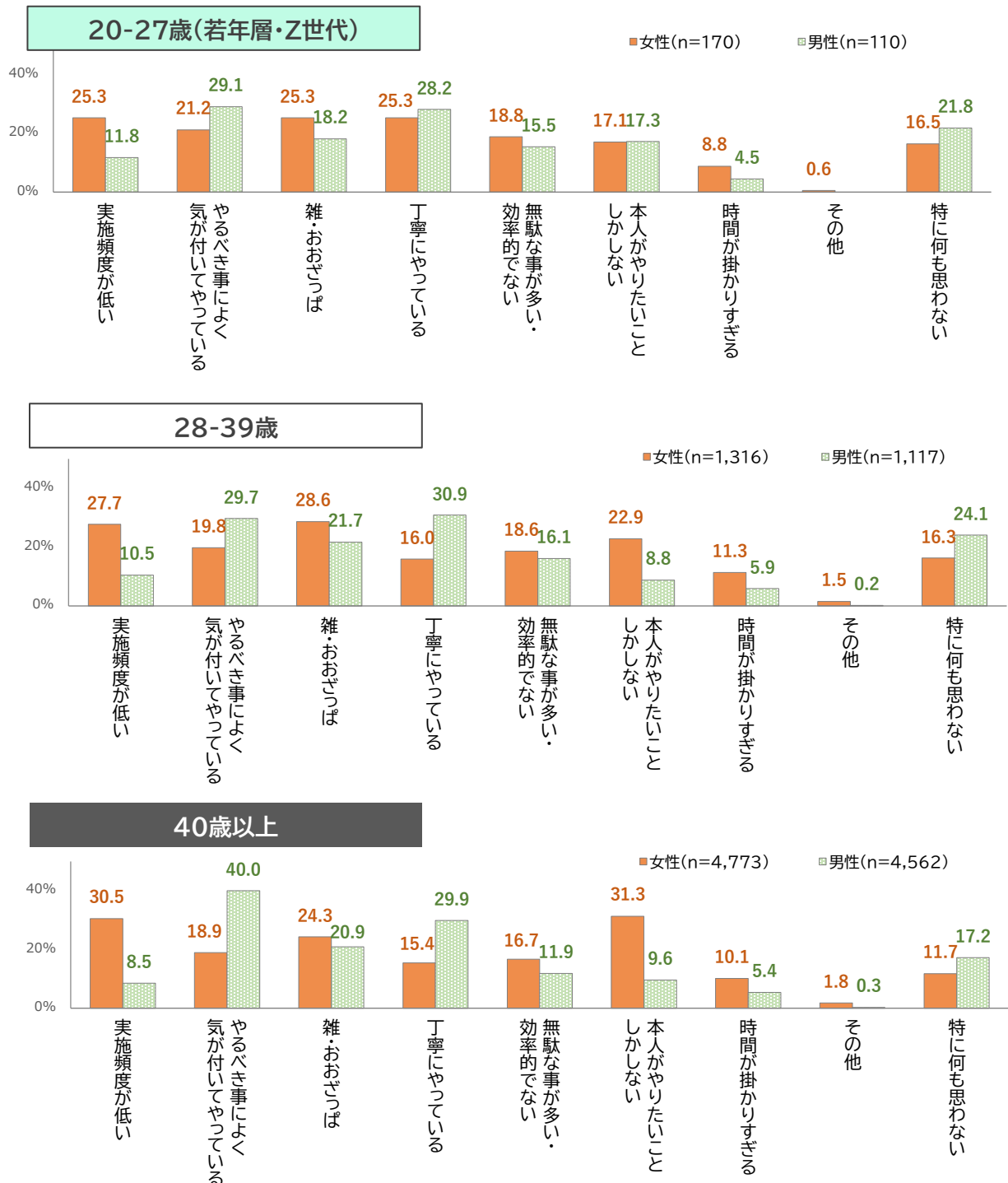
### ◆配偶者の実施する家事への満足度



### (13) 配偶者の実施する家事についてどう感じるか(配偶者と同居している人が対象)

・「若年層」について、男女差が大きい項目をみると「実施頻度が低い」では、女性の方が10%ポイント以上高い。「28-39歳」では、女性の方が「実施頻度が低い」「本人がやりたいことしかやらない」が高く、男性の方が「やるべき事によく気が付いてやっている」「丁寧に行っている」が高い。「40歳以上」でも、「28-39歳」と同様の傾向である。

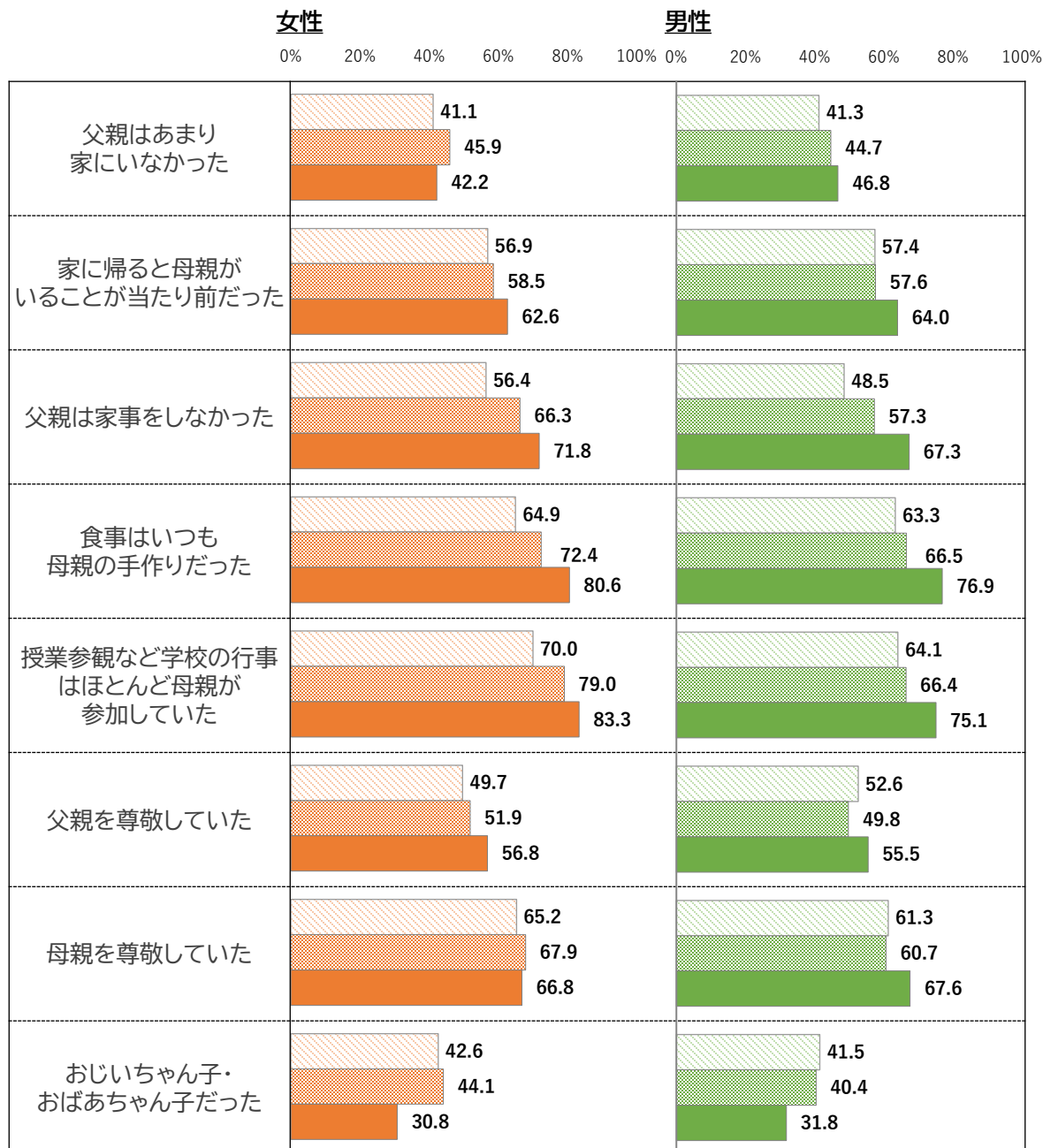
・上の年代で男女差がある項目を、「若年層」で見ると、「本人がやりたいことしかやらない」は男女ともに17%程度、「やるべき事によく気が付いてやっている」は男性で29.1%、女性で21.2%、「丁寧に行っている」は男性で28.2%、女性で25.3%と、上の年代に比べて男女差が小さい。



## (14) 自分の父親・母親等との関係について

・自分の父親、母親等の関係について「当てはまる」+「どちらかといえば当てはまる」の累計値でみると、年代別では、男女ともに「若年層」「28-39歳」では「おじいちゃん子・おばあちゃん子だった」が4割と高く、「40歳以上」と差が大きい。また、上の年代ほど高い項目が多いが、「若年層」と「28-39歳」で比較すると、女性では「父親は家事をしなかった」「食事はいつも母親の手作りだった」「授業参観など学校の行事はほとんど母親が参加していた」について、男性では「父親は家事をしなかった」について「若年層」で10%ポイント程度低い。

(「当てはまる」+「どちらかといえば当てはまる」の累計値を掲載)  
※「答えられない」と回答した人は除外して集計



※対象者数の表示は全数。ただし設問によって集計対象のnが異なる。

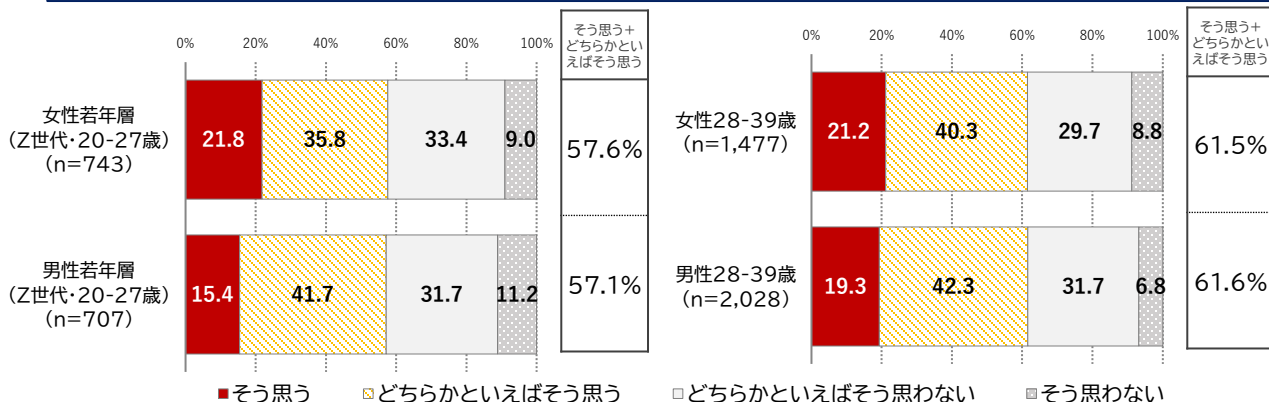
□ 女性若年層 (Z世代・20-27歳) (n=1,130)  
 ■ 女性28-39歳 (n=2,213)  
 ■ 女性40歳以上 (n=6,738)

□ 男性若年層 (Z世代・20-27歳) (n=1,100)  
 ■ 男性28-39歳 (n=2,254)  
 ■ 男性40歳以上 (n=6,565)

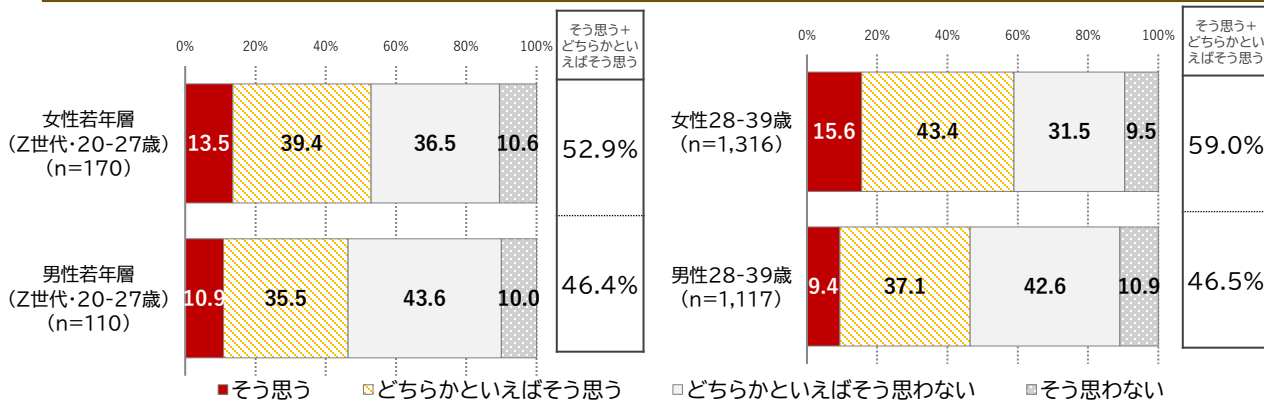
## (15) 自分のストレスや責任などについての考え方

- ・有職者における「仕事のストレス」について比較すると(ストレスが大きい/責任があるについて「そう思う」+「どちらかといえばそう思う」の累計値、以下同様)、「若年層」「28-39歳」のどちらも、男女とも約6割と同程度。
- ・配偶者と同居している人の「家事・育児のストレス」を比較すると、「若年層」では、女性で52.9%、男性で46.4%と、女性の方が高いが10%ポイント以上の差はない。一方、「28-39歳」では、女性で59.0%、男性で46.5%と、女性の方が10%ポイント以上高くなっている。
- ・有配偶における「家計を支える責任」について比較すると、「若年層」「20-39歳」のどちらも、女性で4割強、男性で7割強となっている。

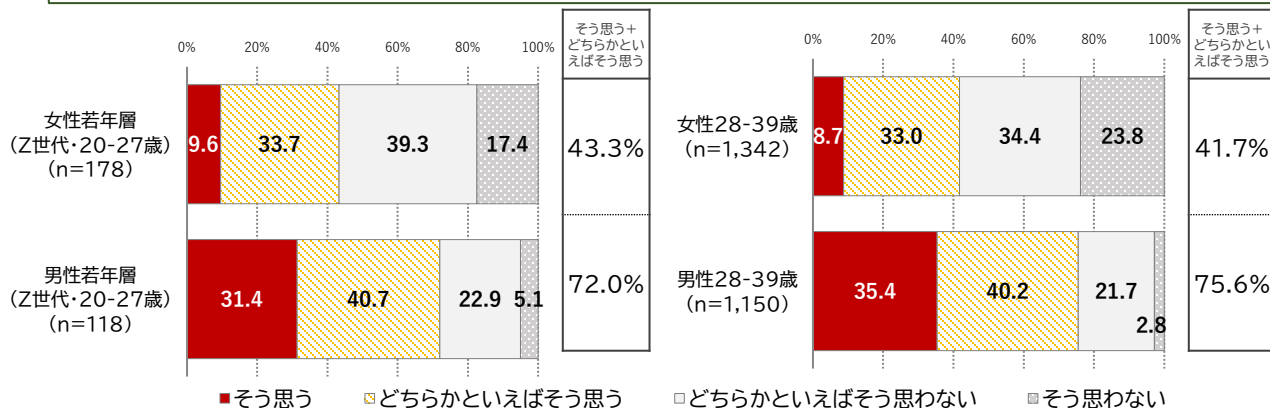
### 私は仕事のストレスが大きい ※有職者が対象



### 家事・育児のストレスが大きい ※配偶者と同居している人が対象



### 私には家計を支える責任がある ※有配偶が対象



## (16) 自分と配偶者の「家計を支える責任」についての考え方(有配偶者が対象)

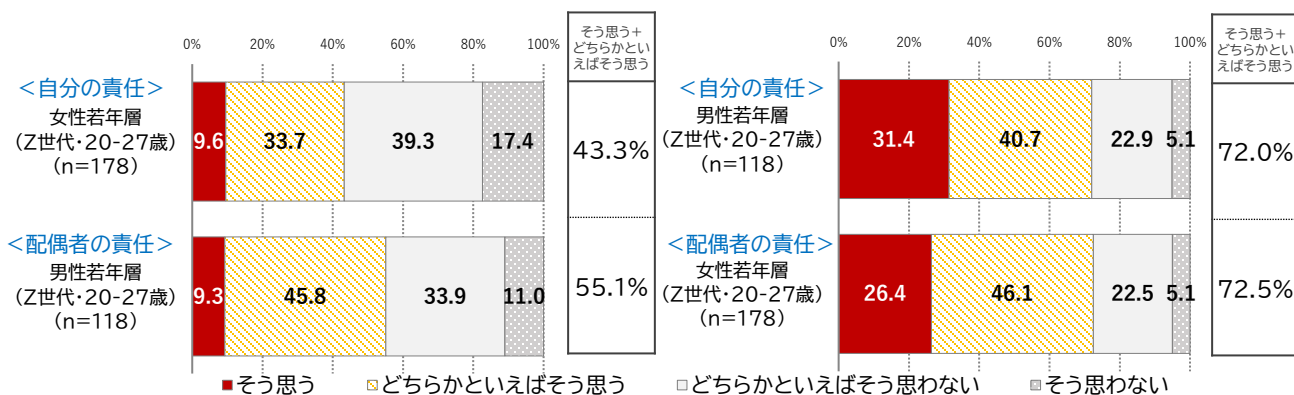
・「若年層」「28-39歳」における「家計を支える責任」について、自分が感じる責任と、配偶者に対して考えている責任を比較したものが下記である。

・「若年層女性」が自分に「家計を支える責任がある」と考える割合(43.3%)に対して、「若年層男性」が配偶者に「家計を支える責任がある」と考える割合は55.1%と、10%ポイント以上高い。一方、「若年層男性」が考える自分の責任(72.0%)に対して、「若年層女性」が考える配偶者の責任は72.5%と、同程度となっている。

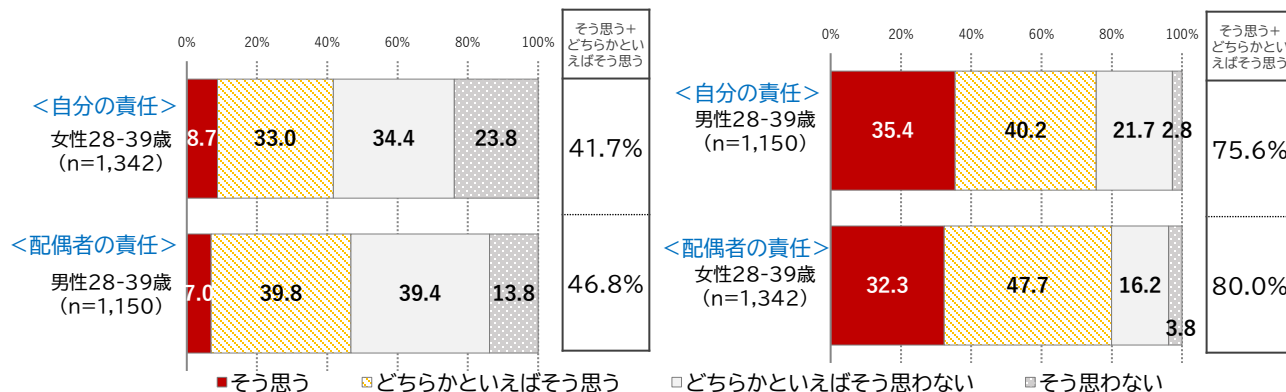
・「28-39歳」においては、女性が考える自分の責任(41.7%)に対して男性の考える配偶者の責任は46.8%と、「若年層」よりは男女差が小さい。なお、男性が考える自分の責任は75.6%、女性が考える配偶者の責任は80.0%となっている。

・2つの年代で比較すると、男性が考える配偶者の責任は、「若年層」の方が高い。一方、女性が考える配偶者の責任は、「若年層」の方が低い。

### 20-27歳(若年層・Z世代)



### 28-39歳



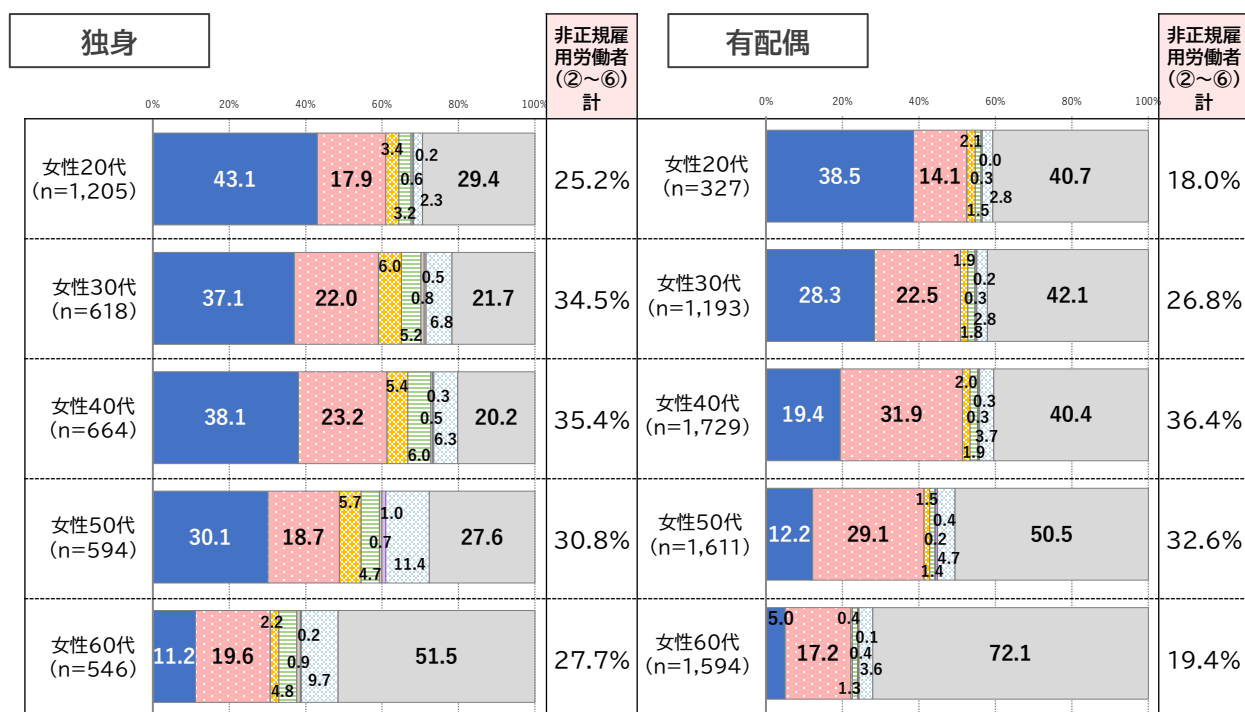
※カップル調査ではないことに留意が必要。



## 2. 非正規雇用労働者を取り巻く状況

### (1) 女性非正規雇用労働者の年代別割合(配偶状況別)

- ・女性の非正規雇用労働者についての傾向を分析する。
- ・年代ごとの「非正規雇用労働者」の割合について、配偶状況別に見てみると、独身では「40代」で35.4%、「30代」で34.5%と、他の年代に比べてやや高い。有配偶では「40代」が36.4%と最も高い。
- ・「非正規雇用労働者」の内訳について、配偶状況別で比較すると、40代より上の年代では有配偶の方が「パート・アルバイト」の割合が10%ポイント程度高く、独身の方がパート・アルバイト以外の非正規雇用(派遣社員・契約社員など)の割合が高い。



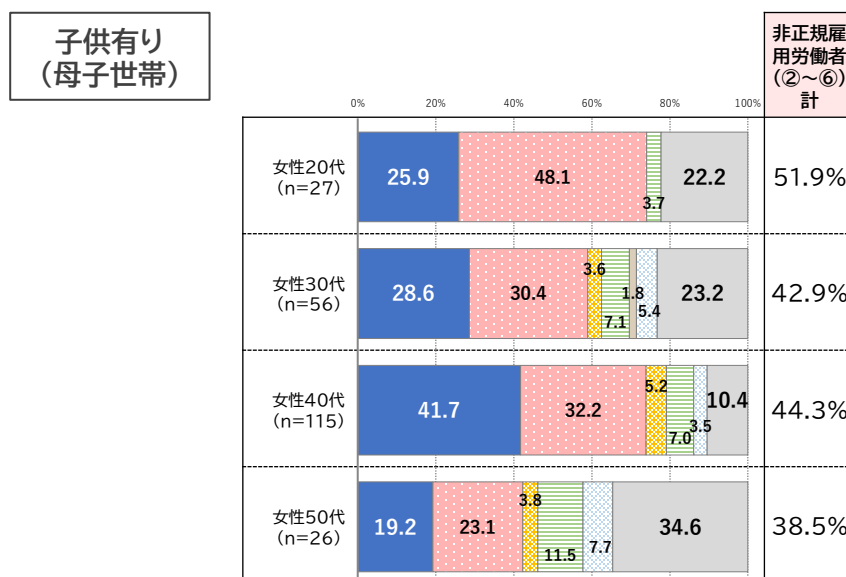
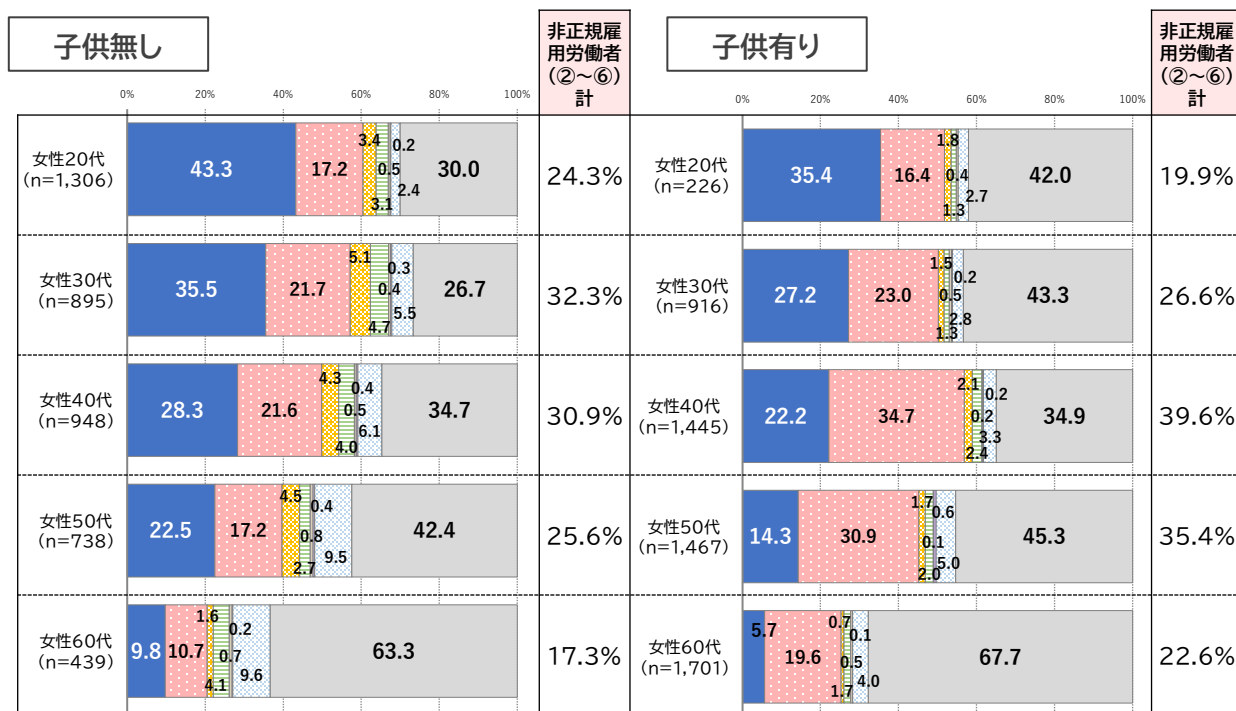
- ①正規雇用労働者
- ②パート・アルバイト
- ③労働派遣事業所の派遣社員
- ④契約社員
- ⑤嘱託
- ⑥その他の形で雇用されている
- ⑦仕事をしている/その他
- ⑧仕事をしていない(主婦・学生等も含む)

# (1) 女性非正規雇用労働者の年代別割合(子供の有無別)

・「非正規雇用労働者」の割合について、年代・子供の有無別に見てみると、子供無しでは「30代」で32.3%、「40代」で30.9%と高い。子供有りでは「40代」で39.6%と全ての年代で最も高い。

・「非正規雇用労働者」の内訳をみると、40代より上の年代では子供有りにおいては「パート・アルバイト」の割合が10%ポイント程度高く、独身の方がパート・アルバイト以外の非正規雇用労働者(派遣社員・契約社員など)の割合が高い。

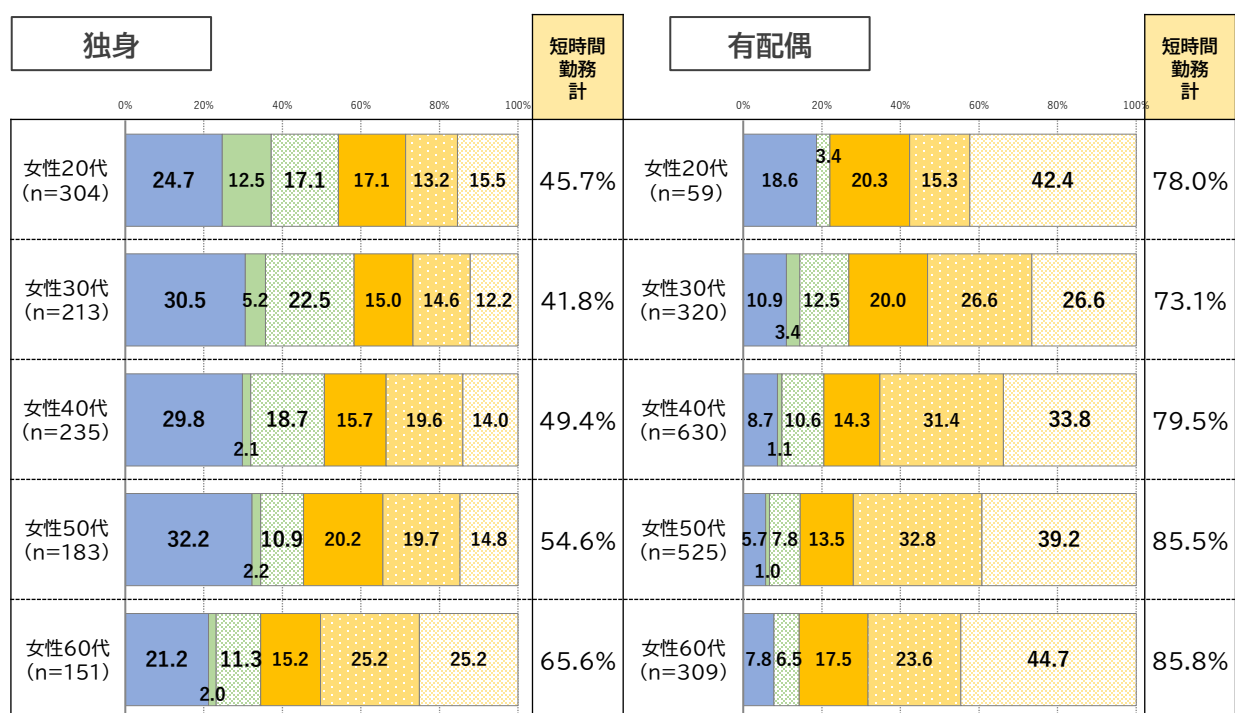
・子供有り(母子世帯)においては、20~30代で「子供有り(全体)20~30代」と比較すると、非正規雇用労働者の割合が15~30%ポイント程度高い。一方、40代で見ると、「子供有り(母子世帯)」では正規雇用労働者が41.7%と、「子供有り(全体)40代」22.2%に対して20%ポイント程度高い。



- ①正規雇用労働者
- ②パート・アルバイト
- ③労働派遣事業所の派遣社員
- ④契約社員
- ⑤嘱託
- ⑥その他の形で雇用されている
- ⑦仕事をしている/その他
- ⑧仕事をしていない(主婦・学生等含む)

## (2) 女性非正規雇用労働者の勤務形態(勤務時間)(配偶状況別)

- ・非正規雇用労働者における勤務形態(勤務時間)について、配偶状況別に見てみると、いずれの年代でも「有配偶」の方が、「短時間勤務」の割合が20%ポイント以上高い。特に20～50代では30%ポイント以上の差が見られた。
- ・非正規雇用労働者の内訳をみると、「独身」においては、全ての年代で「フルタイム」が2割以上となっているが、「有配偶」では20代では18.6%と2割に近いものの、30代で10.9%、40代では8.7%となっている。
- ・「短時間勤務」を勤務時間別にみると、「有配偶」においては全ての年代で、「週20時間未満」の割合が最も高くなっている。

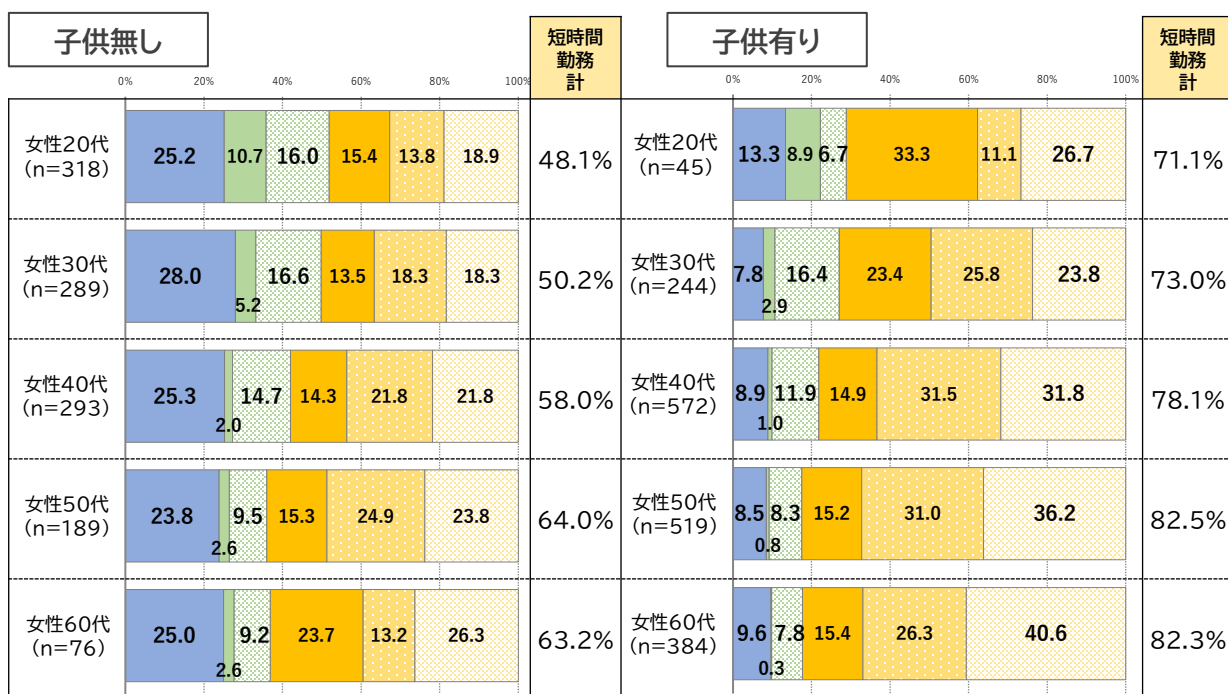


- フルタイム
- 時間を調整・融通がきく仕事で週64時間を超える仕事
- 時間を調整・融通がきく仕事で週64時間以下の仕事
- 短時間勤務(週30時間以上40時間未満)
- 短時間勤務(週20時間以上30時間未満)
- 短時間勤務(週20時間未満)

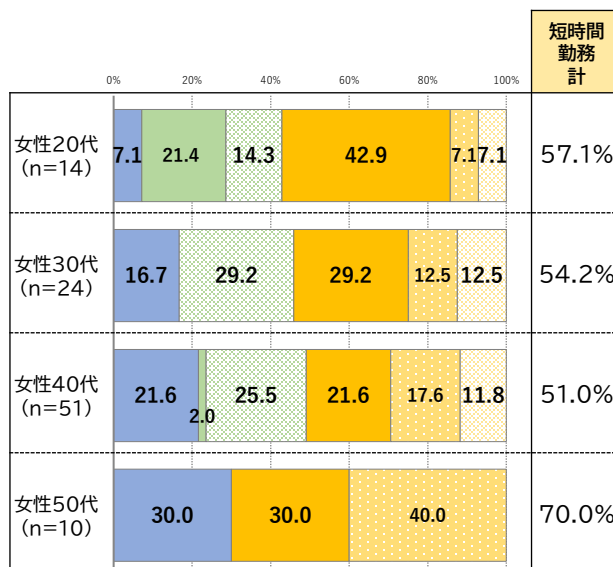
※短時間勤務(計)=短時間勤務(週30時間以上40時間未満) + (週20時間以上30時間未満) + (週20時間未満) の計

## (2) 女性非正規雇用労働者の勤務形態(勤務時間)(子供の有無別)

- ・非正規雇用労働者における勤務形態(勤務時間)について、子供の有無別に見てみると、いずれの年代でも「子供有り」の方が、「短時間勤務」の割合が20%ポイント程度高い。
- ・非正規雇用労働者の内訳をみると、「子供無し」においては、全ての年代で「フルタイム」が2割以上となっているが、「子供有り」では20代でも13.3%、30代以上ではいずれも1割を切っている。
- ・20～30代の「子供有り(母子世帯)」においては、「子供有り(全体)20～30代」と比較すると、「短時間勤務」の割合が10%ポイント以上低い。40代で見ると、「子供有り(母子世帯)」では「短時間勤務」が51.0%と、「子供有り(全体)40代」(78.1%)よりも30%ポイント近く低く、「フルタイム」や、「時間を調整・融通がきく仕事」の割合が高い。



### 子供有り (母子世帯)

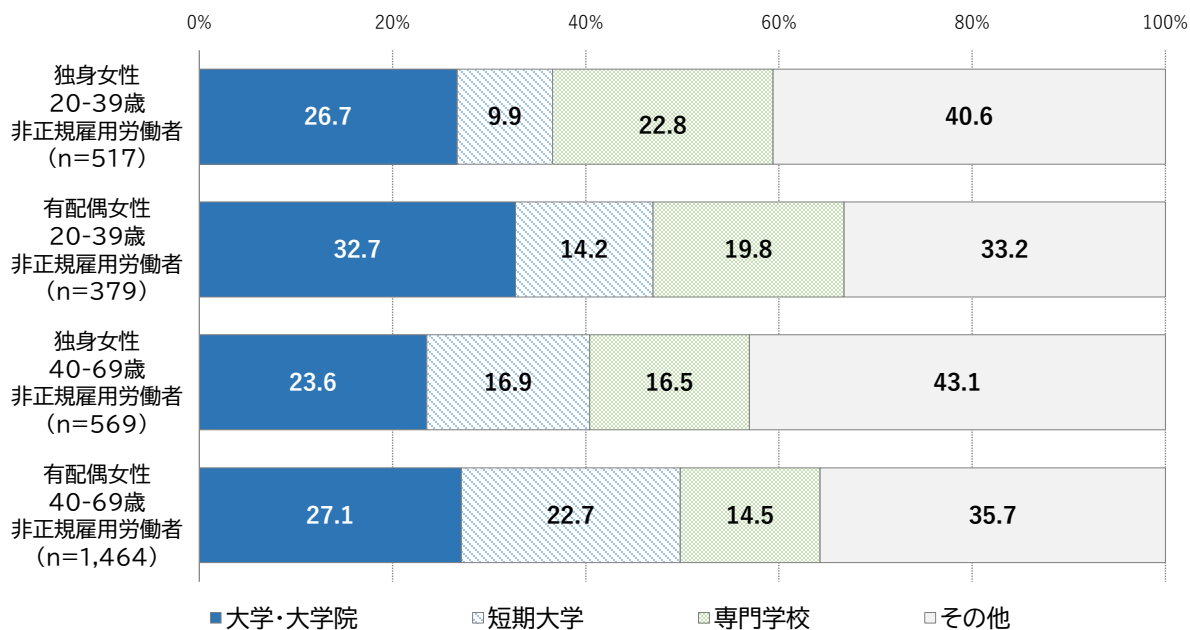


※短時間勤務(計)=短時間勤務(週30時間以上40時間未満) + (週20時間以上30時間未満) + (週20時間未満) の計

- フルタイム
- 時間を調整・融通がきく仕事で週64時間以下の仕事
- 時間を調整・融通がきく仕事で週64時間を超える仕事
- 短時間勤務(週20時間以上30時間未満)
- 短時間勤務(週30時間以上40時間未満)
- 短時間勤務(週20時間未満)

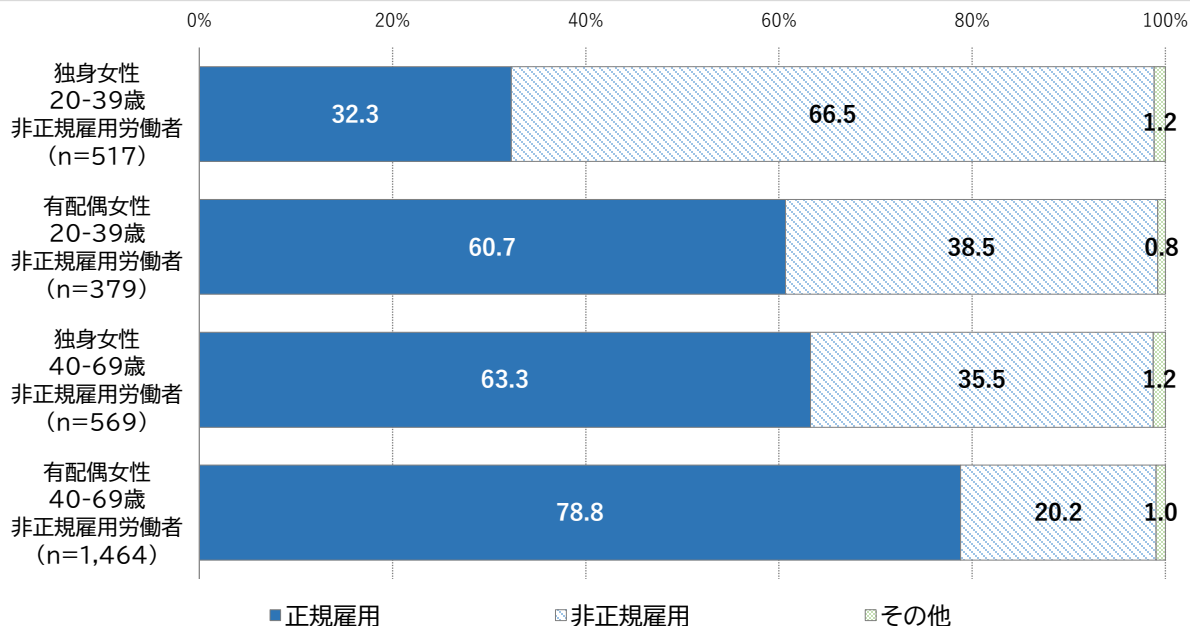
### (3) 女性非正規雇用労働者の最終学歴(配偶状況別)

・非正規雇用労働者の最終学歴について、年代・配偶状況別に見てみると、どちらの年代でも「大学・大学院+短期大学」の割合は、「有配偶」の方が10%ポイント程度高い。「大学・大学院卒」の割合が最も高いのは、「有配偶20-39歳」で32.7%となっている。



### (4) 女性非正規雇用労働者の初職の状況(配偶状況別)

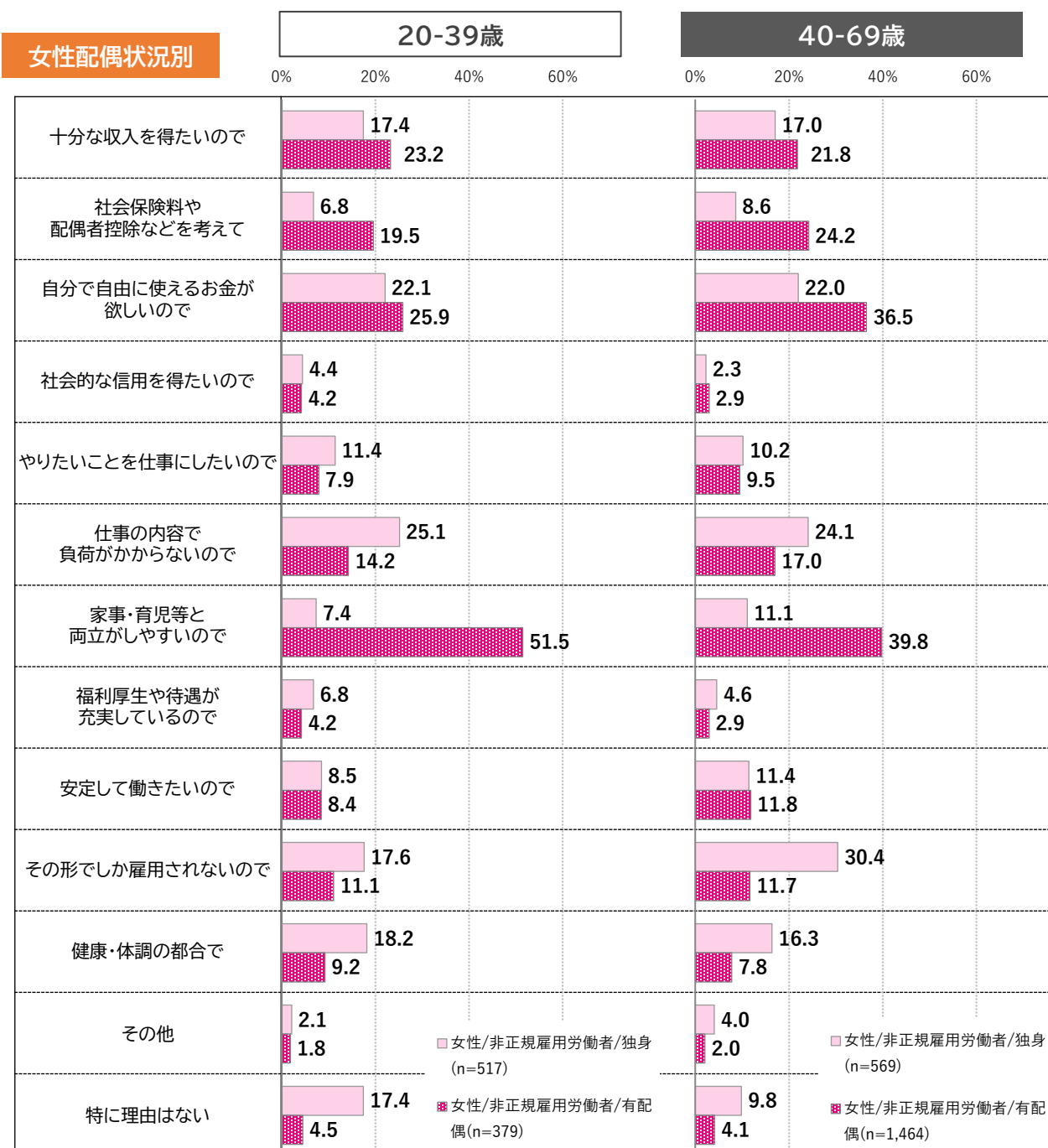
・非正規雇用労働者の初職の状況を見てみると、「(初職が)正規雇用」が最も高いのは、「有配偶40-69歳」で78.8%。配偶状況別で比較すると、どちらの年代でも、「(初職が)正規雇用」の割合は、「有配偶」の方が高く、特に「20-39歳」の若い年代では30%ポイント以上差がある。



## (5) 女性非正規雇用労働者の現在の職業・雇用形態で働いている理由(配偶状況別)

・現在の職業・雇用形態で働いている理由について配偶状況別に見てみると、20-39歳では、独身で「仕事の内容で負荷がかからないので」25.1%、「自分で自由に使えるお金が欲しいので」22.1%が高い。一方、有配偶では「家事・育児等と両立がしやすいので」51.5%が顕著に高く、独身と比べると40%ポイント以上の差がある。独身の方が「仕事の内容で負荷がかからないので」「健康・体調の都合で」が10%ポイント近く高く、有配偶の方が「社会保険料や配偶者控除などを考えて」が10%ポイント以上高い。

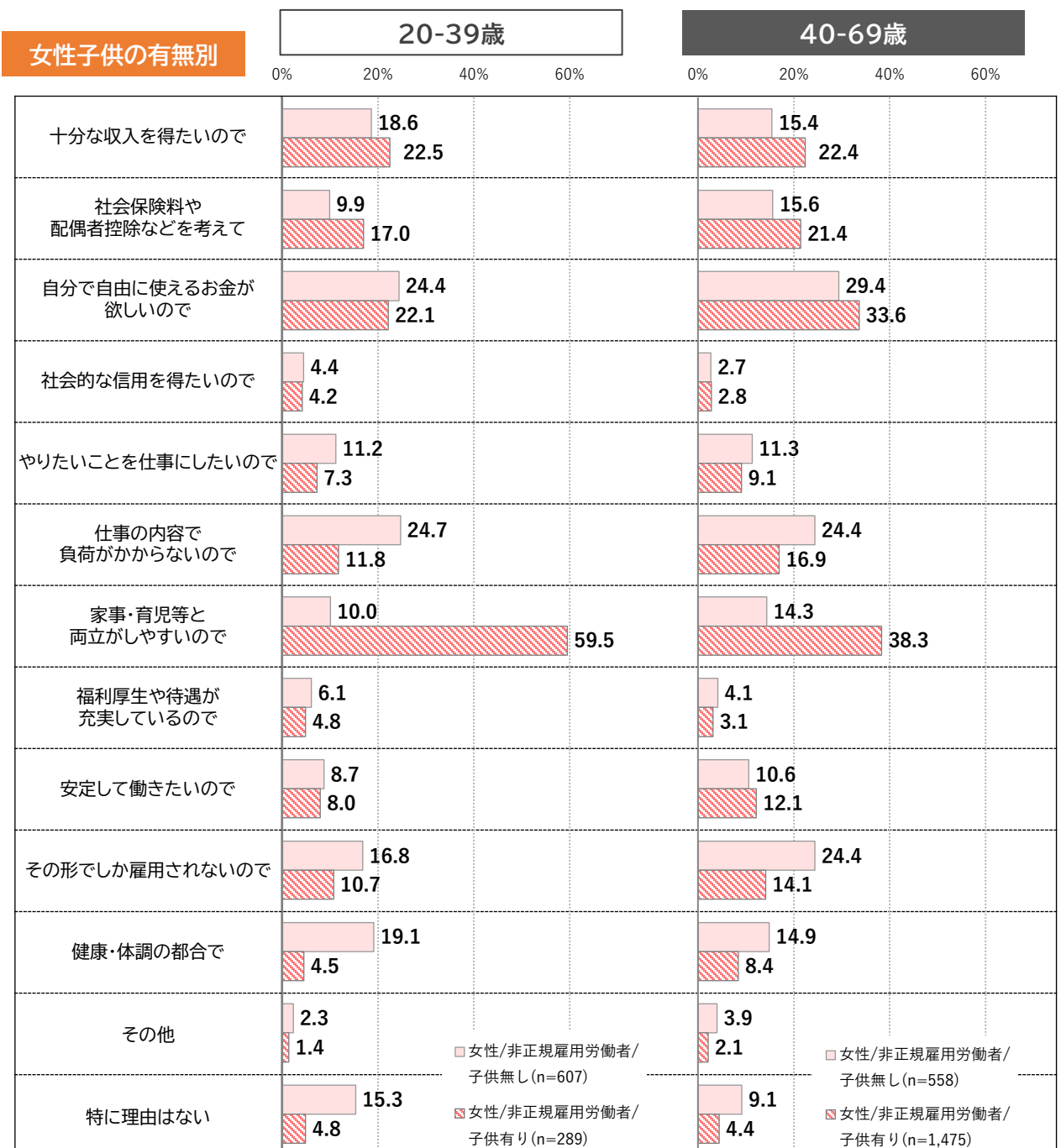
・40-69歳で見ると、独身では「その形でしか雇用されないの」30.4%が最も高く、次に「仕事の内容で負荷がかからないの」24.1%、「自分で自由に使えるお金が欲しいので」22.0%が続く。一方、有配偶では「家事・育児等と両立がしやすいので」39.8%が最も高く、独身と比べると30%ポイント近く差がある。独身の方が「その形でしか雇用されないの」が10%ポイント以上高く、有配偶の方が「社会保険料や配偶者控除などを考えて」「自分で自由に使えるお金が欲しいので」が10%ポイント以上高い。



## (5) 女性非正規雇用労働者の現在の職業・雇用形態で働いている理由(子供の有無別)

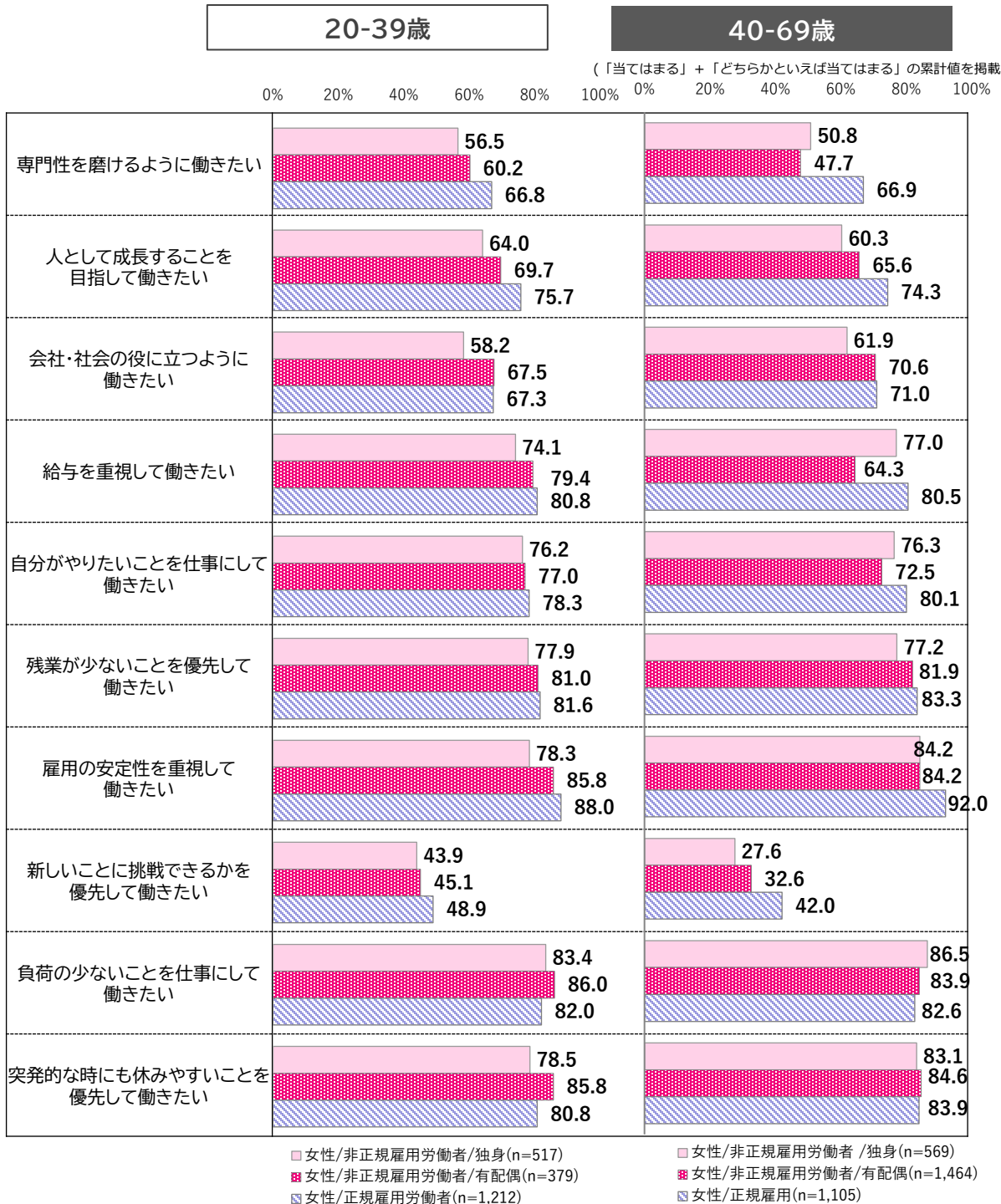
・現在の職業・雇用形態で働いている理由について子供の有無別に見てみると、20-39歳では、子供無しでは「仕事の内容で負荷がかからないので」24.7%、「自分で自由に使えるお金が欲しいので」24.4%が高い。一方、子供有りでは「家事・育児等と両立がしやすいので」59.5%が顕著に高く、子供無しと比べると50%ポイント近い差がある。子供無しの方が「仕事の内容で負荷がかからないので」「健康・体調の都合で」が10%ポイント以上高い。

・40-69歳で見ると、子供無しでは「自分で自由に使えるお金が欲しいので」29.4%が最も高く、次に「仕事の内容で負荷がかからないので」「その形でしか雇用されないの」が続く。子供有りでは「家事・育児等と両立がしやすいので」38.3%が最も高く、子供無しと比べると20%ポイント以上の差がある。一方、子供無しの方が「その形でしか雇用されないの」が10%ポイント以上高い。



## (6) 女性非正規雇用労働者の仕事・働くことに対する現在の考え方(雇用形態・配偶状況別)

・仕事・働くことに対する現在の考え方を、雇用形態・配偶状況別に見てみると、20-39歳においては、「会社・社会の役に立つように働きたい」「雇用の安定性を重視して働きたい」は、「非正規雇用労働者/独身」では、他2区分に対して10%ポイント近く低い。  
 ・40-69歳においては、「専門性を磨けるように働きたい」は「正規雇用労働者/有配偶」で、「非正規雇用労働者」よりも15%ポイント以上高い。また「人として成長することを目指して働きたい」「新しいことに挑戦できるかを優先して働きたい」も「正規雇用労働者/有配偶」で高い。一方、「給与を重視して働きたい」は、「非正規雇用労働者/有配偶」で、他2区分に対して10%ポイント以上低い。

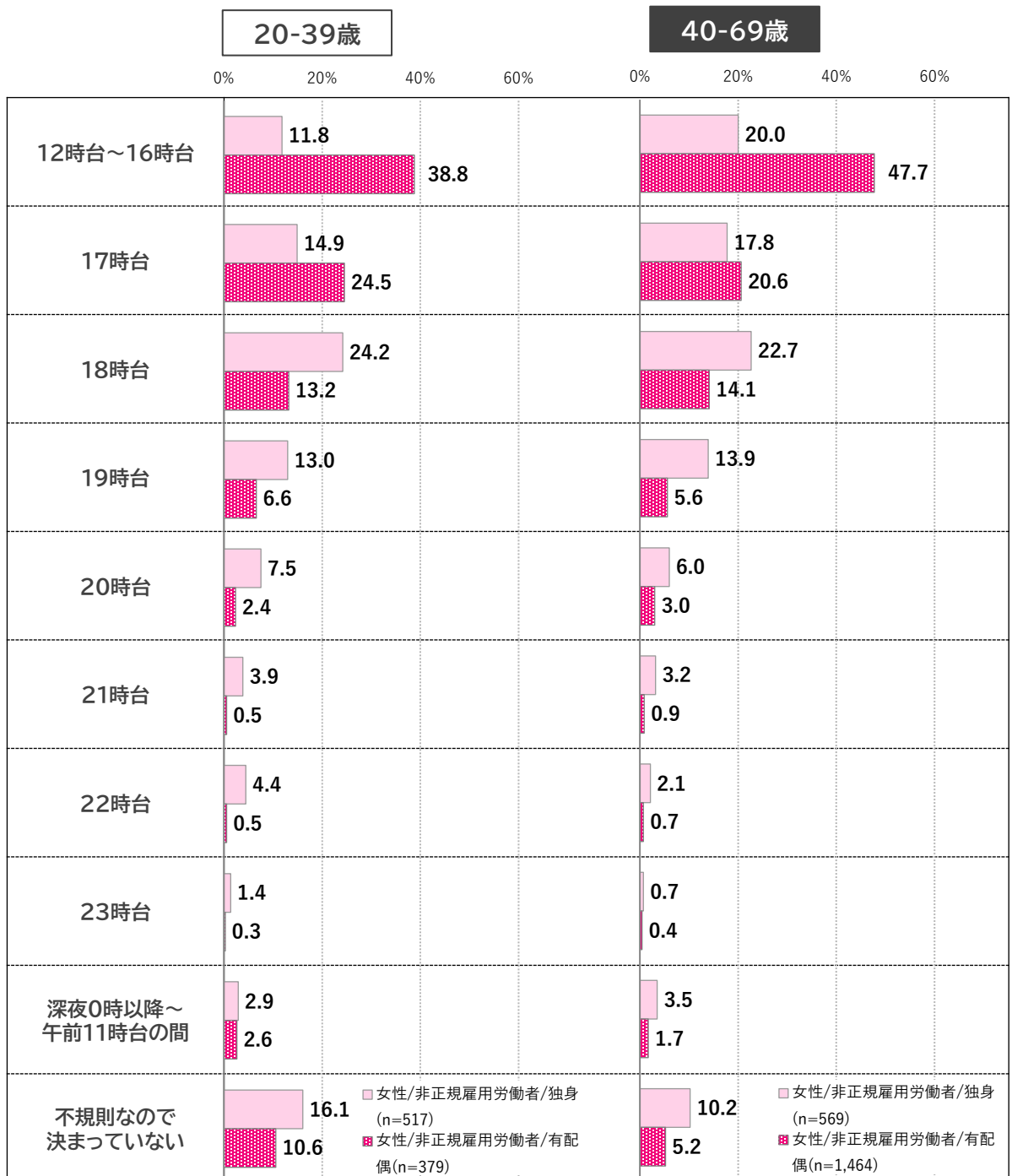




## (7) 女性非正規雇用労働者の仕事がある日の平均的な帰宅時間(配偶状況別)

・配偶状況別に「自分の帰宅時間」を比較したものが下記である。20-39歳においては、「有配偶」では「12時台～16時台」が38.8%と最も高く、次に「17時台」24.5%と、17時以前の帰宅で6割を超える。「独身」では「18時台」24.2%が最も高く、次に「17時台」14.9%、「19時台」13.0%と、17時～19時前後で5割となっている。

・40-69歳においては、「有配偶」では「12時台～16時台」で47.7%と、より16時以前の時間帯が高い。



## (8) 現在の1日の時間の使い方(仕事がある日(テレワーク以外の日)) (有職者女性、雇用形態・配偶状況別)

・仕事がある日(テレワーク以外)の1日の時間の使い方を雇用形態、配偶状況別に見てみると、20-39歳においては、「非正規雇用労働者/有配偶」では「家事・育児時間」が3時間34分と、「正規雇用労働者」1時間32分と比べ2時間以上長い。一方、「非正規雇用労働者/独身」では、「自分のことに使う時間」が3時間6分と、他2区分に対して1時間以上長い。

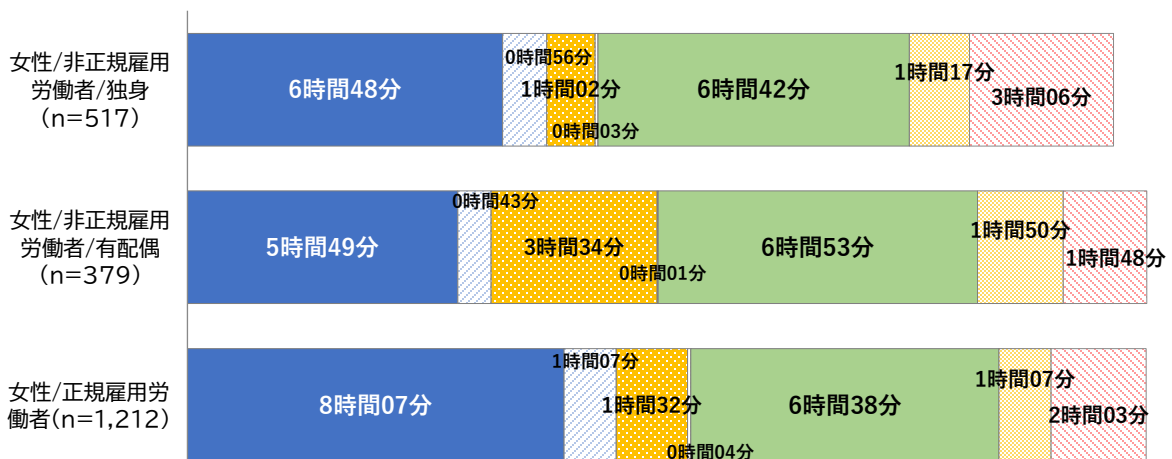
・40-49歳でも同様に、「非正規雇用労働者/有配偶」では「家事・育児時間」が3時間1分と、「正規雇用労働者」の1時間50分と比べ、1時間以上長い。また、「自分のことに使う時間」は、20-39歳と同様に「非正規雇用労働者/独身」が2時間50分でも最も長い。

・どちらの年代でも、「通勤・通学時間」は「非正規雇用労働者/有配偶」が最も短い。

### 仕事がある日(テレワーク以外)

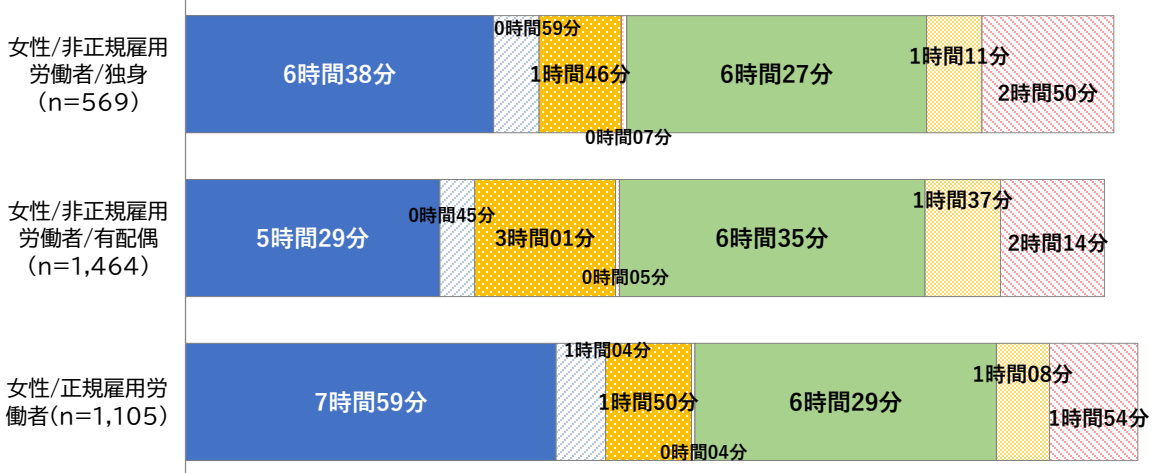
#### 20-39歳

- 仕事(収入を伴う仕事、学業)の時間
- 家事・育児時間
- 睡眠時間
- 自分のことに使う時間(趣味・自己啓発・くつろぎ等)
- 通勤・通学時間
- 介護時間
- 家族と遊んだり、くつろいだりする時間



#### 40-69歳

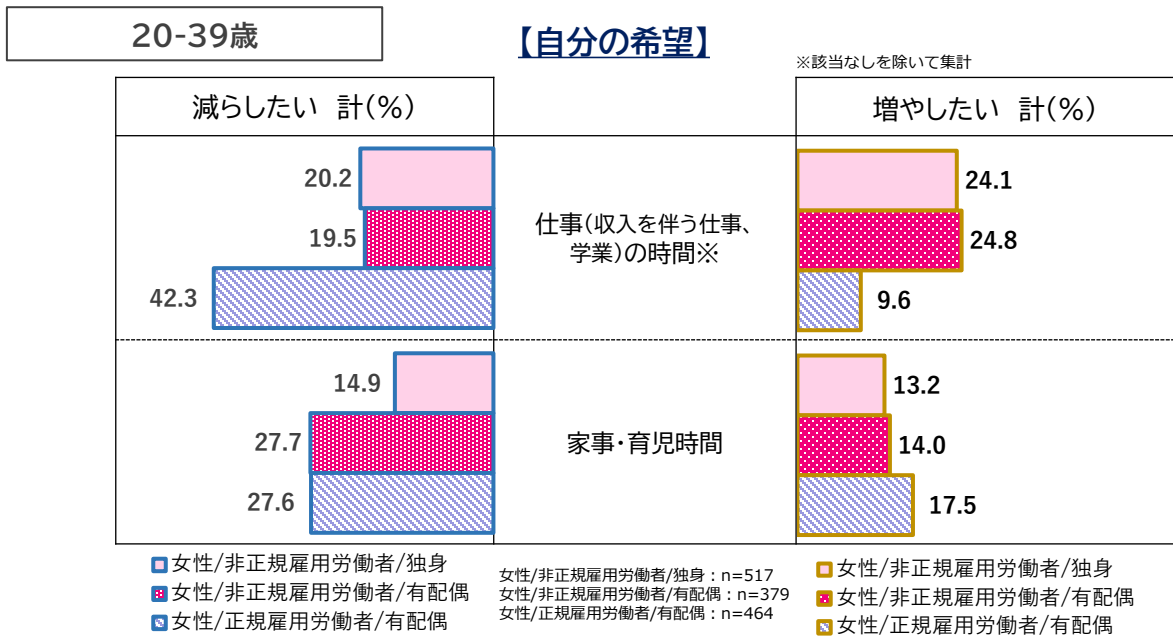
- 仕事(収入を伴う仕事、学業)の時間
- 家事・育児時間
- 睡眠時間
- 自分のことに使う時間(趣味・自己啓発・くつろぎ等)
- 通勤・通学時間
- 介護時間
- 家族と遊んだり、くつろいだりする時間



## (9) 仕事時間と家事・育児時間の増減希望(20-39歳有職者女性)(雇用形態・配偶状況別)

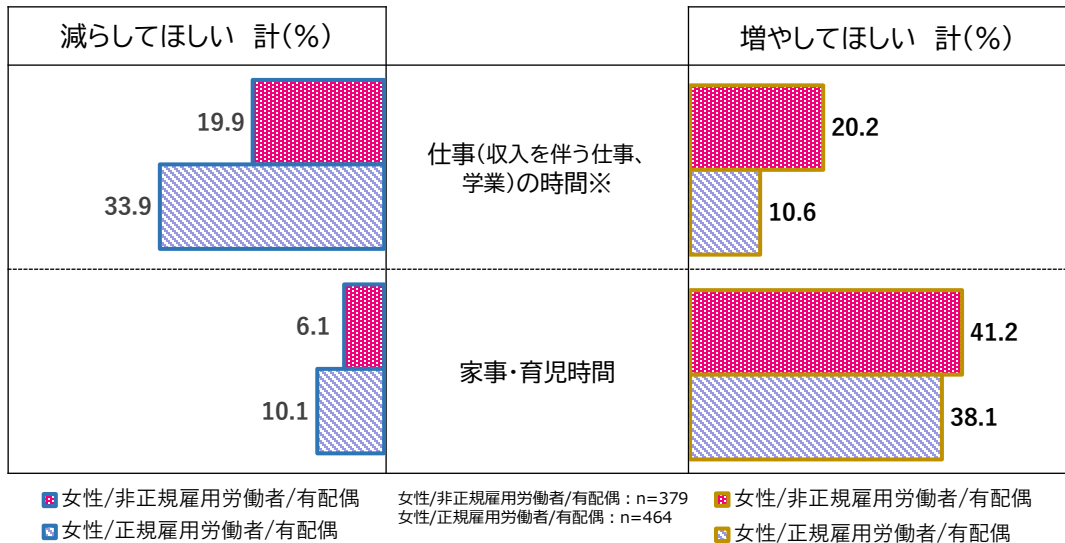
・仕事時間と家事・育児時間の増減希望について、20-39歳の有職者女性を雇用形態、配偶状況別に見てみると、自分の仕事時間について、「非正規雇用労働者」では、配偶状況にかかわらず「減らしたい」が20%程度、「増やしたい」が24%程度と、希望が分かれている。一方、「正規雇用労働者/有配偶」では「減らしたい」が42.3%と高い。自分の家事・育児時間については、「非正規雇用労働者/有配偶」「正規雇用労働者/有配偶」のいずれも、「減らしたい」が28%ポイント程度と高い。

・配偶者への仕事時間増減の希望では、「非正規雇用労働者/有配偶」では「減らしてほしい」「増やしてほしい」がいずれも20%程度と分かれている。「正規雇用労働者/有配偶」では、「減らしてほしい」が33.9%と高い。配偶者への家事・育児時間増減の希望では、非正規雇用労働者・正規雇用労働者のいずれも「増やしてほしい」が4割程度と高い。



### 【配偶者への希望(有配偶のみ)】

※仕事の時間は有配偶で配偶者が有職の人を対象



※対象者数の表示は全数。ただし設問によって集計数のnが異なる。

※減らしたい計 = 「大幅に減らしたい」 + 「少し減らしたい」

※増やしたい計 = 「大幅に増やしたい」 + 「少し増やしたい」

※減らしてほしい計 = 「大幅に減らしてほしい」 + 「少し減らしてほしい」

※増やしてほしい計 = 「大幅に増やしてほしい」 + 「少し増やしてほしい」

## (9) 仕事時間と家事・育児時間の増減希望(40-69歳有職者女性)(雇用形態・配偶状況別)

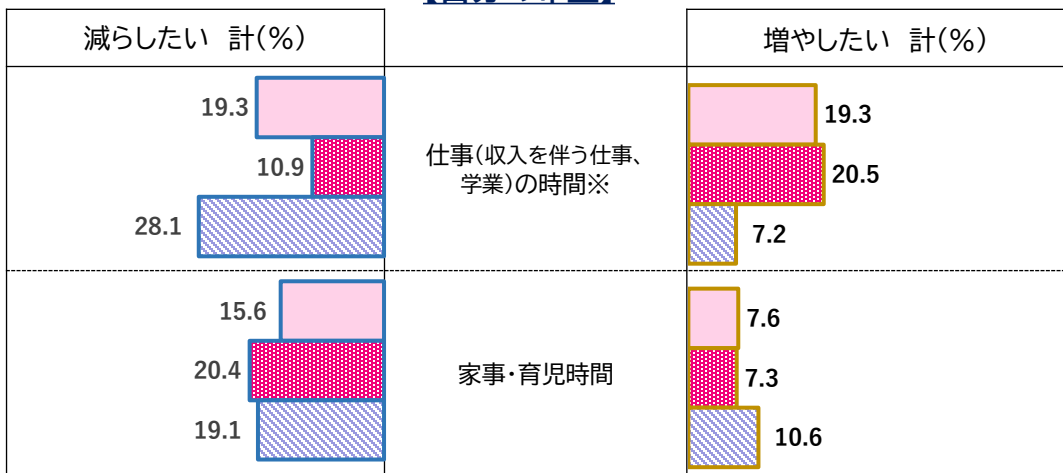
・仕事時間と家事・育児時間の増減希望について40-69歳の有職者女性を雇用形態、配偶状況別に見てみると、自分の仕事時間について、「非正規雇用労働者/独身」では、「減らしたい」「増やしたい」がどちらも19%。「非正規雇用労働者/有配偶」では、「増やしたい」が20.5%と高い。「正規雇用労働者/有配偶」では「減らしたい」が28.1%と高いが、20-39歳と比べるとその割合は10%ポイント以上低い。自分の家事・育児時間については、「非正規雇用労働者/有配偶」「正規雇用労働者/有配偶」のいずれも、「減らしたい」が20%程度。

・配偶者への仕事時間増減の希望では、非正規雇用労働者・正規雇用労働者のいずれも、「減らしてほしい」「増やしてほしい」が12~16%程度となっている。配偶者への家事・育児時間増減の希望では、非正規雇用労働者・正規雇用労働者のいずれも「増やしてほしい」が25~29%と高いが、20-39歳と比べると、その割合は10%ポイント以上低い。

40-69歳

【自分の希望】

※該当なしを除いて集計



■ 女性/非正規雇用労働者/独身

■ 女性/非正規雇用労働者/有配偶

■ 女性/正規雇用労働者/有配偶

女性/非正規雇用労働者/独身：n=569  
女性/非正規雇用労働者/有配偶：n=1,464  
女性/正規雇用労働者/有配偶：n=612

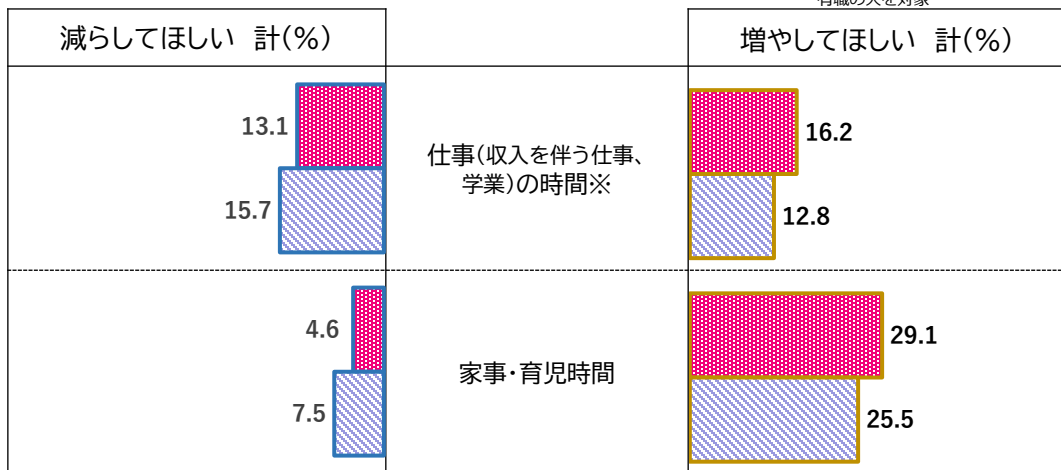
■ 女性/非正規雇用労働者/独身

■ 女性/非正規雇用労働者/有配偶

■ 女性/正規雇用労働者/有配偶

【配偶者への希望(有配偶のみ)】

※仕事の時間は有配偶で配偶者が有職の人を対象



■ 女性/非正規雇用労働者/有配偶

■ 女性/正規雇用労働者/有配偶

女性/非正規雇用労働者/有配偶：n=1,464  
女性/正規雇用労働者/有配偶：n=612

■ 女性/非正規雇用労働者/有配偶

■ 女性/正規雇用労働者/有配偶

※対象者数の表示は全数。ただし設問によって集計数のnが異なる。

※減らしたい計 = 「大幅に減らしたい」 + 「少し減らしたい」

※増やしたい計 = 「大幅に増やしたい」 + 「少し増やしたい」

※減らしてほしい計 = 「大幅に減らしてほしい」 + 「少し減らしてほしい」

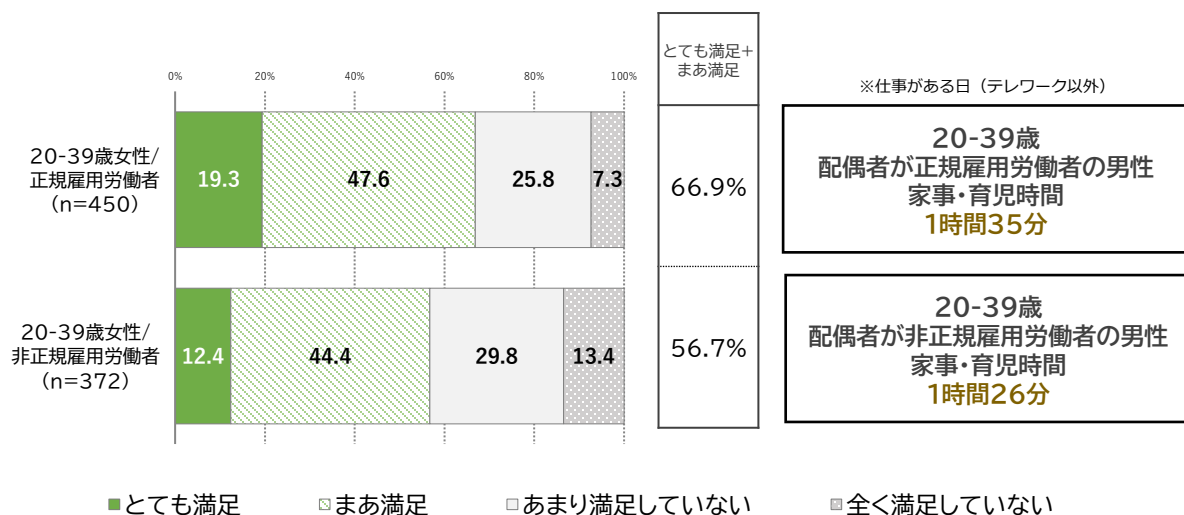
※増やしてほしい計 = 「大幅に増やしてほしい」 + 「少し増やしてほしい」

## (10) 配偶者の実施する家事への満足度(配偶者と同居している有職者の女性が対象)

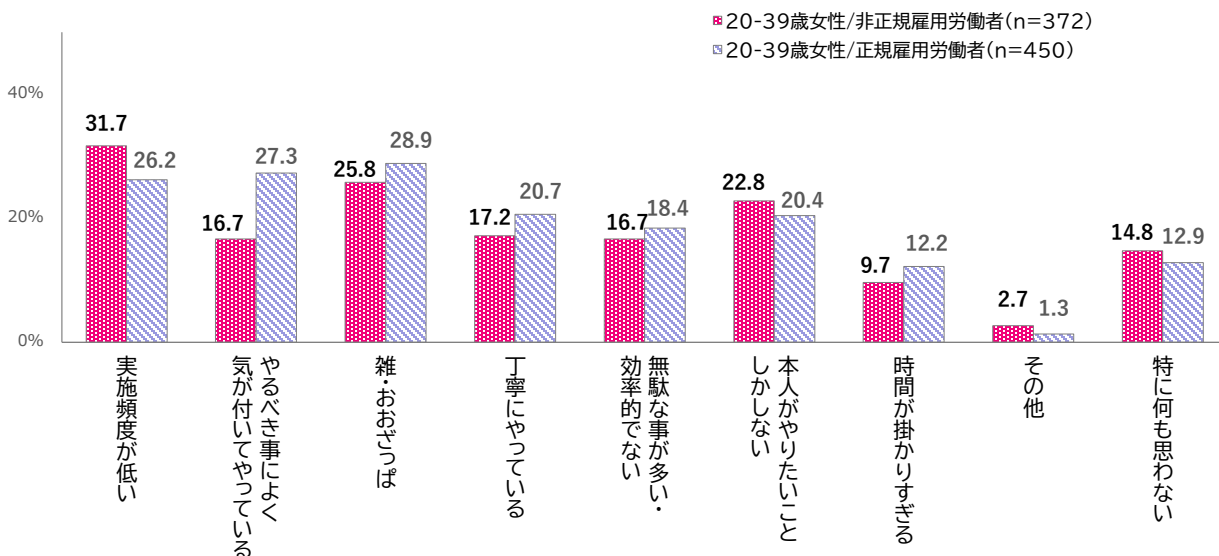
・配偶者の実施する家事への満足度について、20-39歳の「とても満足」+「まあ満足」の累計値をみると、非正規雇用労働者は56.7%、正規雇用労働者では66.9%と、非正規雇用労働者の方が10%ポイント以上低い。なお、「配偶者が正規雇用労働者の男性」における家事・育児時間は1時間35分、「配偶者が非正規雇用労働者の男性」における家事・育児時間は1時間26分と、9分短い。

・配偶者の実施する家事については、「やるべきことに気が付いてよくやっている」は正規雇用労働者で27.3%と、非正規雇用労働者よりも10%ポイント以上高い。一方、「実施頻度が低い」は、非正規雇用労働者の方が5%ポイント程度高い。

### 配偶者の実施する家事についての満足度



### 配偶者の実施する家事についてどう感じるか

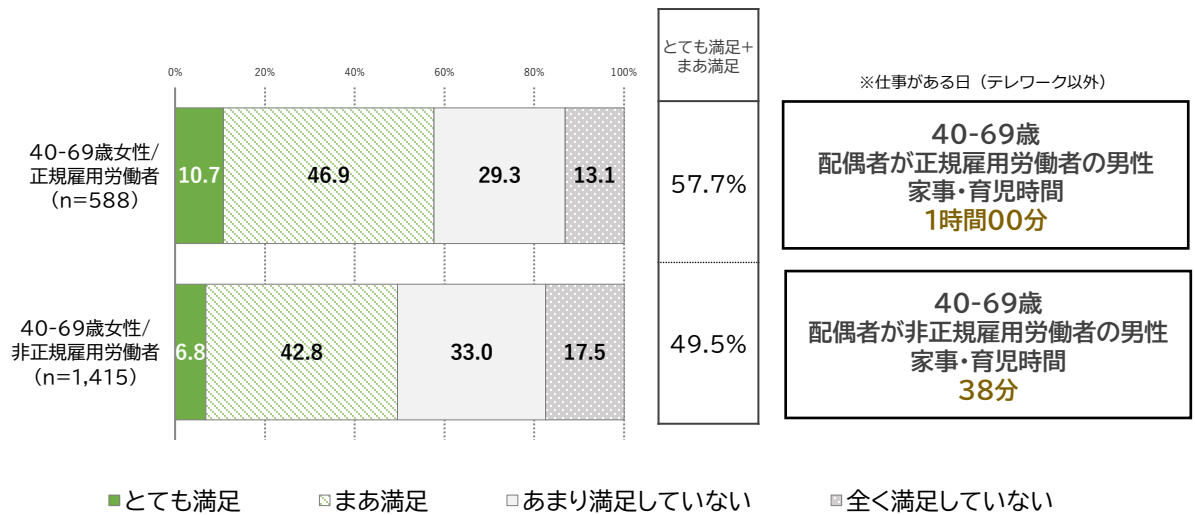


## (10) 配偶者の実施する家事への満足度(配偶者と同居している有職者の女性が対象)

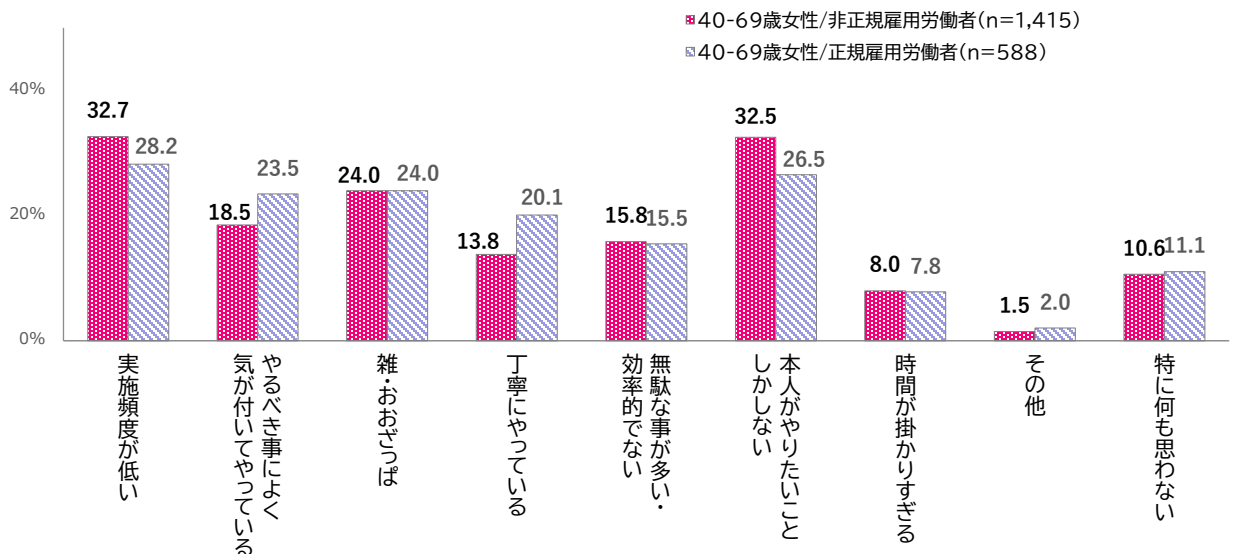
・配偶者の実施する家事への満足度について、40-69歳の「とても満足」+「まあ満足」の累計値をみると、非正規雇用労働者では49.5%、正規雇用労働者の女性では57.7%となっている。なお、「配偶者が正規雇用労働者の男性」の家事・育児時間は1時間、「配偶者が非正規雇用労働者の男性」の家事・育児時間は38分と、22分短い。

・配偶者の実施する家事については、「やるべきことに気が付いてよくやっている」「丁寧にやっている」は正規雇用労働者の方が非正規雇用労働者よりも5%ポイント以上高く、一方、「実施頻度が低い」「本人がやりたいことしかししない」は、非正規雇用労働者の方が5%ポイント程度高い。

### 配偶者の実施する家事についての満足度



### 配偶者の実施する家事についてどう感じるか



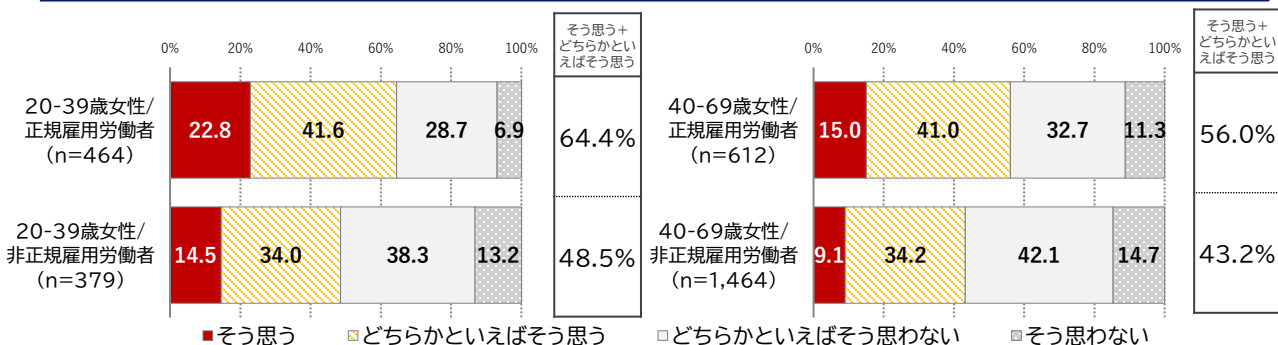
## (11) ストレスや責任などについての考え方(有配偶の有識者女性)

・「仕事のストレス」を比較すると(ストレスが大きい/責任があるについて「そう思う」+「どちらかといえばそう思う」の累計値、以下同様)、20-39歳においては「正規雇用労働者」で64.4%、「非正規雇用労働者」で48.5%と10%ポイント以上の差がある。40-69歳でも10%ポイント以上「正規雇用労働者」で高い。

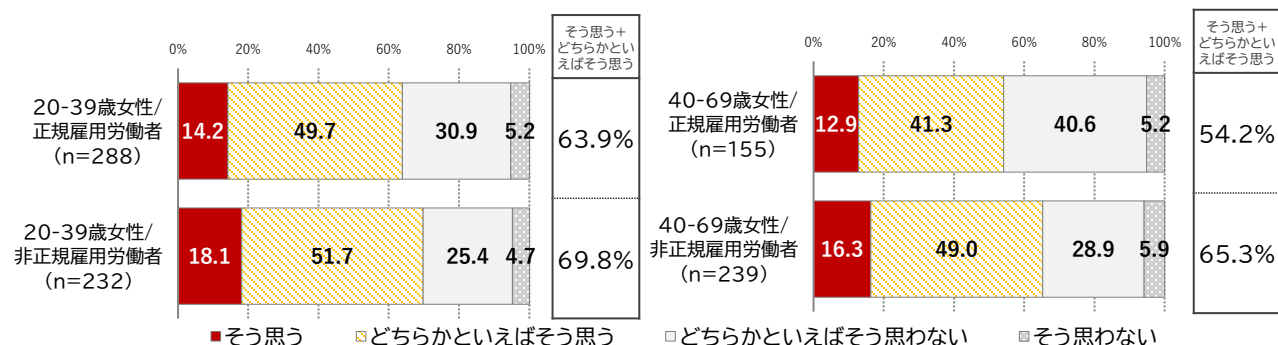
・配偶者と小学生以下の子供と同居している人の「家事・育児のストレス」を比較してみると、20-39歳においては、「正規雇用労働者」で63.9%、「非正規雇用労働者」で69.8%。40-69歳では「正規雇用労働者」で54.2%、「非正規雇用労働者」で65.3%と、どちらの区分でも「非正規雇用労働者」の方が高いが、特に上の年代で差が大きい。

・「家計を支える責任」について比較すると、20-39歳においては「正規雇用労働者」で54.3%、「非正規雇用労働者」で45.9%、40-69歳では「正規雇用労働者」で53.6%、「非正規雇用労働者」で34.6%と、どちらの年代でも「正規雇用労働者」の方が高いが、上の年代の方がその差は大きい。一方、「非正規雇用労働者」の年代別で比較すると、若い年代の方が「家計を支える責任がある」とする割合が、10%ポイント以上高い。

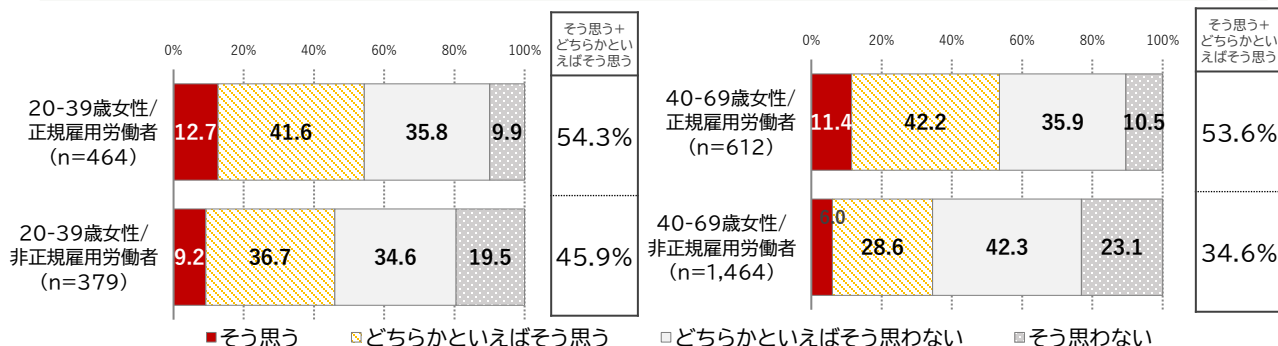
### 私は仕事のストレスが大きい



### 私は家事・育児のストレスが大きい ※配偶者・小学生以下の子供と同居している人が対象



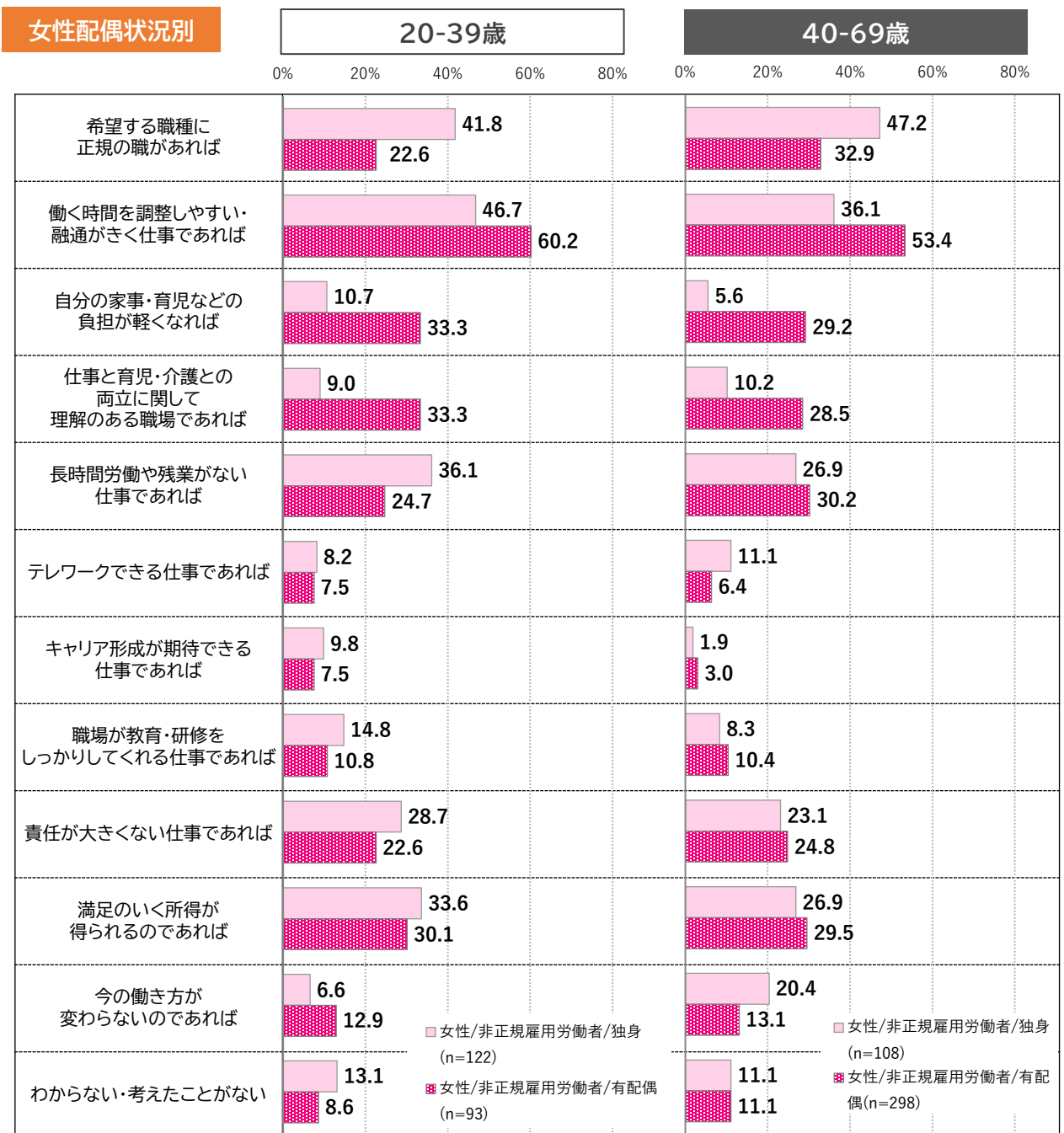
### 私には家計を支える責任がある



**(12) どのような条件があれば「正規の会社員」として働きたいと思うか  
(勤務時間を「増やしたい」と回答した女性非正規雇用労働者対象)**

・配偶状況別で見ると、20-39歳においては、どちらの区分でも「働く時間を調整しやすい・融通がきく仕事であれば」が最も高いが、特に「有配偶」では60.2%と顕著に高い。また、「希望する職種に正規の職があれば」「長時間労働や残業がない仕事であれば」は「独身」の方が10%ポイント以上高く、「自分の家事・育児などの負担が軽くなれば」「仕事と育児・介護との両立に関して理解のある職場であれば」は「有配偶」の方が10%ポイント以上高い。

・40-69歳においては、「有配偶」では「働く時間を調整しやすい・融通がきく仕事であれば」が最も高く53.4%で、「独身」よりも10%ポイント以上高い。「独身」では「希望する職種に正規の職があれば」が47.2%と最も高く、「有配偶」よりも10%ポイント以上高い。また、「自分の家事・育児などの負担が軽くなれば」「仕事と育児・介護との両立に関して理解のある職場であれば」は「有配偶」の方が高い。





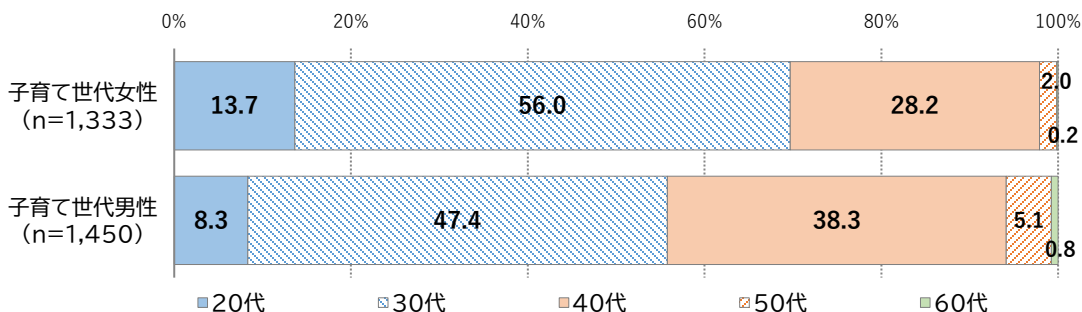
### 3. 子育て世代を取り巻く状況

※子育て世代=配偶者と子供と同居している人  
(同居している子供は小学生まで)

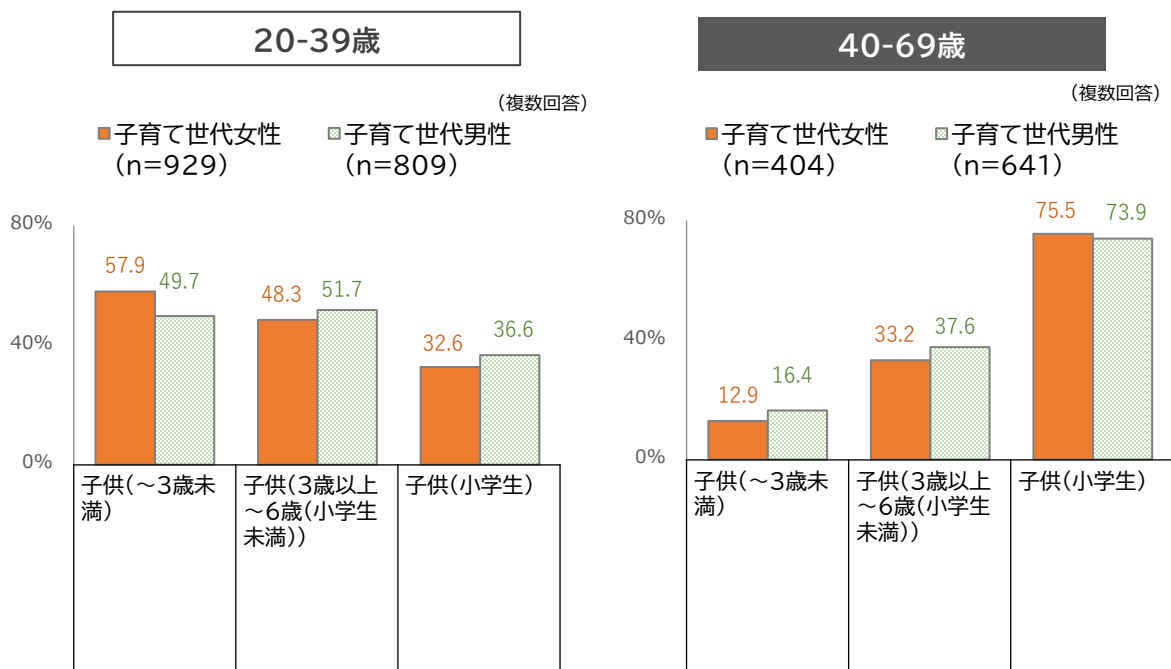
#### (1) 子育て世代の基本情報(属性)

- ・配偶者と子供と同居している人(同居している子供は小学生まで、中学生以上の子供とは同居していない)を「子育て世代」として、傾向を分析する。
- ・子育て世代の女性の年代構成については、「30代」が56.0%と過半数を占める。続いて「40代」が28.2%、「20代」が13.7%と、この3つの年代が中心。男性については、「30代」が47.4%と女性と同様に最も高いが、次に「40代」が38.3%と、女性に比べて「40代」の割合が10%ポイント程度高い。また、「20代」は8.3%となっている。
- ・同居家族を見てみると、男女ともに「20-39歳」では、「3歳未満の子供」、「3歳以上～6歳(小学生未満)」の子供が5割前後、「小学生」は33～37%程度となっている。「40-69歳」では、男女ともに「小学生」が7割を超え、顕著に高い。

#### ◆年代構成



#### ◆同居家族

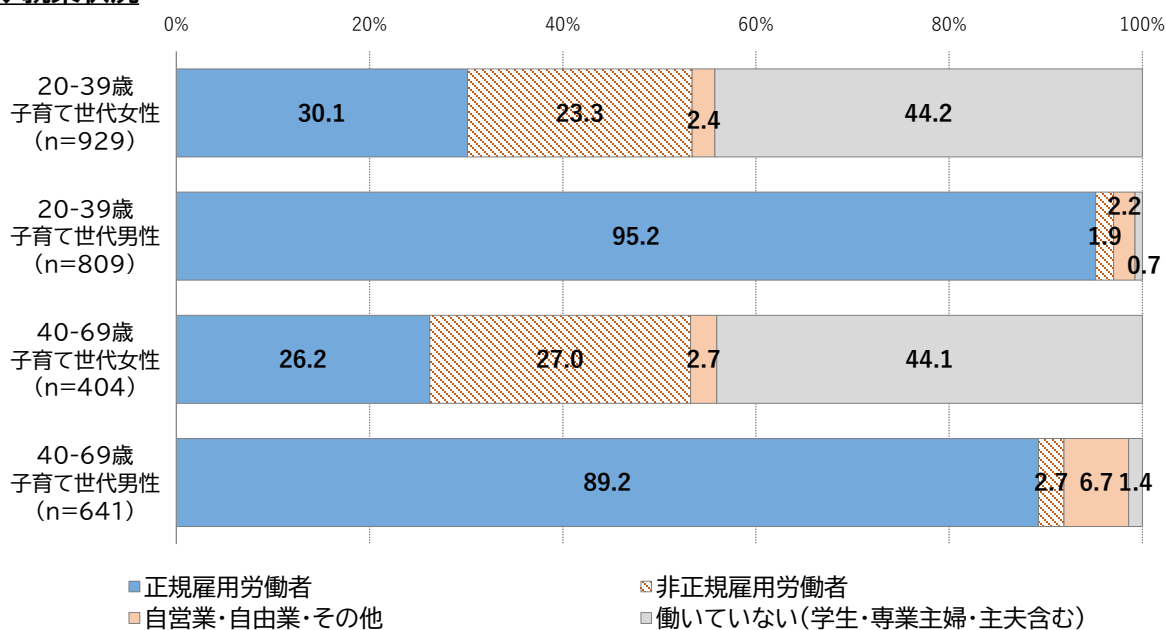


## (2) 子育て世代の就業状況と勤務形態(年代別)

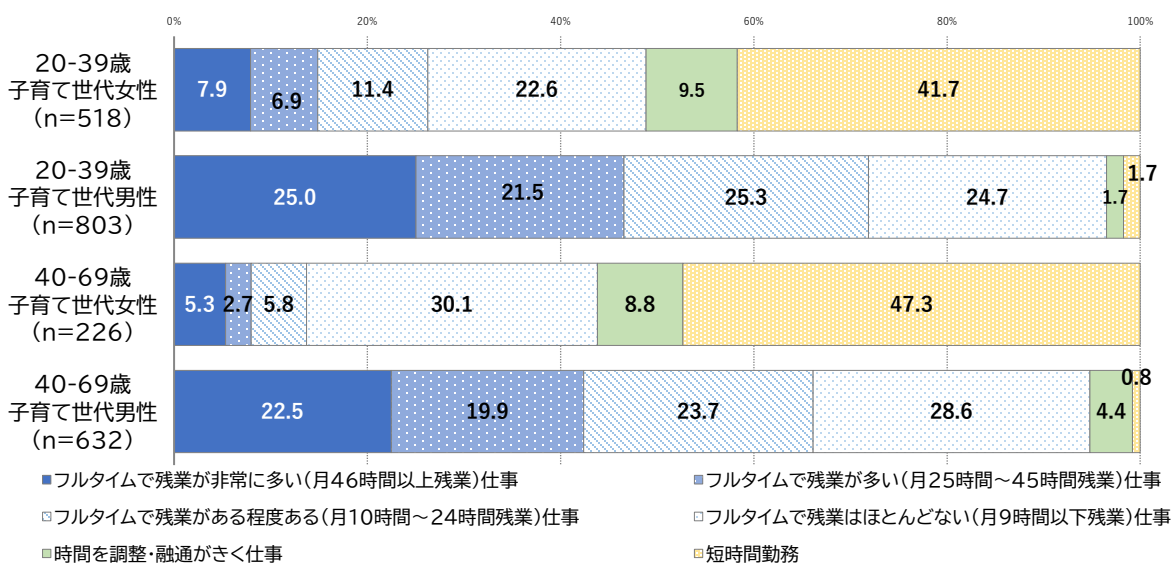
・現在の就業状況について見てみると、女性では、「20-39歳女性」「40-69歳女性」とともに、「正規雇用労働者」が3割、「非正規雇用労働者」が2〜3割、「働いていない」が44%程度となっている。一方、男性は、どちらの年代でも9割前後が「正規雇用労働者」となっている。

・有職者の勤務形態(勤務時間)については、女性ではどちらの年代でも「短時間勤務」が4割を超える。男性では、どちらの年代でも「フルタイム」での仕事に9割を超え、「フルタイムで残業が非常に多い(月46時間以上残業)仕事」も2割以上と高い。

### ◆就業状況



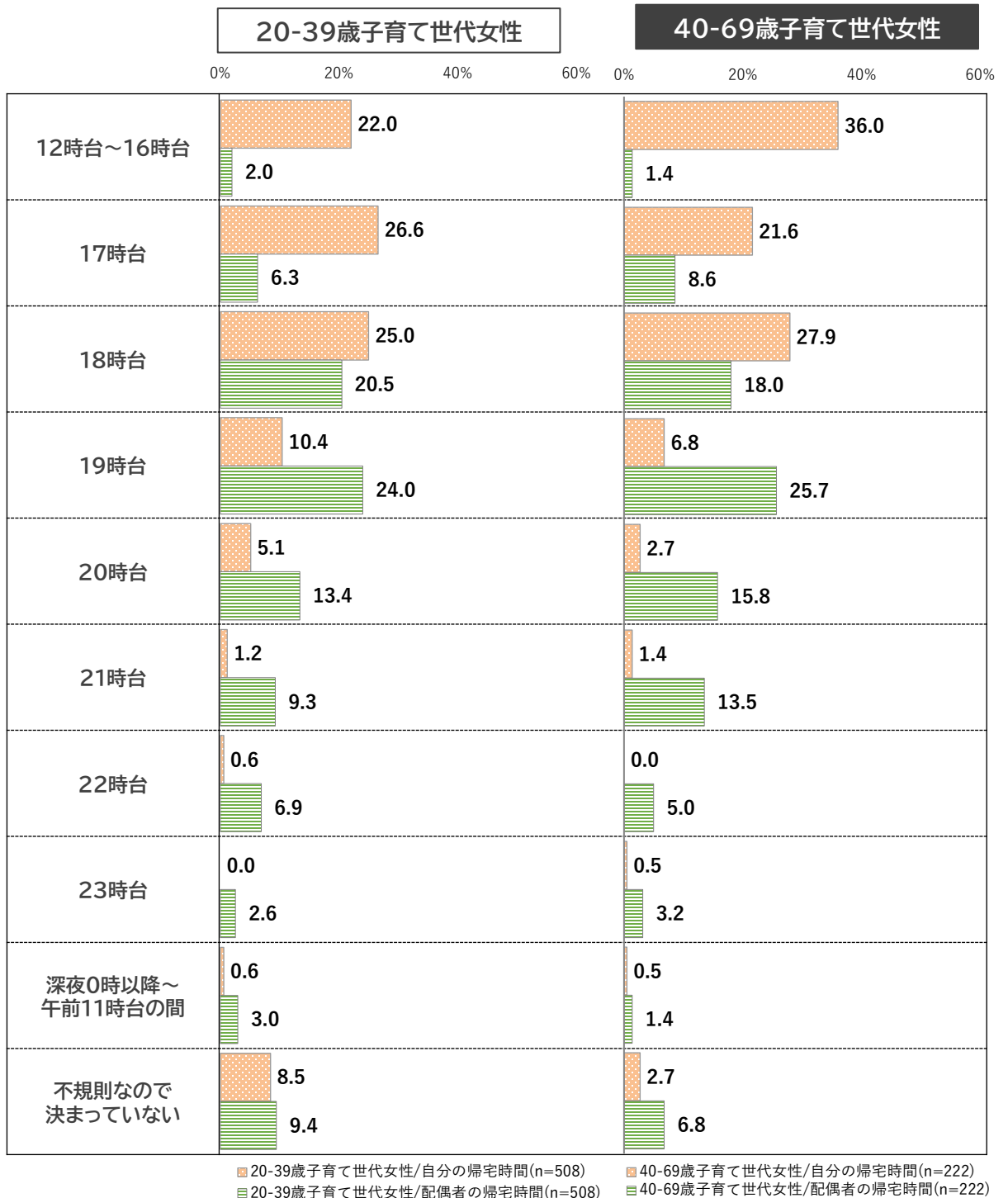
### ◆勤務形態(勤務時間)



### (3) 子育て世代の仕事がある日の自分と配偶者の平均的な帰宅時間 (配偶者と同居しており、自分も配偶者も働いている子育て世代の女性)

・「自分の帰宅時間」と「配偶者の帰宅時間」を比較したものが下記である。「20-39歳」においては、18時台以前の時間帯については自分の割合の方が高く、19時台以降の時間帯については配偶者の割合の方が高い。なお、配偶者では「20時台以降」で35%となっている。

・40-69歳においても同様の傾向であり、特に自分では「12時台～16時台」が36.0%が最も高い。配偶者では「20時台以降」で4割を占める。



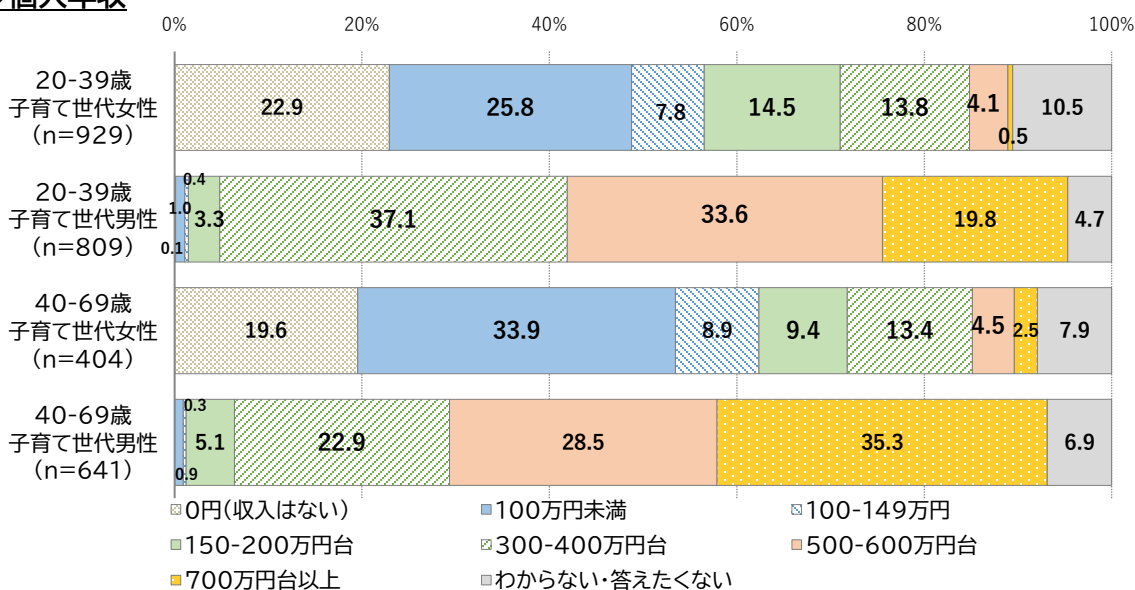
※配偶者の帰宅時間について「わからない・知らない」は表章していないため、合計が100%とならない。

## (4) 子育て世代の年収(年代別)

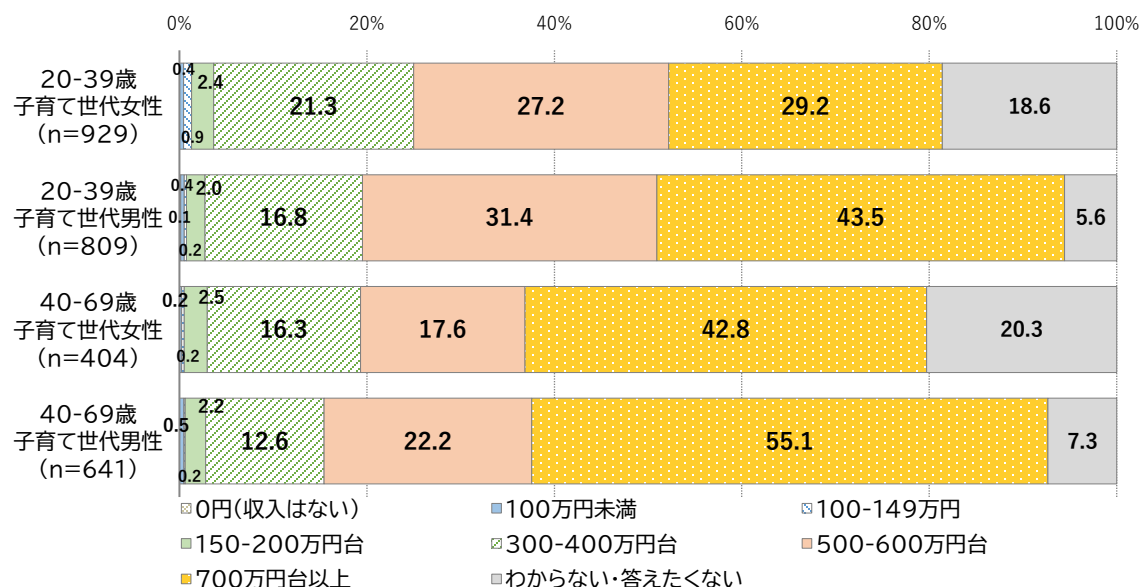
・個人年収について、「20-39歳女性」「40-69歳女性」ともに、最も高いのは「100万円未満」となっている。「300万円以上」は、どちらの年代でも2割程度。一方、「20-39歳男性」では、「300-400万円台」が最も高く37.1%。「500-600万円台」が33.6%、「700万円台以上」が19.8%。「40-69歳男性」では、「700万円台以上」が最も高く35.3%となっている。

・世帯年収について、どちらの年代でも女性において「わからない・答えたくない」が2割程度。「20-39歳」では、男女ともに「500-600万円台」が3割前後、「300-400万円台」が2割前後となる。「40-69歳」では、男女ともに「500-600万円台」が2割前後、「700万円台以上」は4割以上となっている。

### ◆個人年収

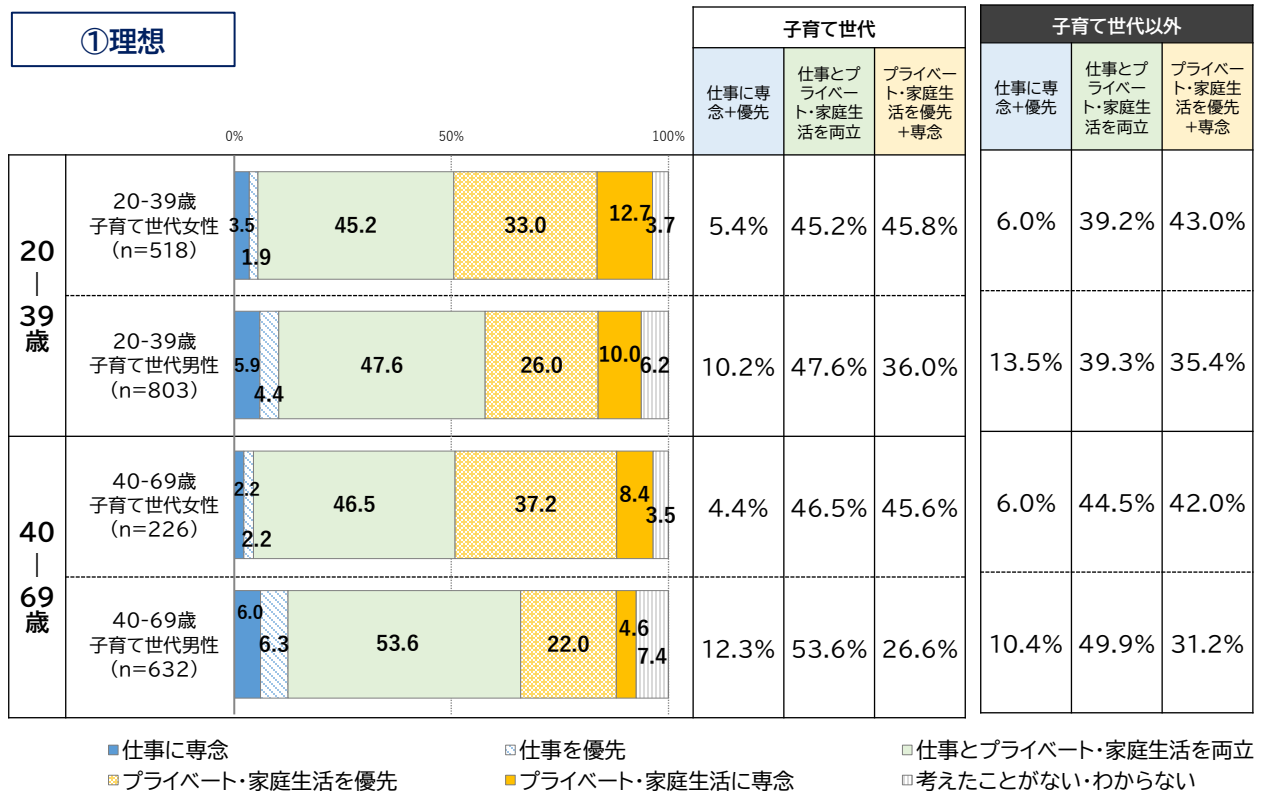


### ◆世帯年収



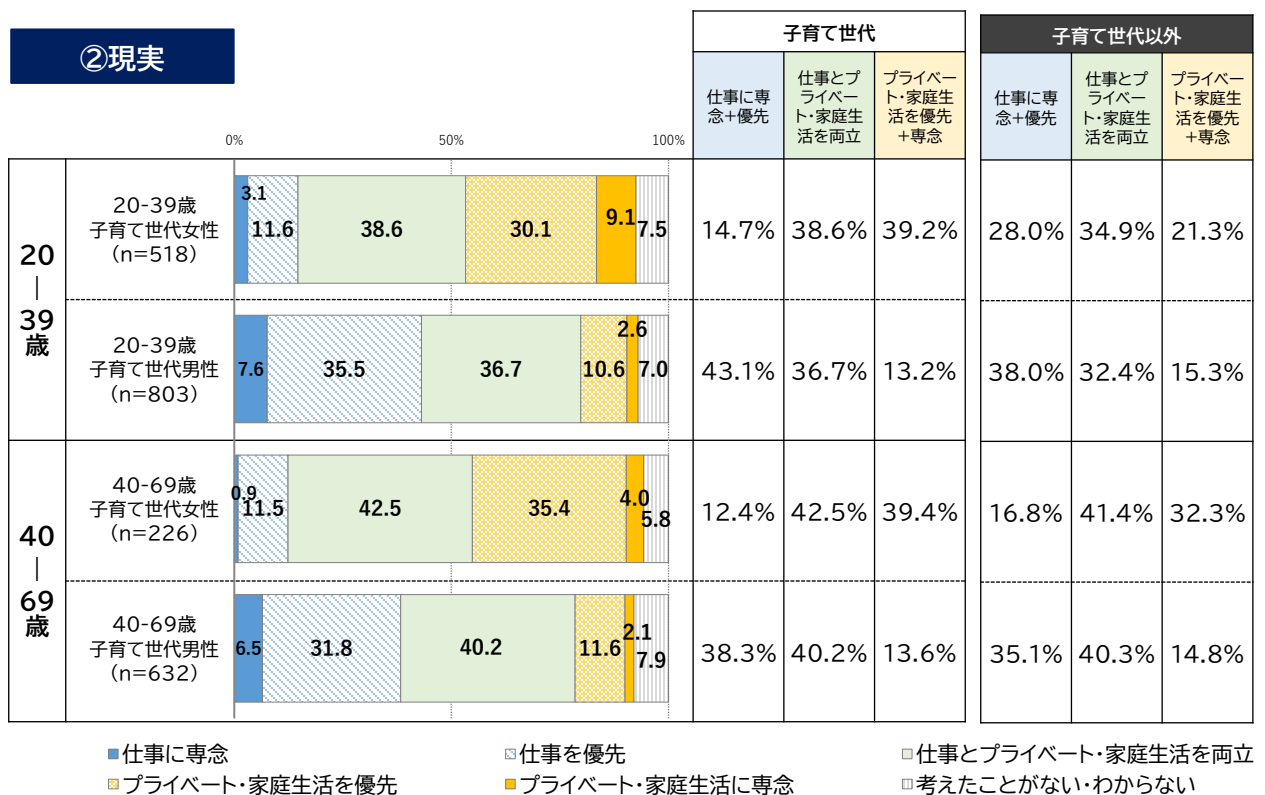
## (5) 仕事とプライベート・家庭生活のバランス 理想と現実(有職者、理想)

- ・理想について、男女ともに、いずれの年代でも「仕事とプライベート・家庭生活を両立」が最も高く、また「子育て世代以外」よりも「子育て世代」の方が「仕事とプライベート・家庭生活を両立」を挙げる割合がやや高い。
- ・「20-39歳子育て世代」では、「プライベート・家庭生活を優先+専念」について、男性の方が10%ポイント程度低い。一方「仕事とプライベート・家庭生活を両立」は、男女ともに45~48%と同程度。
- ・「40-69歳子育て世代」では「プライベート・家庭生活を優先+専念」について、男女差が若い年代よりも大きく、男性の方が20%ポイント程度低くなっており、その分「仕事とプライベート・家庭生活を両立」の割合が男性で53.6%と高い。



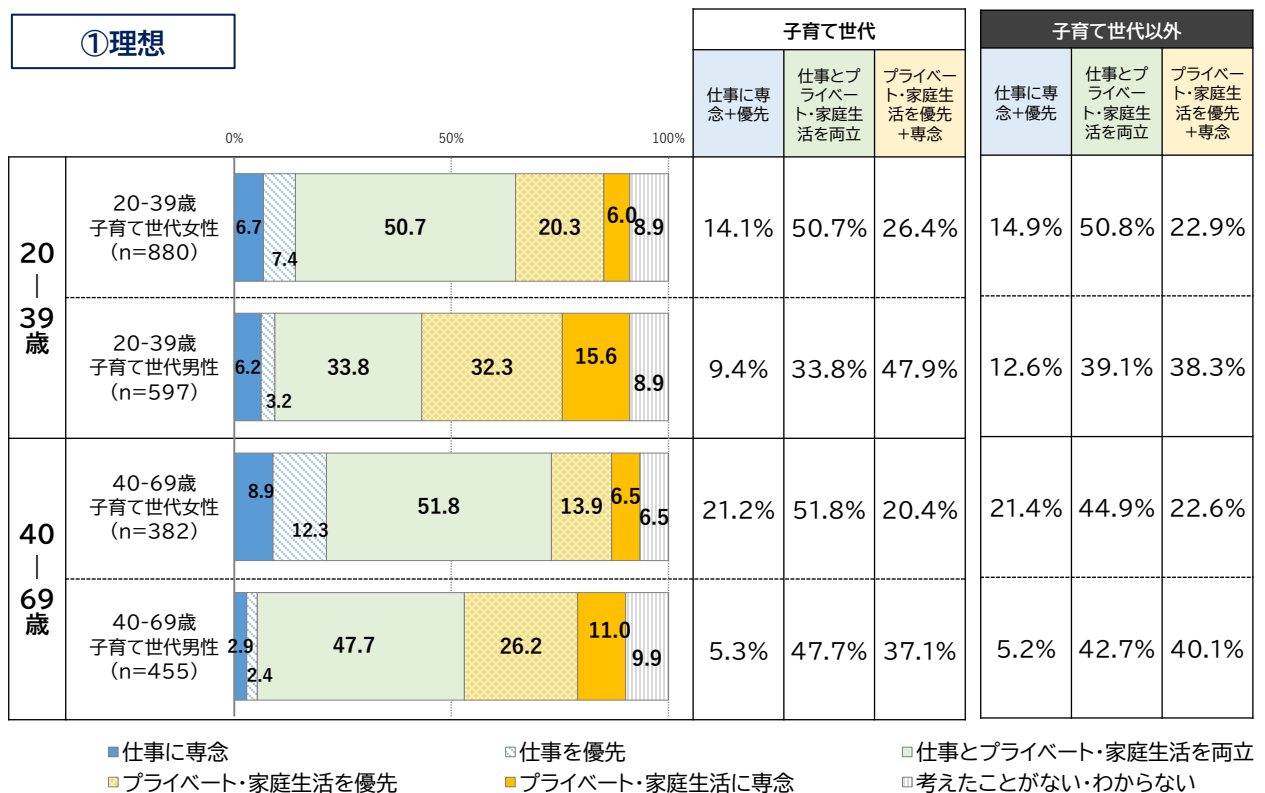
## (6) 仕事とプライベート・家庭生活のバランス 理想と現実(有職者、現実)

- ・現実について、「20-39歳子育て世代」の女性では、「プライベート・家庭生活を優先+専念」「仕事とプライベート・家庭生活を両立」がどちらも4割程度。一方男性では、「仕事に専念+優先」が43.1%、「仕事とプライベート・家庭生活を両立」が36.7%と、「仕事に専念+優先」の割合が女性よりも30%ポイント程度高い。
- ・「40-69歳子育て世代」の女性では、「プライベート・家庭生活を優先+専念」「仕事とプライベート・家庭生活を両立」がどちらも4割程度。一方男性では、「仕事に専念+優先」が38.3%、「仕事とプライベート・家庭生活を両立」が40.2%と、「仕事に専念+優先」の割合が女性に対して25%ポイント程度高い。
- ・「理想」と「現実」を比較すると、女性ではどちらの年代でも10%ポイント以上の差はない。一方、男性では「仕事に専念+優先」において差が大きく、特に「20-39歳」では理想に対して現実では「仕事に専念+優先」の割合が30%ポイント以上高い。
- ・「子育て世代」と「子育て世代以外」を比較すると、「20-39歳」では、「子育て世代以外の女性」の方が「仕事に専念+優先」の割合が10%ポイント以上高く、「子育て世代の女性」では「プライベート・家庭生活を優先+専念」の割合が10%ポイント以上高い。



## (7) 配偶者の仕事とプライベート・家庭生活のバランス 理想と現実(配偶者が有職者対象、理想)

- ・「20-39歳子育て世代」の配偶者への理想は、「プライベート・家庭生活を優先+専念」について、男性の方が20%ポイント以上高い。一方、「仕事とプライベート・家庭生活を両立」は、女性で50.7%、男性で33.8%と、女性の方が10%ポイント以上高い。
- ・「40-69歳子育て世代」の配偶者への理想は、「プライベート・家庭生活を優先+専念」について、男性の方が10%ポイント以上高い。一方、「仕事に専念+優先」は、女性で21.2%、男性で5.3%と、女性の方が10%ポイント以上高い。
- ・配偶者が有職の「子育て世代」と「子育て世代以外」について、10%ポイント以上差がある項目はなかった。

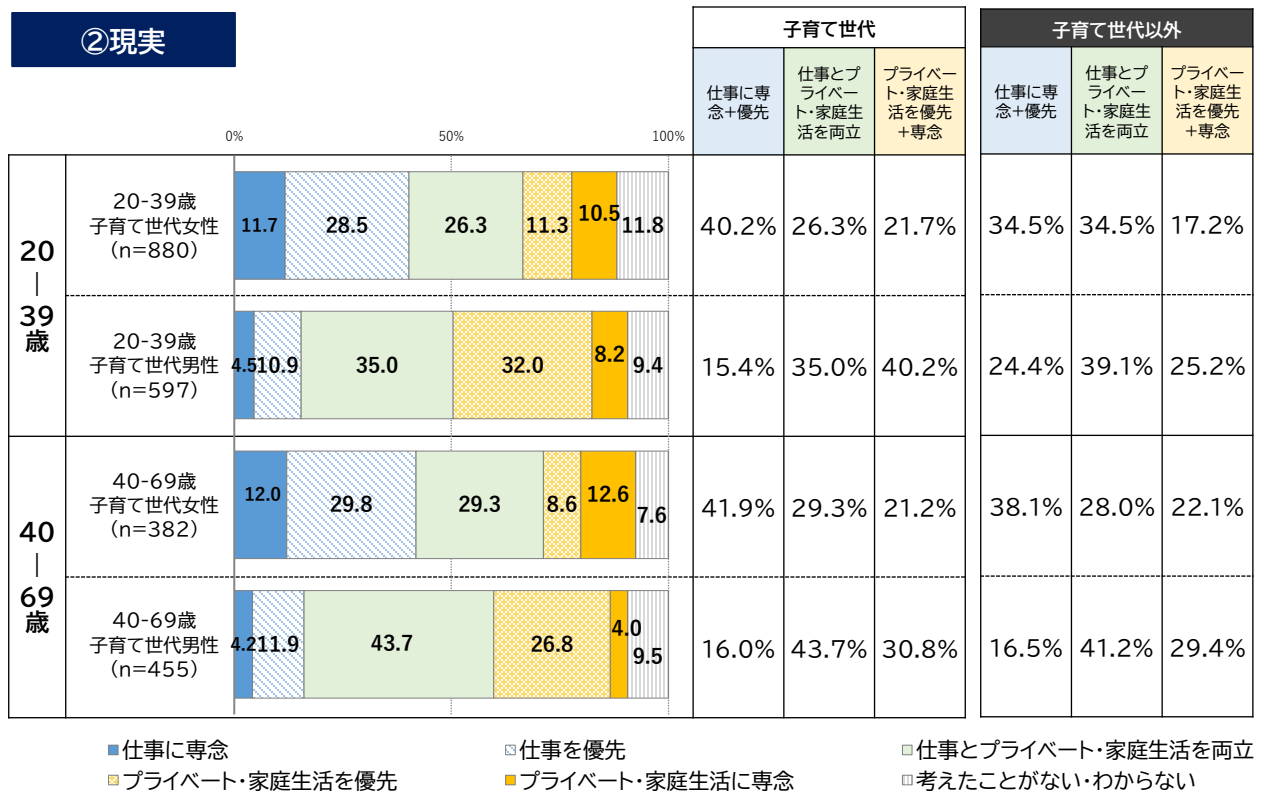


## (8) 配偶者の仕事とプライベート・家庭生活のバランス 理想と現実(配偶者が有職者対象、現実)

・「20-39歳子育て世代」では、女性では配偶者の現実として「仕事に専念+優先」が40.2%と、理想よりも「仕事に専念+優先」の割合が20%ポイント以上高い。一方、男性は、配偶者の現実について「プライベート・家庭生活を優先+専念」が40.2%、「仕事とプライベート・家庭生活を両立」が35.0%と、理想と比較して大きな差はない。

・「40-69歳子育て世代」では、女性では配偶者の現実として「仕事に専念+優先」が41.9%と、理想よりも「仕事に専念+優先」の割合が20%以上高い。一方、男性は、配偶者の現実について「プライベート・家庭生活を優先+専念」が30.8%、「仕事とプライベート・家庭生活を両立」が43.7%、「仕事に専念+優先」が16.0%と、理想よりも「仕事に専念+優先」の割合が10%ポイント以上高い。

・「子育て世代」と「子育て世代以外」を比較すると、「20-39歳男性」で、「子育て世代」の方が「仕事に専念+優先」の割合が9%ポイント低く、「プライベート・家庭生活を優先+専念」の割合が10%ポイント以上高い。





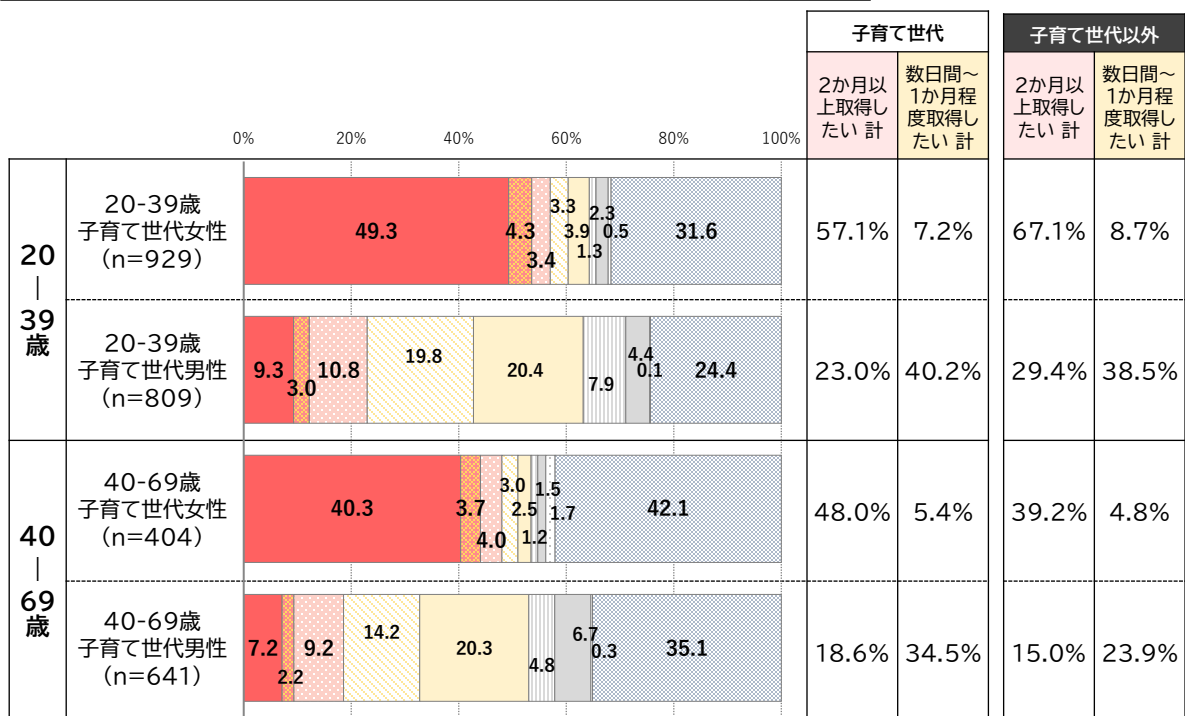
## (9) 育児休業

- ・育児休業取得状況について、「20-39歳子育て世代」においては、女性で45.5%、男性で23.6%が「取得経験有り(取得中含む)」となっている。「40-69歳子育て世代」では、女性で31.4%、男性で12.8%が「取得経験有り」となっている。
- ・育児休業取得の希望では、「20-39歳子育て世代」においては、女性で57.1%、男性で23.0%が「2か月以上取得したい」となっている。「40-69歳子育て世代」では、女性で48.0%、男性で18.6%が「2か月以上取得したい」となっており、男女とも若い年代の方が割合は高い。
- ・「子育て世代」と「子育て世代以外」を比較すると、「20-39歳」では、男女ともに「子育て世代以外」の方が「2か月以上取得したい」割合が高い。「40-69歳」では、「子育て世代」の方が、「2か月以上取得したい」が高い。

### ◆育児休業取得の経験

	自分が育児休業を取得したことがある・取得中	自分が育児休業を取得したことはない
20-39歳子育て世代女性(n=929)	45.5%	54.5%
20-39歳子育て世代男性(n=809)	23.6%	76.4%
40-69歳子育て世代女性(n=404)	31.4%	68.6%
40-69歳子育て世代男性(n=641)	12.8%	87.2%

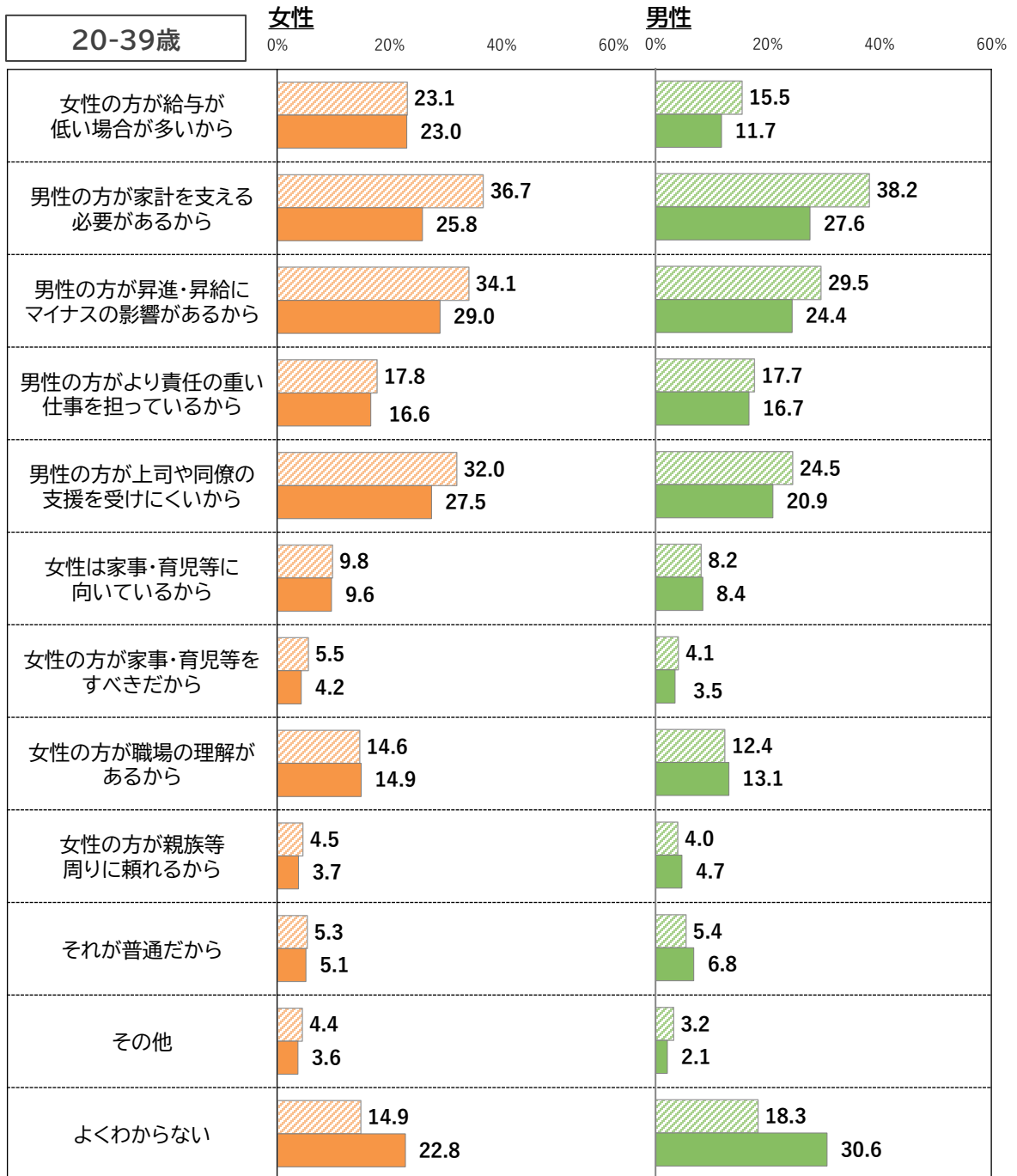
### ◆育児休業取得(第1子が生まれてから、子供が0~3歳の頃)の希望



- 育児休業を半年以上取得したい
- 育児休業を4-5か月(半年未満)取得したい
- 育児休業を2-3か月取得したい
- 育児休業を1か月程度取得したい
- 育児休業を数日間取得したい
- 育児休業を使わず、有給休暇を数日間取得したい
- 育児休業も有給休暇も使わず、休まないでよい
- その他
- 覚えていない・特に希望はない・なかった

## (10) 男性の育児休業取得率が女性に比べて低い理由(20-39歳)

- ・男女ともに、「男性の方が家計を支える必要があるから」は、「子育て世代」の方が「子育て世代以外」よりも10%ポイント以上高い。
- ・「男性の方が昇進・昇給にマイナスの影響があるから」「男性の方が上司や同僚の支援を受けにくいから」についても、「子育て世代」の方が高い傾向が見られた。



▨ 20-39歳子育て世代女性(n=929)

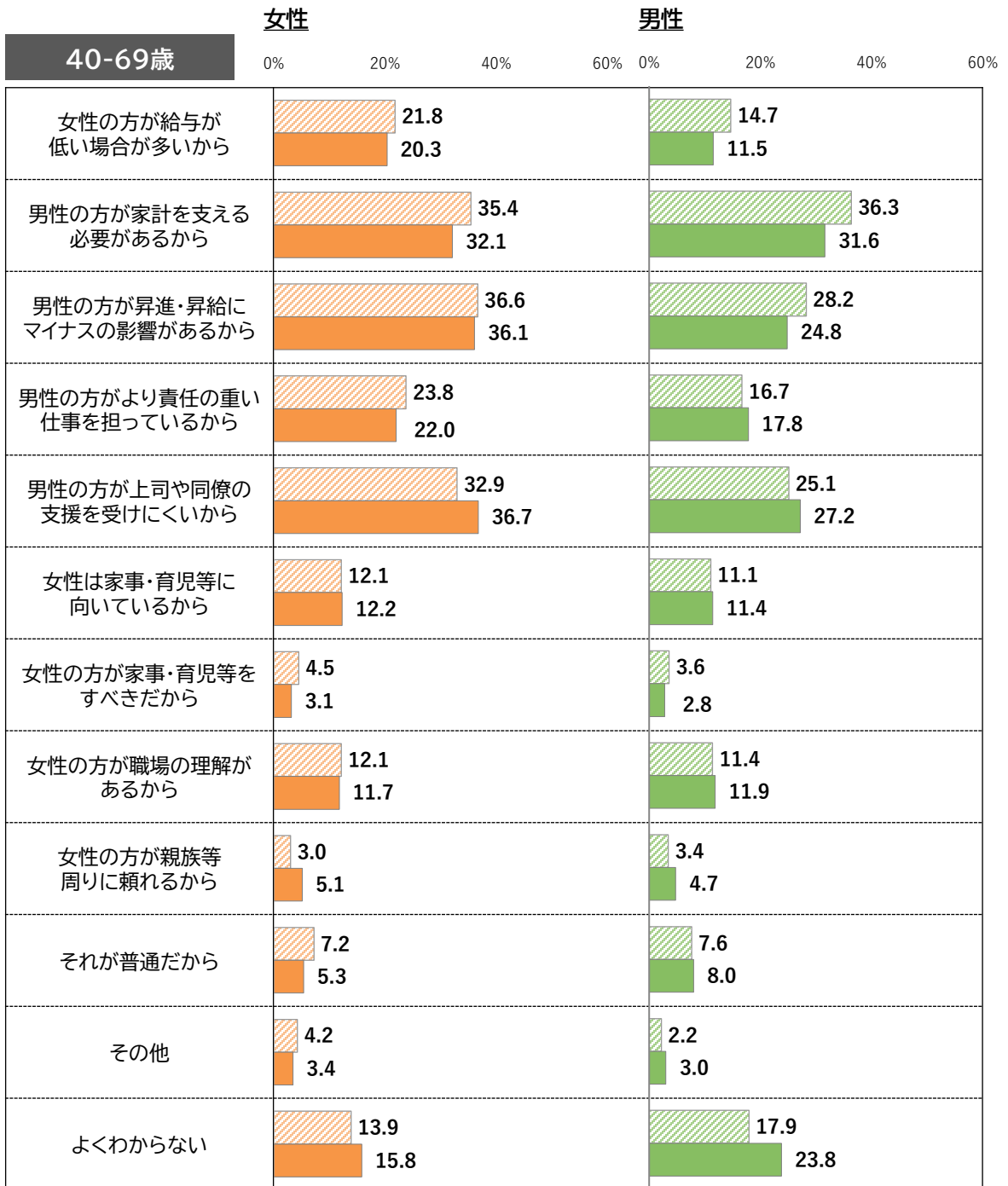
▨ 20-39歳子育て世代男性(n=809)

■ 20-39歳子育て世代以外の女性(n=2,414)

■ 20-39歳子育て世代以外の男性(n=2,545)

## (10) 男性の育児休業取得率が女性に比べて低い理由(40-69歳)

- ・「子育て世代」と「子育て世代以外」であまり大きな差はないが、「男性の方が家計を支える必要があるから」については、「子育て世代」の方が「子育て世代以外」よりも高い傾向が見られた。
- ・「子育て世代」においては男女差はあまり大きくないが、「女性の方が給与が低い場合が多いから」「男性の方が昇進・昇給にマイナスの影響があるから」「男性の方がより責任の重い仕事を担っているから」「男性の方が上司や同僚の支援を受けにくいから」については、女性の方がやや高い。



■ 40-69歳子育て世代女性(n=404)

■ 40-69歳子育て世代以外の女性(n=6,334)

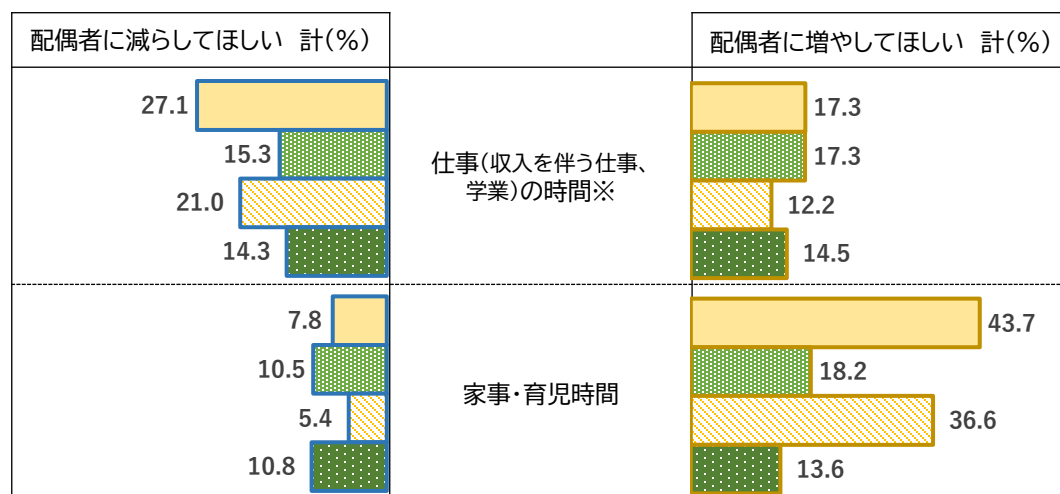
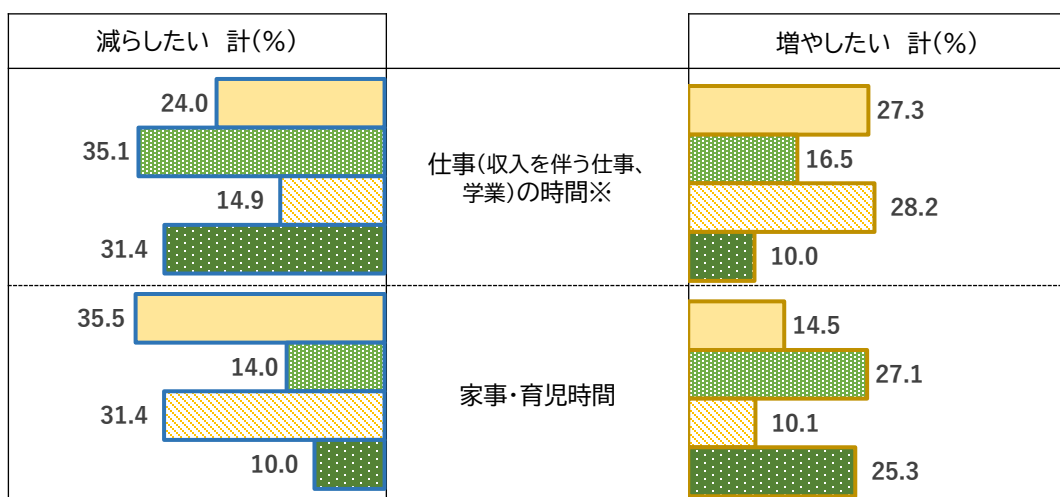
■ 40-69歳子育て世代男性(n=641)

■ 40-69歳子育て世代以外の男性(n=5,924)

## (11) 生活時間の増減希望(自分・配偶者)

- ・自分の仕事時間の増減希望について、「子育て世代女性」では、「20-39歳」では「減らしたい」24.0%、「増やしたい」27.3%と同程度。「40-69歳」では、「増やしたい」が28.2%と、「減らしたい」14.9%を上回る。「子育て世代男性」では、どちらの年代でも「減らしたい」が3割を超える。
- ・自分の家事・育児時間の増減希望については、「子育て世代女性」では、どちらの年代でも「減らしたい」が3割を超える。一方、「子育て世代男性」では、どちらの年代でも「増やしたい」が25%を超える。
- ・配偶者への仕事時間の増減希望については、「子育て世代女性」では、「20-39歳」で「減らしてほしい」が27.1%と、「増やしてほしい」17.3%を上回る。「子育て世代男性」では、どちらの年代でも「減らしてほしい」「増やしてほしい」が同程度。
- ・配偶者の家事・育児時間の増減希望については、「子育て世代女性」では、どちらの年代でも「増やしてほしい」が3割を超え高いが、特に「20-39歳」で43.7%と高い。「子育て世代男性」では、「減らしてほしい」「増やしてほしい」がどちらも1割強となった。

■ 20-39歳子育て世代女性(n=929)      ※nは全数、設問によって変わる  
■ 20-39歳子育て世代男性(n=809)      ※該当しないは除いて集計  
■ 40-69歳子育て世代女性(n=404)  
■ 40-69歳子育て世代男性(n=641)



※減らしたい計 = 「大幅に減らしたい」 + 「少し減らしたい」

※増やしたい計 = 「大幅に増やしたい」 + 「少し増やしたい」

※減らしてほしい計 = 「大幅に減らしてほしい」 + 「少し減らしてほしい」

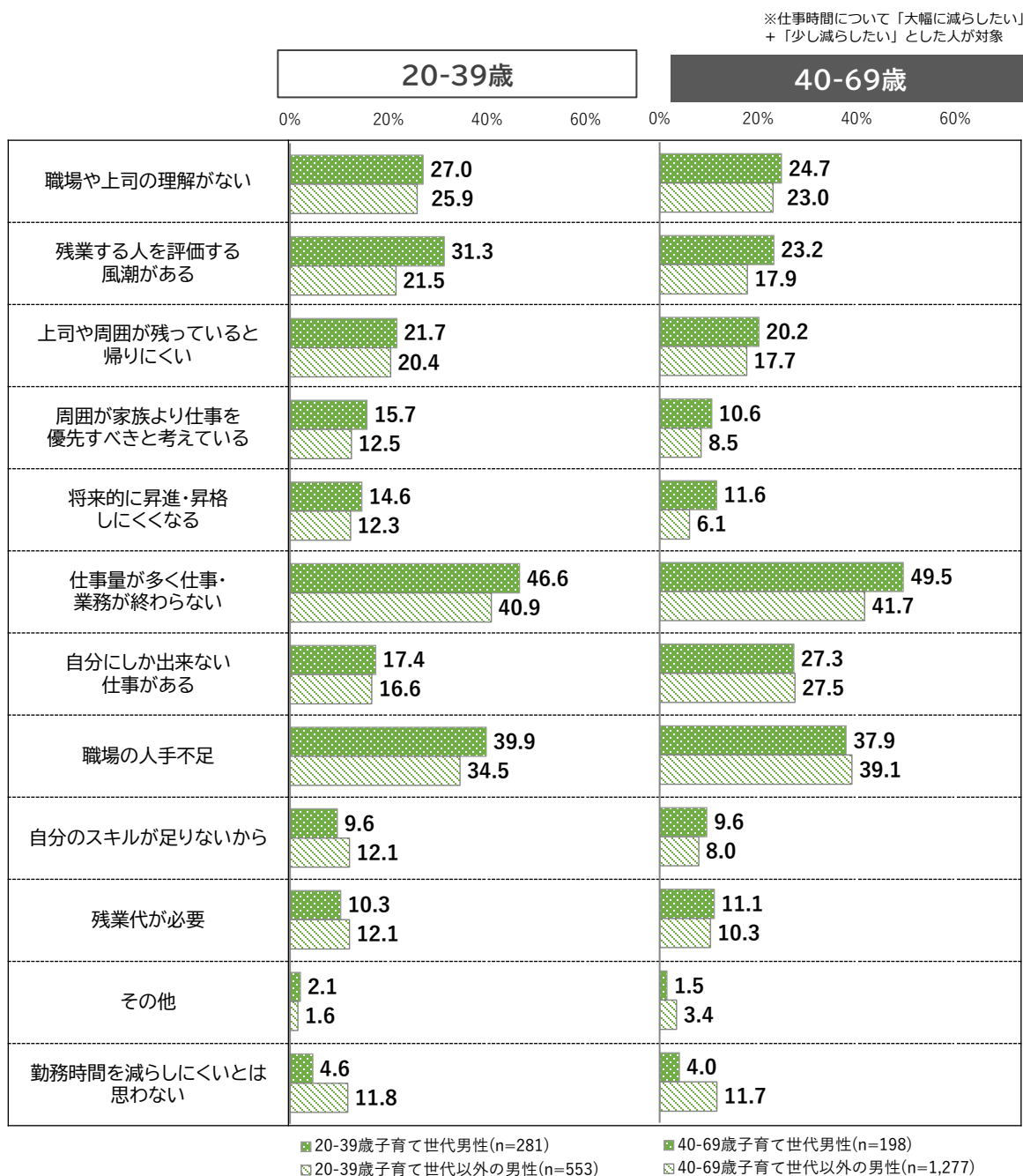
※増やしてほしい計 = 「大幅に増やしてほしい」 + 「少し増やしてほしい」

## (12) 勤務時間を減らしにくい理由(男性、仕事を減らしたい人対象)

・男性の勤務時間を減らしにくい理由を見てみると、「20-39歳」では、「残業する人を評価する風潮がある」について、「子育て世代男性」の方が、「子育て世代以外の男性」よりも10%ポイント程度高い。また、「仕事量が多く仕事・業務が終わらない」「職場の人手不足」についても、「子育て世代男性」の方がやや高い傾向が見られた。

・「40-69歳」では、「仕事量が多く仕事・業務が終わらない」については、「子育て世代男性」の方がやや高い傾向が見られた。

・年代で比較すると、「残業する人を評価する風潮がある」について、「20-39歳」の方が、「40-69歳」よりも高い傾向が見られた。また「自分にしか出来ない仕事がある」は、「子育て世代」「子育て世代以外」のいずれも、「40-69歳」の方が「20-39歳」よりも10%ポイント程度高い。

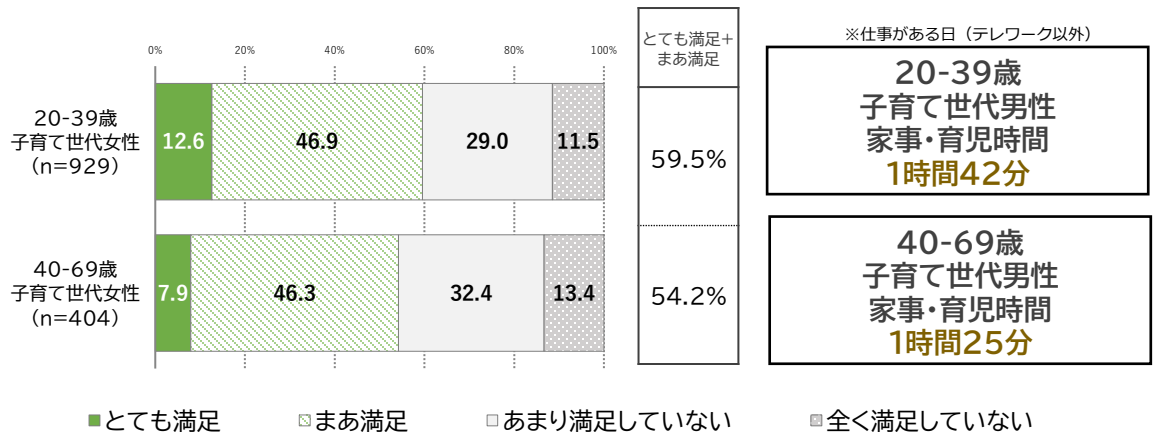


### (13) 配偶者の実施する家事への満足度

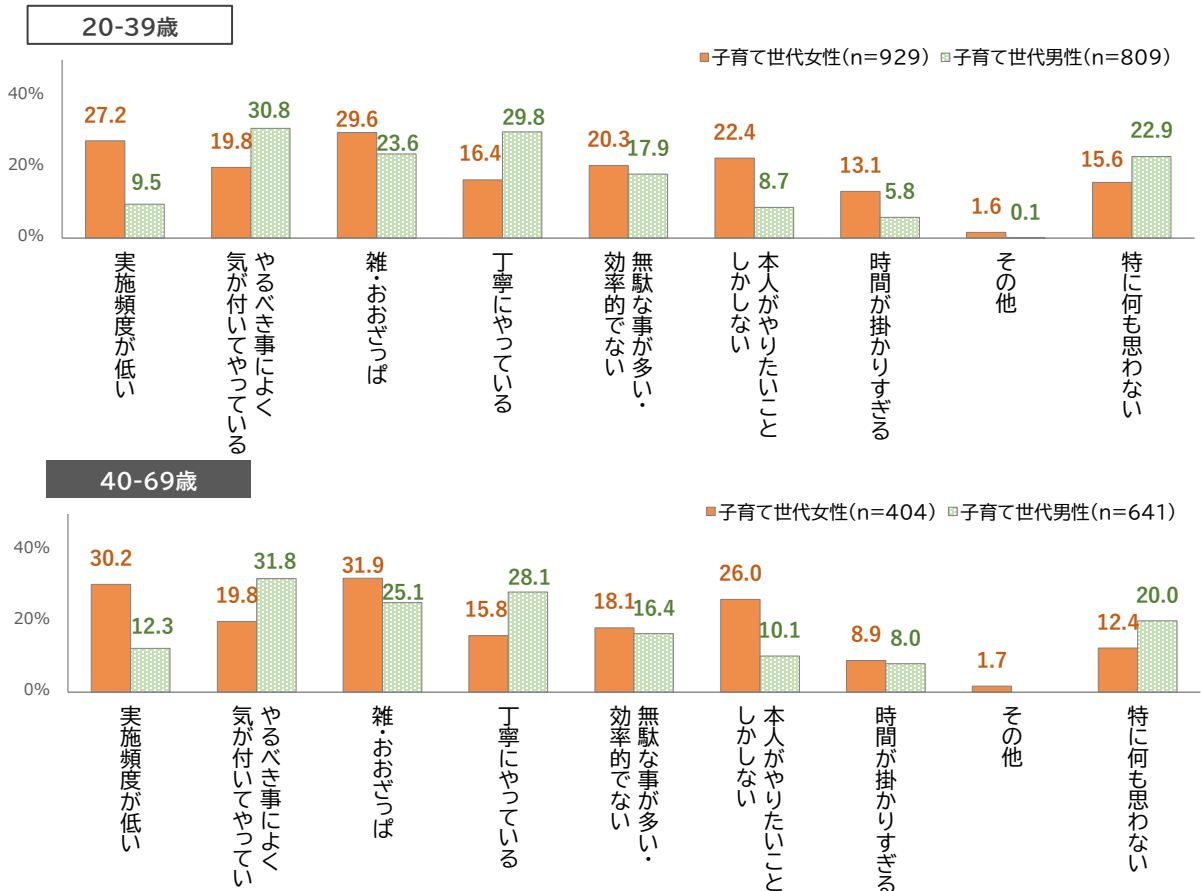
・女性の配偶者の家事への満足度について、子育て世代女性で「とても満足」+「まあ満足」の累計値を見てみると、「20-39歳」で59.5%、「40-69歳」で54.2%と、「20-39歳」の方がやや高い。子育て世代男性における「家事・育児時間」を見てみると、「20-39歳」で1時間42分、「40-69歳」で1時間25分と、「40-69歳」の方が17分長く、女性側の満足度もそれに伴っている可能性がある。

・配偶者の実施する家事についてどう感じるかについては、「20-39歳」「40-69歳」どちらの年代でも「実施頻度が低い」「本人がやりたいことしかしかない」は女性の方が10%ポイント以上高く、「やるべきことに気が付いてよくやっている」「丁寧にやっている」は男性の方が10%ポイント以上高い。

#### 配偶者の実施する家事についての満足度

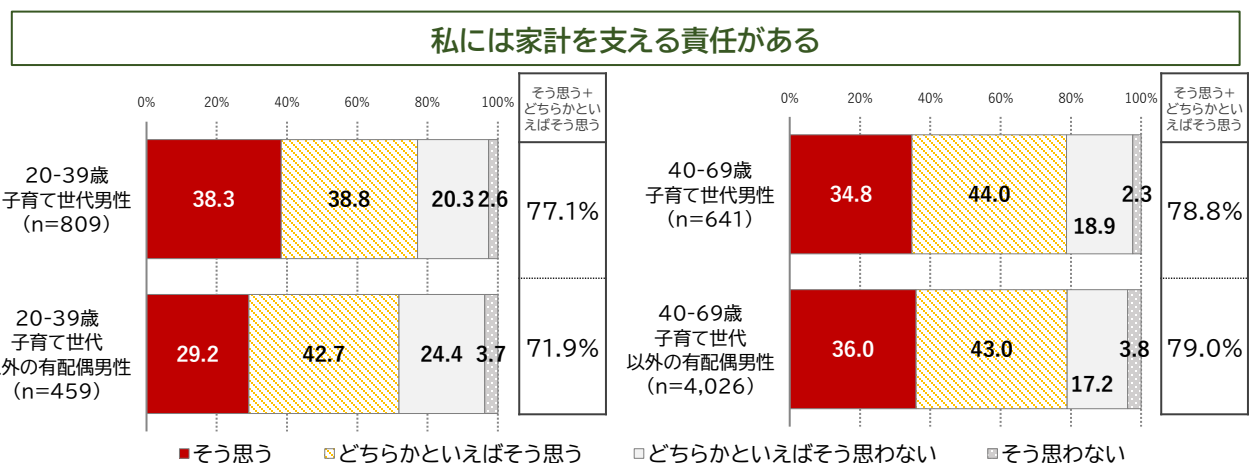
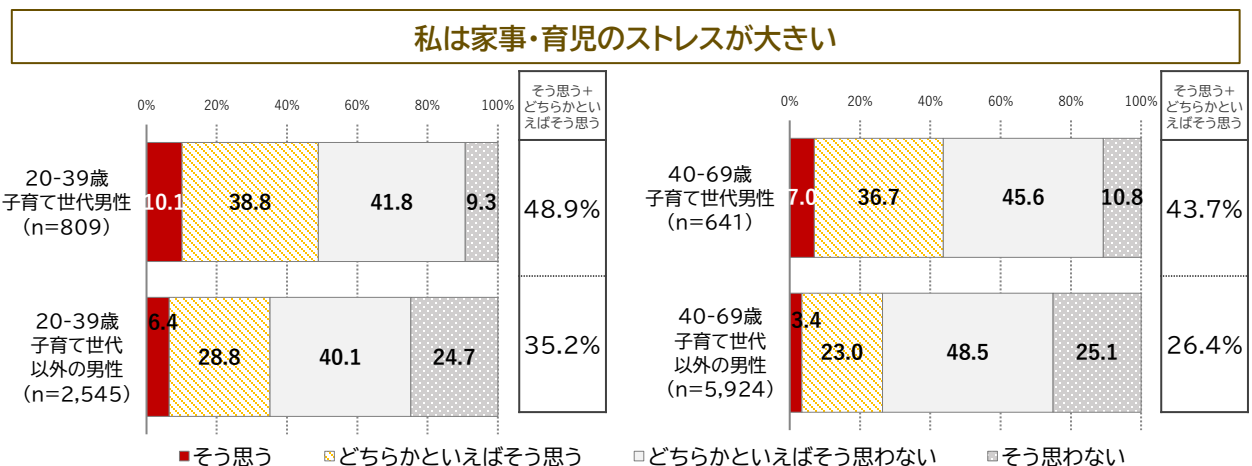
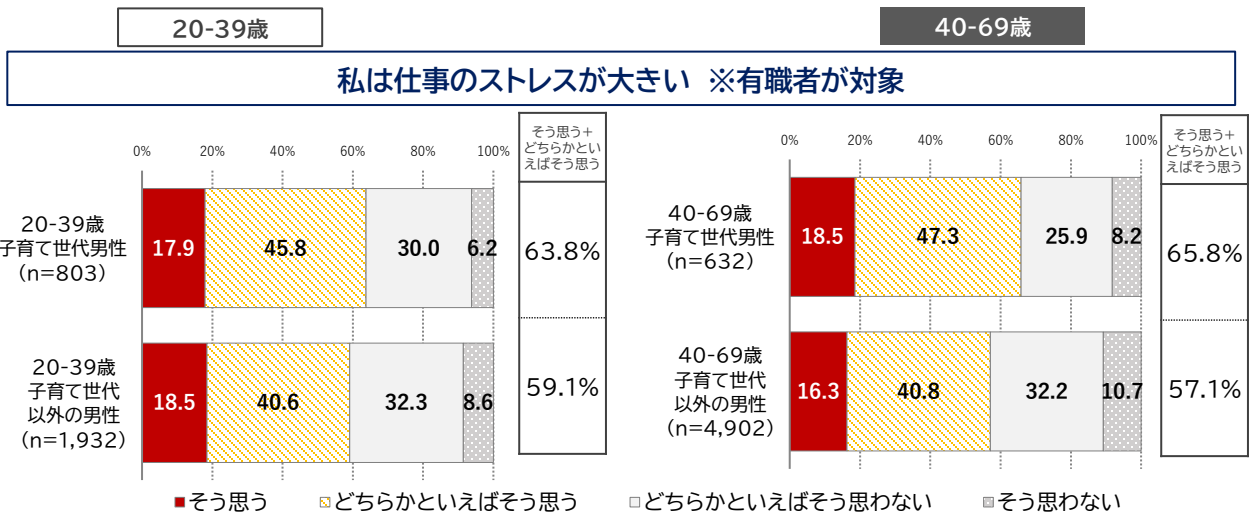


#### 配偶者の実施する家事についてどう感じるか



## (14) 自分のストレスや責任などについての考え方(男性)

- ・男性有職者における「仕事のストレス」について比較すると(ストレスが大きい/責任があるについて「そう思う」+「どちらかといえばそう思う」の累計値、以下同様)、「子育て世代の男性」「子育て世代以外の男性」で、どちらの年代でも10%ポイント以上の差はないが、やや「子育て世代の男性」の方がストレスが大きい割合が高い。
- ・「家事・育児のストレス」を比較すると、どちらの年代でも、「子育て世代の男性」の方が、「子育て世代以外の男性」に比べて、10%ポイント以上ストレスが大きい割合が高い。
- ・有配偶における「家計を支える責任」について比較してみると、20-39歳においては、「子育て世代の男性」の方が、「そう思う+どちらかといえばそう思う」の累計がやや高い。

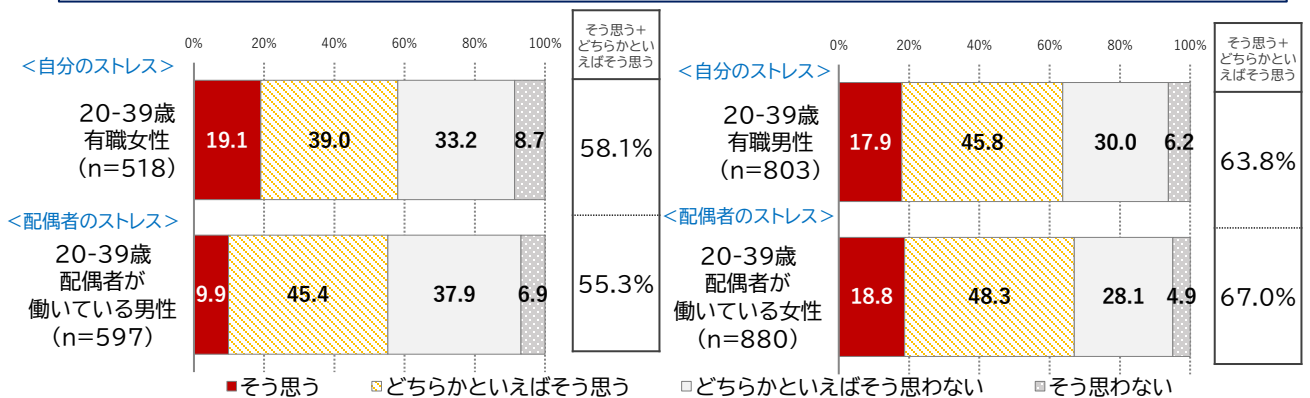


## (15) 自分と配偶者のストレスや責任などについての考え方(20-39歳)

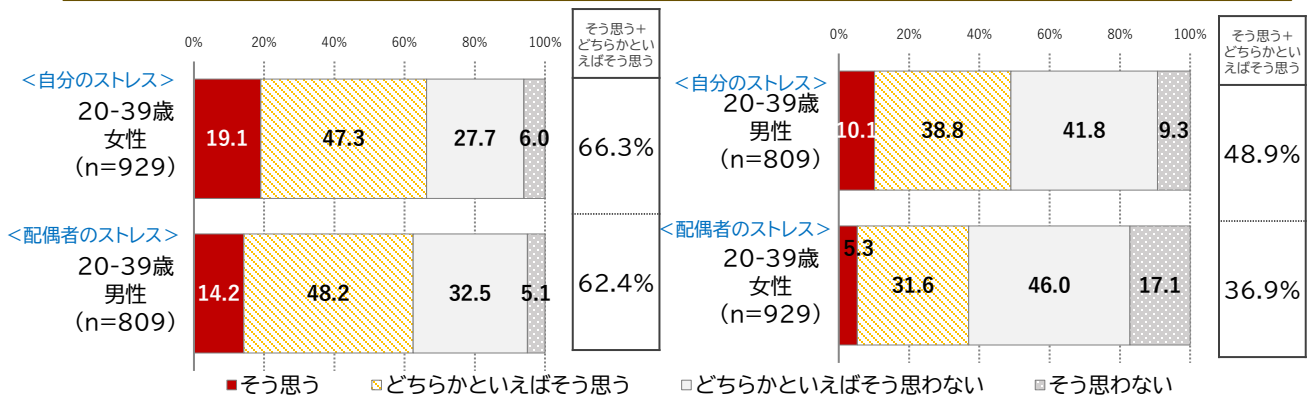
- ・「20-39歳子育て世代」において、自分が感じるストレスや責任と、配偶者が「感じているのではないかと」考えるストレスや責任について比較したものが下記である。
- ・仕事のストレスについては、女性が感じるストレス58.1%と、男性が配偶者に対して考えるストレス55.3%は同程度。男性が感じるストレスは63.8%、女性が配偶者に対して考えるストレスは67.0%と同程度。
- ・家事・育児のストレスでは、女性が感じるストレスは66.3%と、男性が配偶者に対して考えるストレスは62.4%と同程度。男性のストレス48.9%に対して、女性が配偶者に対して考えるストレスは36.9%と10%ポイント以上差がある。
- ・家計を支える責任については、女性が考える責任と男性が配偶者に対して考える責任はどちらも4割強、男性が考える責任と女性が配偶者に対して考える責任はどちらも8割程度となった。

### 20-39歳 子育て世代

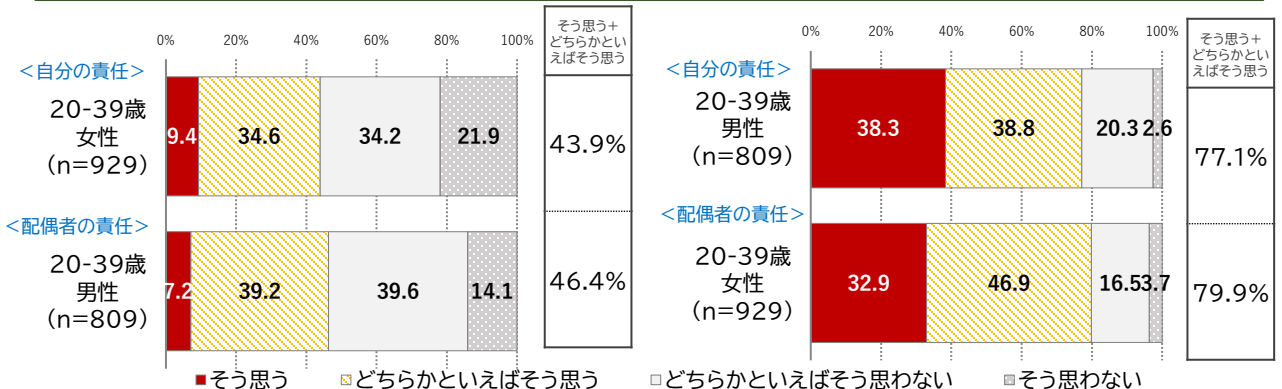
#### 仕事のストレスが大きい ※有職者が対象



#### 家事・育児のストレスが大きい



#### 家計を支える責任がある



※カプセル調査ではないことに留意。

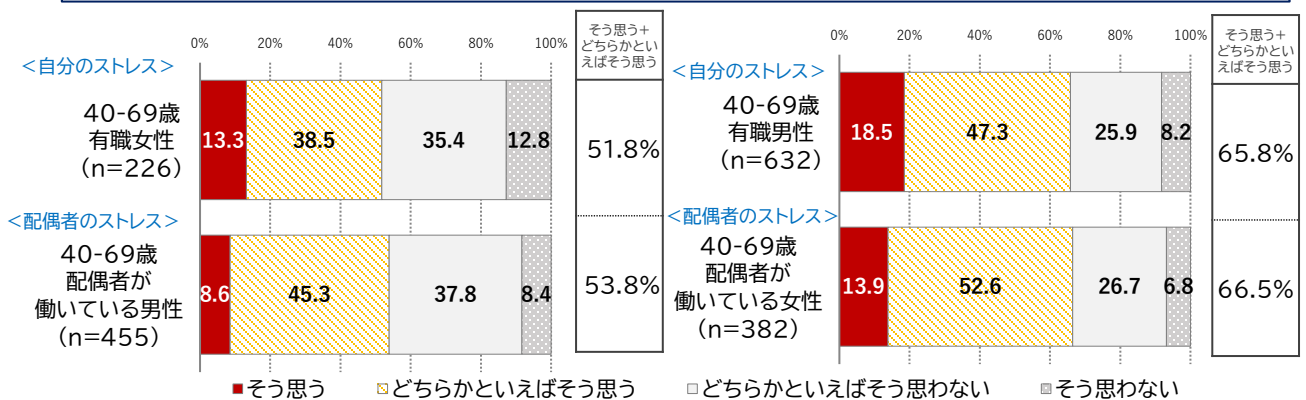


## (15) 自分と配偶者のストレスや責任などについての考え方(40-69歳)

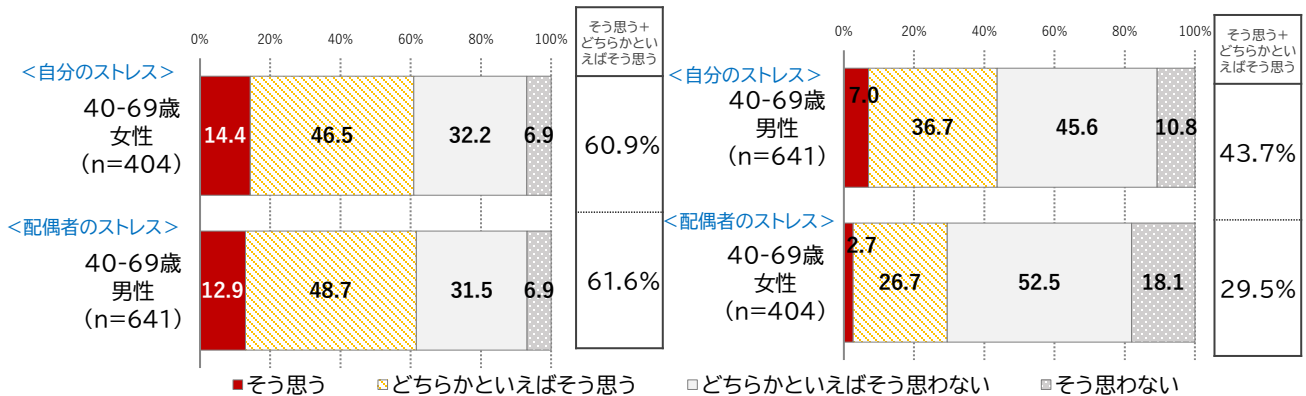
- ・「40-69歳子育て世代」において、自分が感じるストレスや責任と、配偶者が「感じているのではないかと」考えるストレスや責任について比較したものが下記である。
- ・仕事のストレスについては、女性が感じるストレス51.8%と、男性が配偶者に対して考えるストレス53.8%は同程度。男性の感じるストレス65.8%に対して、女性が配偶者に対して考えるストレス66.5%も同程度。
- ・家事・育児のストレスでは、女性の感じるストレス60.9%と、男性が配偶者に対して考えるストレスは61.6%と同程度。男性の感じるストレス43.7%に対して、女性が配偶者に対して考えるストレスは29.5%と10%ポイント以上差がある。
- ・家計を支える責任については、女性が考える責任と男性が配偶者に対して考える責任はどちらも4割前後、男性が考える責任と女性が配偶者に対して考える責任はどちらも8割前後となった。

### 40-69歳 子育て世代

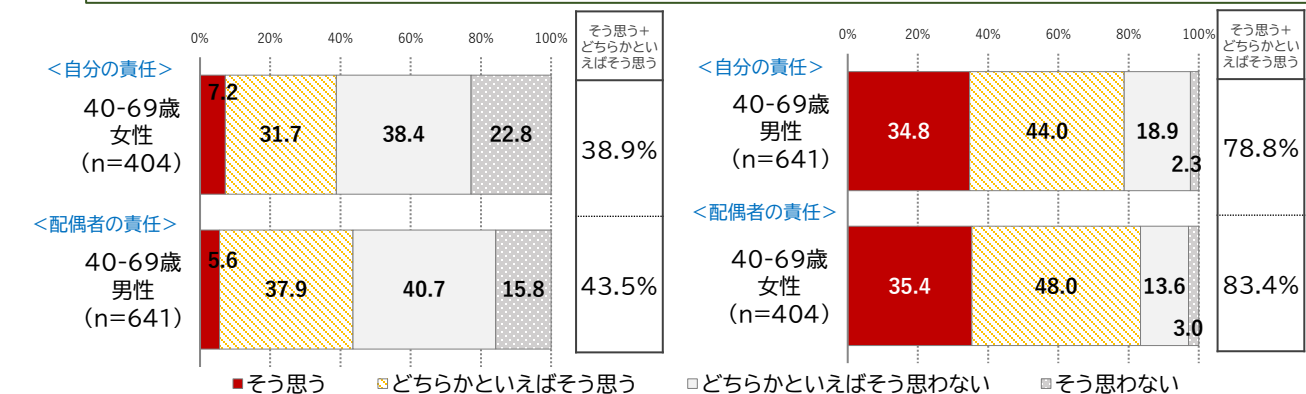
#### 仕事のストレスが大きい ※有職者が対象



#### 家事・育児のストレスが大きい



#### 家計を支える責任がある



※カップル調査ではないことに留意。

## 4. 就職氷河期世代を取り巻く状況

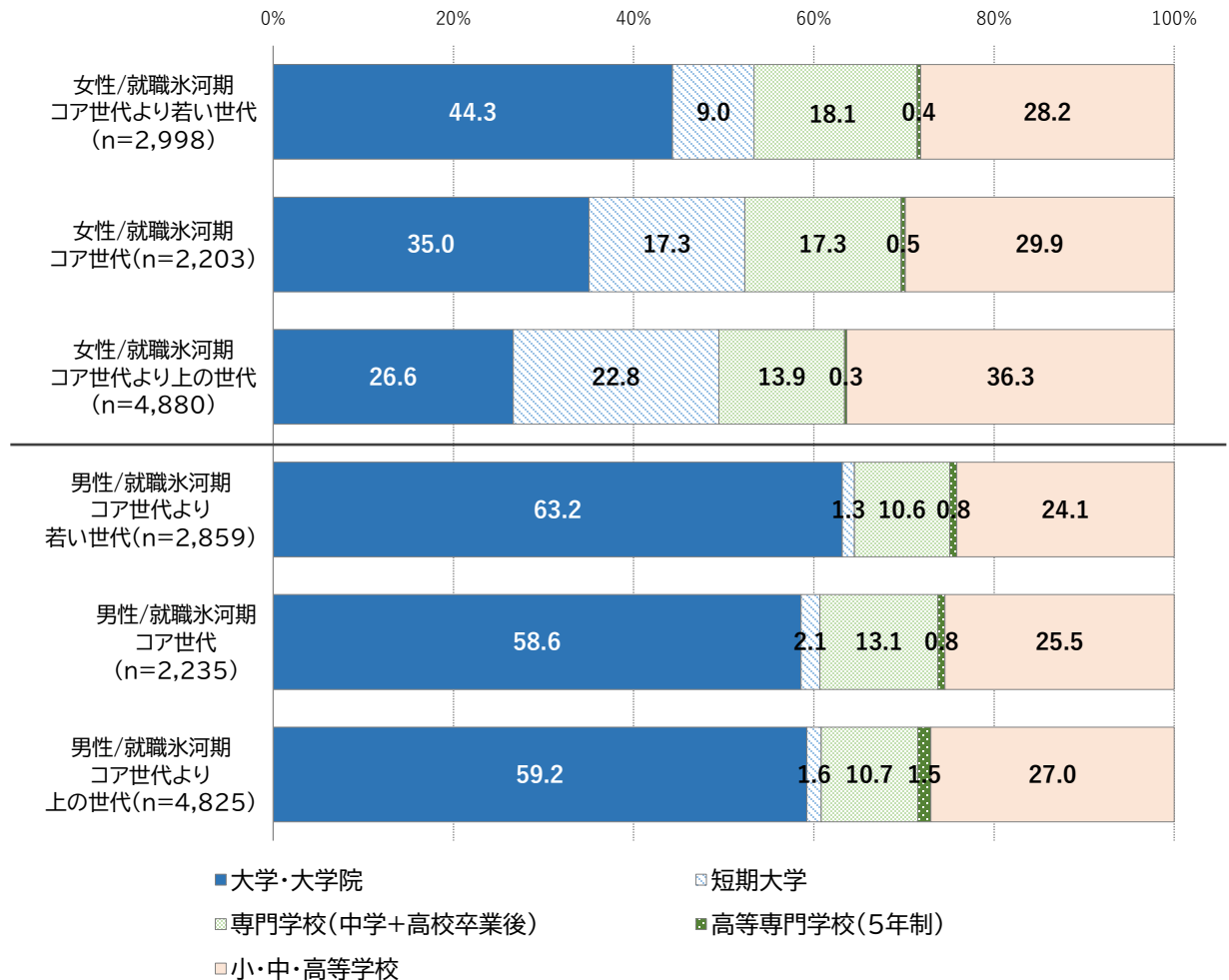
### (1) 基本情報(最終学歴)

- ・調査時点の年齢によって、「就職氷河期コア世代」とそれより若い世代、上の世代に区分(定義は下記参照)し、傾向を分析する。
- ・学歴について、女性では、「就職氷河期コア世代」では「大学・大学院」が35.0%、「小・中・高等学校」が29.9%となっている。「大学・大学院」は若い世代ほど割合が高く、「短期大学」は上の世代ほど高い。一方、「小・中・高等学校」の割合は、「就職氷河期コア世代」と「就職氷河期コア世代より若い世代」のどちらも28~30%と同程度となっている。
- ・男性では、「就職氷河期コア世代」「就職氷河期コア世代より若い世代」「就職氷河期コア世代より上の世代」のどの区分でも「大学・大学院」が6割前後、「専門学校」が1割強、「小・中・高等学校」が25%前後と、世代により大きな差はない。

#### 【定義】

- ・「就職氷河期コア世代」1975年～1984年生まれ=2022年調査時点38歳～47歳で定義
- ・「就職氷河期コア世代より若い世代」1985年生まれ以降=2022年調査時点20歳～37歳で定義
- ・「就職氷河期コア世代より上の世代」1974年生まれより前=2022年調査時点48歳～69歳で定義

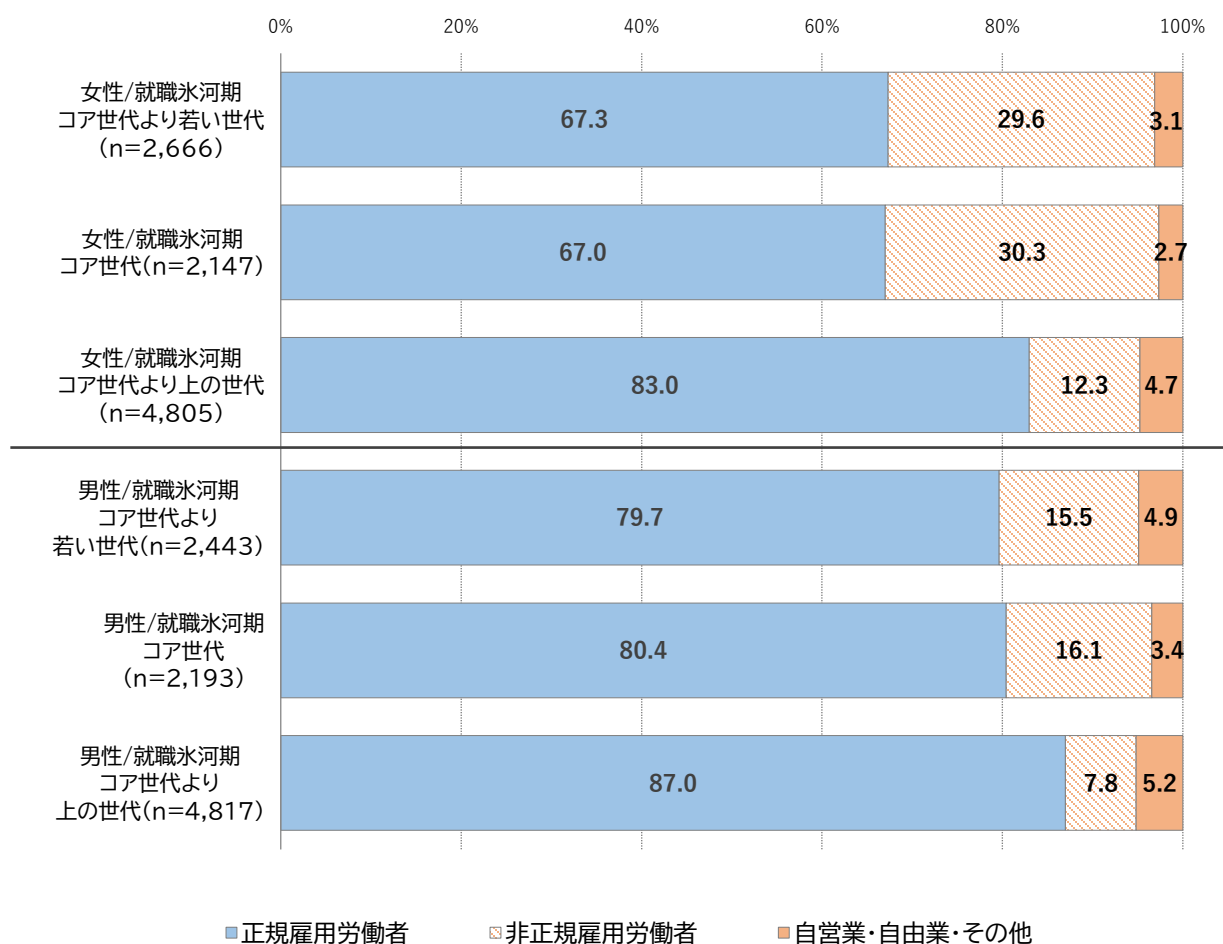
#### ◆最終学歴



## (2) 初職の状況(最終学歴後に働いていた人)

・最終学歴後に働いていた人を対象に、初職の状況を見てみると、男女ともに「就職氷河期コア世代より上の世代」で「正規雇用労働者」の割合が高く、女性で83.0%、男性で87.0%。

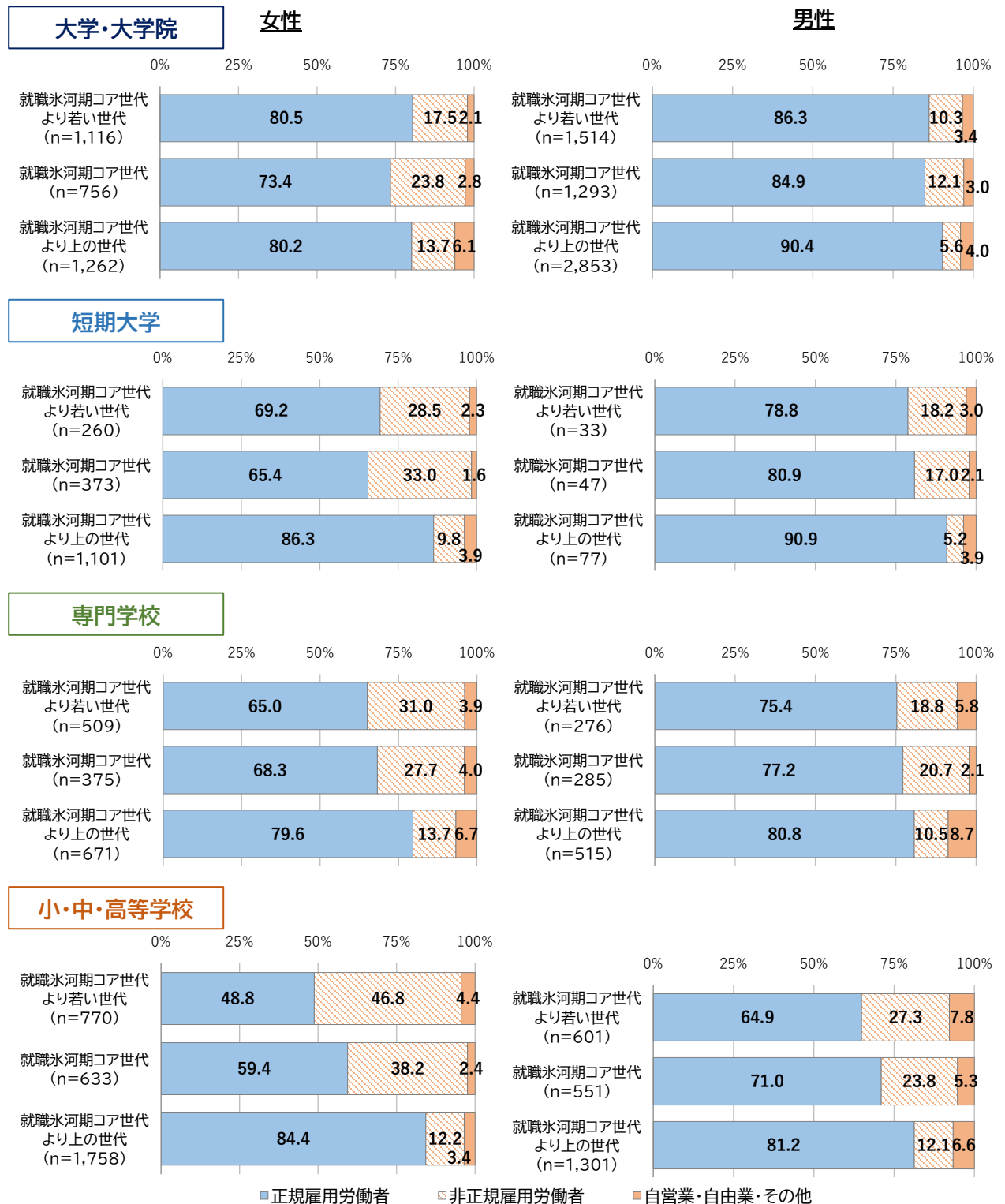
・「就職氷河期コア世代」「就職氷河期コア世代より若い世代」では大きな差は見られず、「非正規雇用労働者」は女性で3割、男性で16%程度となっている。



## (2) 初職の状況(最終学歴別)

・最終学歴別に初職の状況を見てみると、女性については、「大学・大学院」においては、「就職氷河期コア世代」で「正規雇用労働者」が73.4%に対し、「就職氷河期コア世代より若い世代」「就職氷河期より上の世代」ではどちらも80%程度と、やや差が見られた。「短期大学」においても、「正規雇用労働者」割合が最も低いのは、「就職氷河期コア世代」となっている。

・男女ともに、「大学・大学院」において「正規雇用労働者割合」が最も低いのは、「就職氷河期コア世代」となっている。

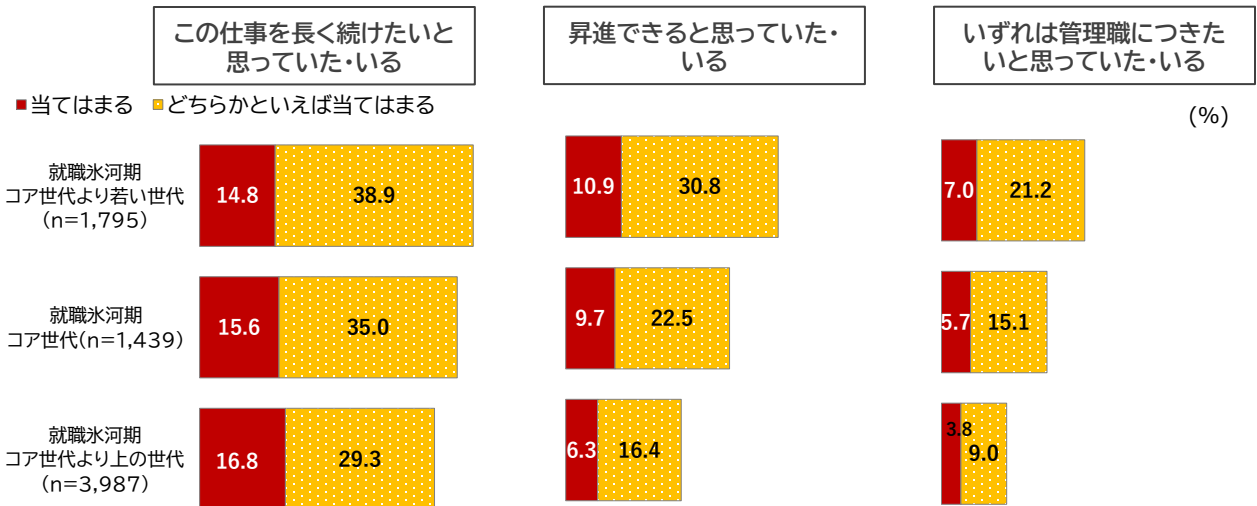


### (3)「仕事での昇進」20代時点での考え方(女性、初職の雇用形態別)

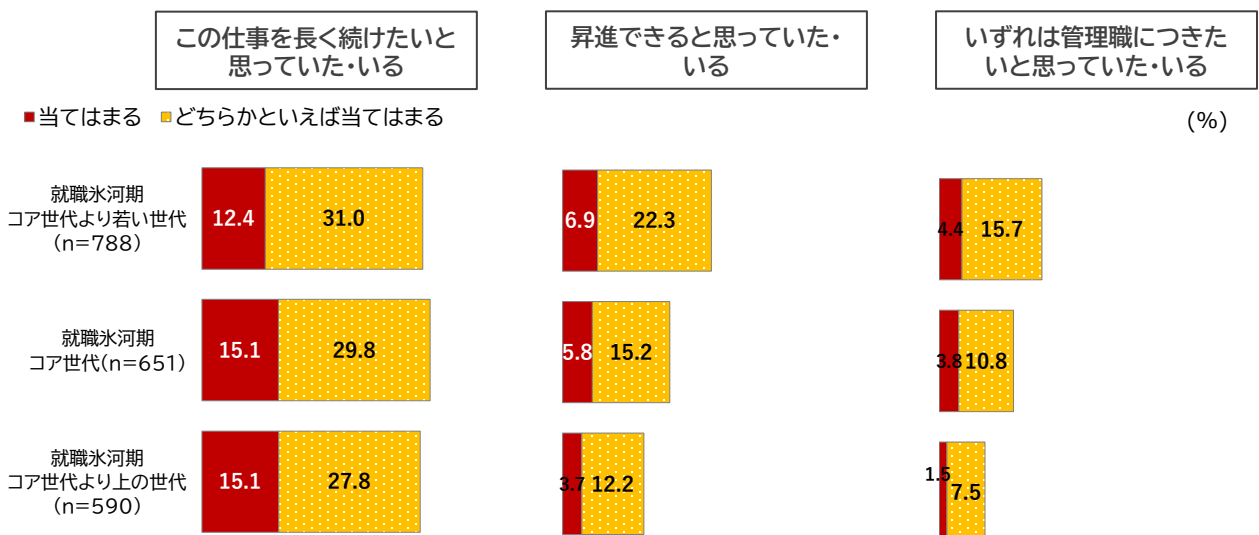
・20代時点の「仕事での昇進」等に関する考え方を「当てはまる」+「とても当てはまる」の累計値で見ると、「初職が正規雇用の女性」では、年代が若いほど「昇進できる」「いずれは管理職」が高く、上の年代になるほど低い傾向にあり、「就職氷河期コア世代」もその傾向にある。「長く続けたい」については、「就職氷河期コア世代」と「就職氷河期コア世代より若い世代」でどちらも5割強となっている。

・「初職が非正規雇用の女性」でも同様に、「昇進できる」「いずれは管理職」に関しては、若い世代ほど高い。また、「初職が正規雇用の女性」と比べると全体的に割合が低い。「長く続けたい」については、どの世代でも同程度となっている。

#### 初職が「正規雇用」・女性



#### 初職が「非正規雇用」・女性



### (3)「仕事での昇進」 20代時点での考え方(男性、初職の雇用形態別)

- ・「初職が正規雇用の男性」では、「昇進できる」「いずれは管理職」については世代による差はあまりないが、「当てはまる」の割合は、やや「就職氷河期コア世代より上の世代」で高い。「長く続けたい」については、「就職氷河期コア世代より若い世代」で、上の年代と比べるとやや低い。
- ・「初職が非正規雇用の男性」でも同様に、「昇進できる」「いずれは管理職」に関して、世代による差はほとんどない。一方、「初職が正規雇用の男性」と比べると全体的に割合が低い。「長く続けたい」については、「就職氷河期コア世代より上の世代」でやや高い結果となった。

#### 初職が「正規雇用」・男性

この仕事を長く続けたいと  
思っていた・いる

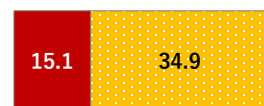
昇進できると思っていた・  
いる

いずれは管理職につきた  
いと思っていた・いる

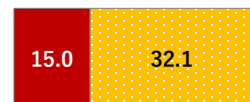
■当てはまる ■どちらかといえば当てはまる

(%)

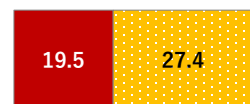
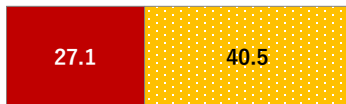
就職氷河期  
コア世代より若い世代  
(n=1,946)



就職氷河期  
コア世代(n=1,764)



就職氷河期  
コア世代より上の世代  
(n=4,191)



#### 初職が「非正規雇用」・男性

この仕事を長く続けたいと  
思っていた・いる

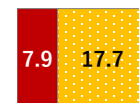
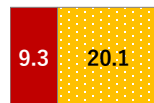
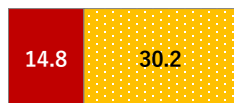
昇進できると思っていた・  
いる

いずれは管理職につきた  
いと思っていた・いる

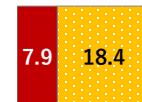
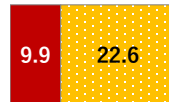
■当てはまる ■どちらかといえば当てはまる

(%)

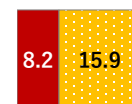
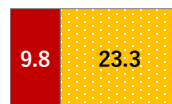
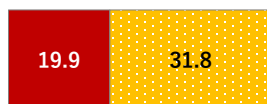
就職氷河期  
コア世代より若い世代  
(n=378)



就職氷河期  
コア世代(n=354)

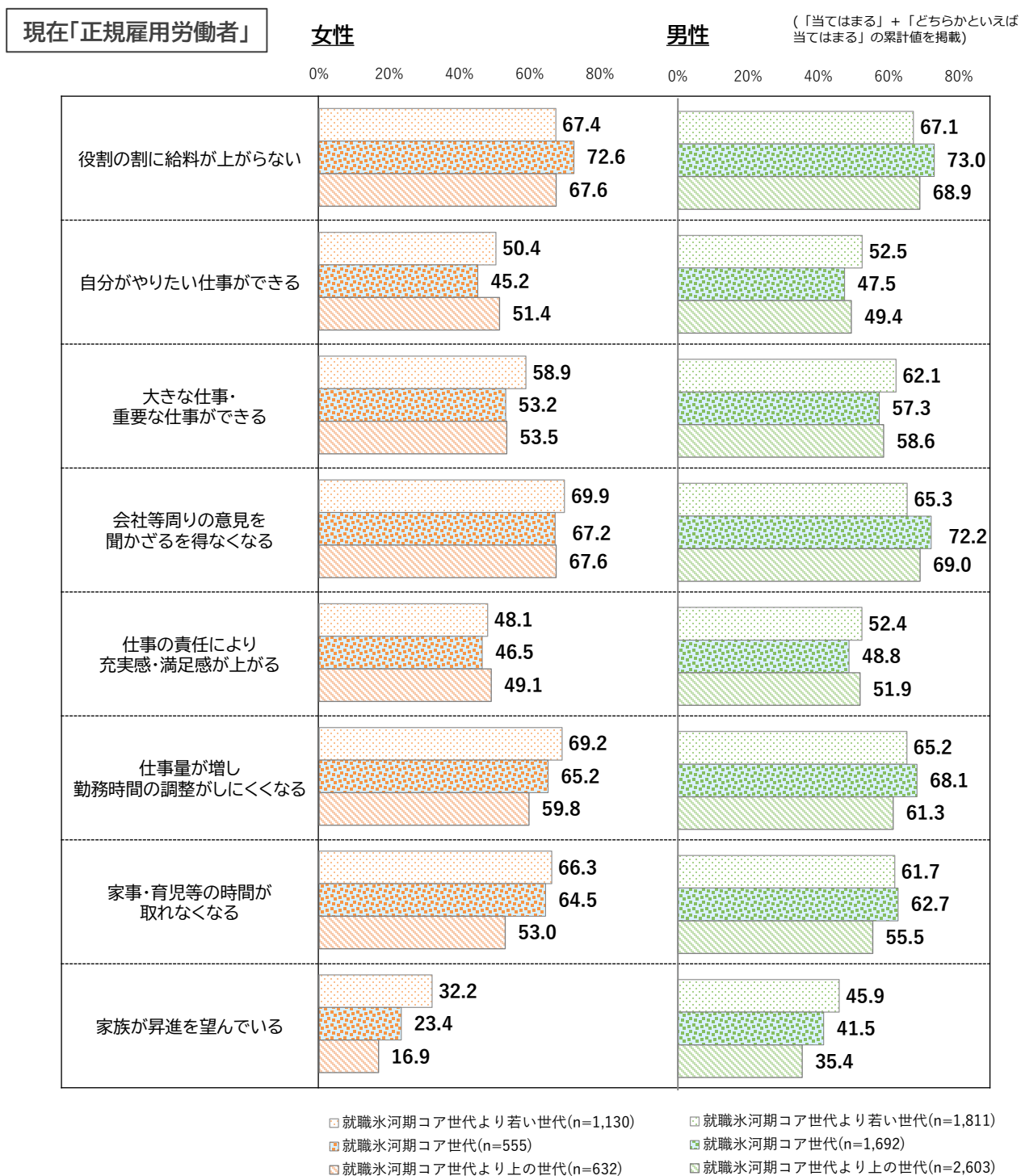


就職氷河期  
コア世代より上の世代  
(n=377)



#### (4) 昇進することへのイメージ(現在正規雇用労働者対象)

・現在「正規雇用労働者」についてみると、「就職氷河期コア世代」が他世代に比べ高い項目は、男女ともに「役割の割に給料が上がらない」であり、73%程度となっている。男性においては「会社等周りの意見を聞かざるを得なくなる」「仕事量が増し、勤務時間の調整がしにくくなる」等がやや高い。他世代に比べて低い項目は、男女ともに「自分がやりたい仕事ができる」「大きな仕事・重要な仕事ができる」「仕事の責任により充実感・満足感が上がる」となっている。他世代に比べてどちらかという昇進へのネガティブイメージがやや高く、ポジティブイメージがやや低い傾向が見られた。



#### (4) 昇進することへのイメージ(現在非正規雇用労働者対象)

・現在「非正規雇用労働者」についてみると、「就職氷河期コア世代」が他世代に比べ高い項目は、男女ともに、「役割の割に給料が上がらない」となっている。男性においては、「大きな仕事・重要な仕事ができる」「会社等周りの意見を聞かざるを得なくなる」「仕事量が増し勤務時間の調整がしにくくなる」等がやや高い。

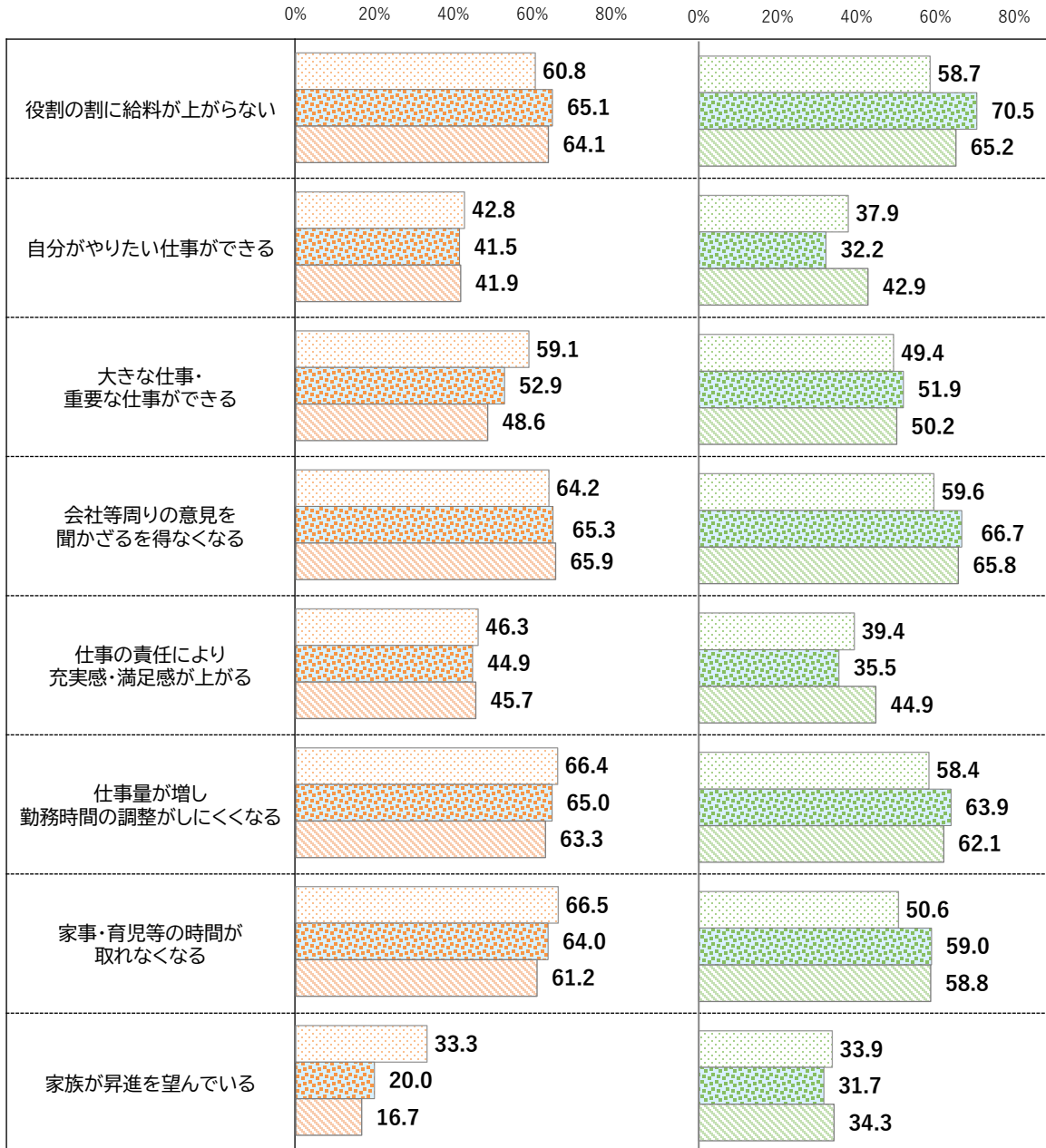
・他世代に比べて低い項目は、男女ともに「自分がやりたい仕事ができる」「仕事の責任により充実感・満足感が上がる」となっている。

#### 現在「非正規雇用労働者」

女性

男性

(「当てはまる」+「どちらかといえば当てはまる」の累計値を掲載)



□ 就職氷河期コア世代より若い世代(n=780)  
 ■ 就職氷河期コア世代(n=780)  
 ▨ 就職氷河期コア世代より上の世代(n=1,369)

□ 就職氷河期コア世代より若い世代(n=322)  
 ■ 就職氷河期コア世代(n=183)  
 ▨ 就職氷河期コア世代より上の世代(n=673)

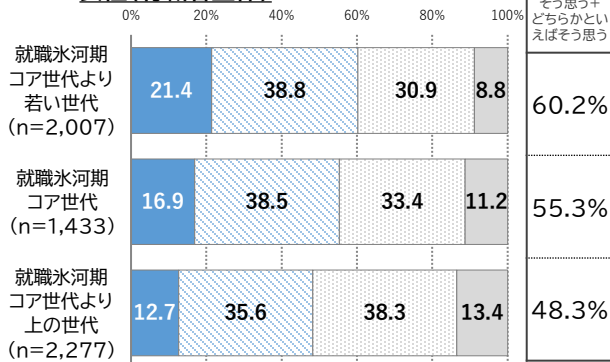


## (5) 仕事へのストレス「私は仕事のストレスが大きい」(有職者対象)

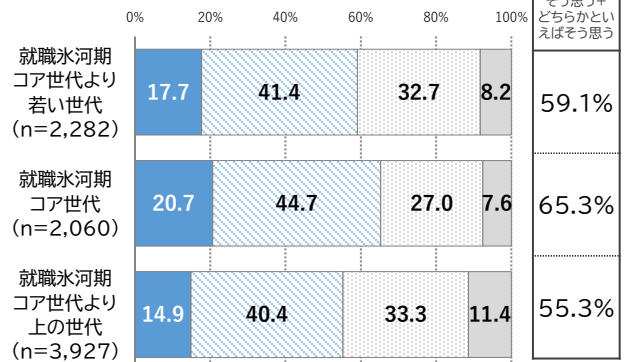
・仕事へのストレスについて、「ストレスが大きい」に対して「そう思う」+「どちらかといえばそう思う」と回答した累計値で見ると、有職者全体では、女性では若い年代ほど高い傾向が見られた。男性では、「就職氷河期コア世代」で65.3%と最も高い。

・現在の雇用形態別で見ると、「正規雇用」の女性では、「就職氷河期コア世代」と「就職氷河期コア世代より若い世代」でどちらも65%程度と、上の世代に比べて10%ポイント程度高い。一方、「正規雇用労働者」の男性については、「就職氷河期コア世代」で最も高く、他世代に比べて7~8%ポイント程度高い。「非正規雇用労働者」においては、女性では若い世代ほど高く、男性ではわずかな差ではあるが「就職氷河期コア世代」で最も高くなった。

### 女性(有職者全体)

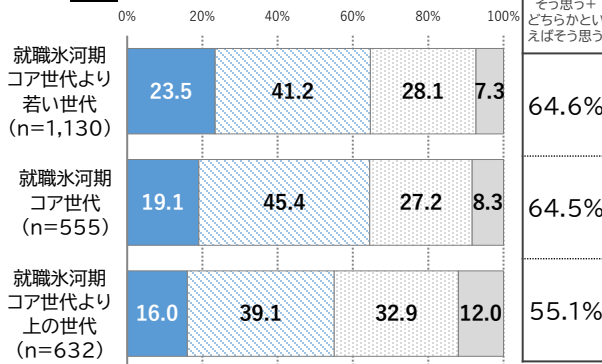


### 男性(有職者全体)

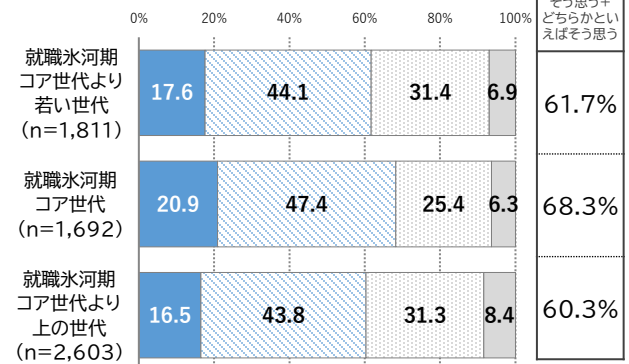


## 現在が「正規雇用労働者」

### 女性

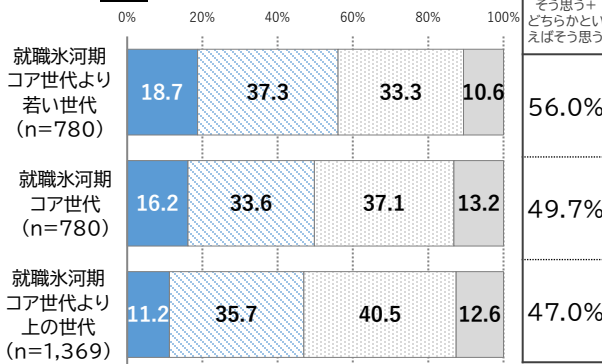


### 男性

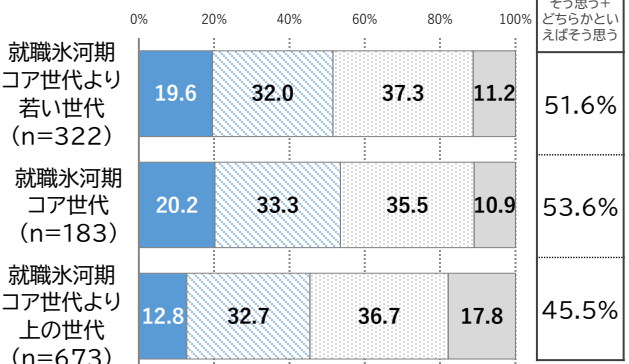


## 現在「非正規雇用労働者」

### 女性



### 男性



■ そう思う □ どちらかといえばそう思う ▨ どちらかといえばそう思わない ■ そう思わない

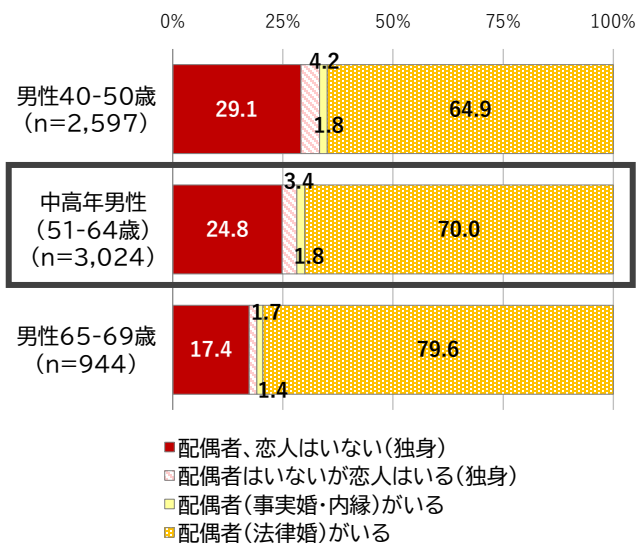
## 5. 中高年男性を取り巻く状況

※中高年男性=51歳～64歳男性を対象としている

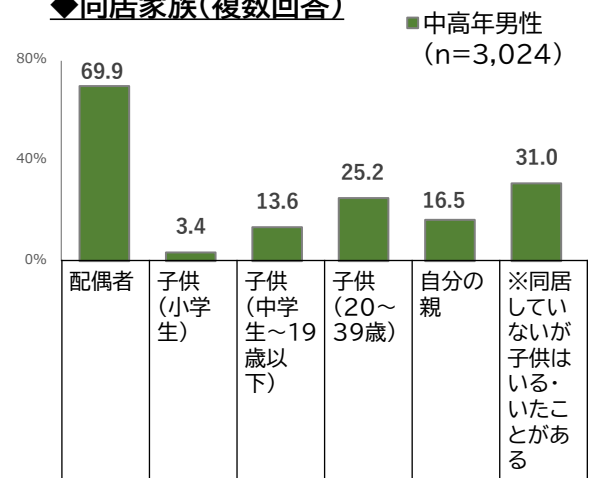
### (1) 基本属性状況

- ・中高年男性の状況について、現在51歳～64歳の男性に絞って傾向を分析する。
- ・配偶状況については、「有配偶(法律婚・事実婚・内縁含む)」で7割強。現在独身の人のうち、「恋人はいる」が3.4%。「有配偶」の割合は下の年代に比べると高く、上の年代に比べると低い。
- ・同居状況については、「自分の親」と同居が16.5%、「子供(中学生～19歳以下)」と同居が13.6%、「子供(20～39歳)」と同居が25.2%。「同居していないが子供はいる(いたことがある)」が31.0%。
- ・家族形態については、「夫婦のみ世帯」と「夫婦と子供から成る世帯」がどちらも3割程度。一方、「単独世帯」17.6%、「親と同居世帯」7.9%となっている。

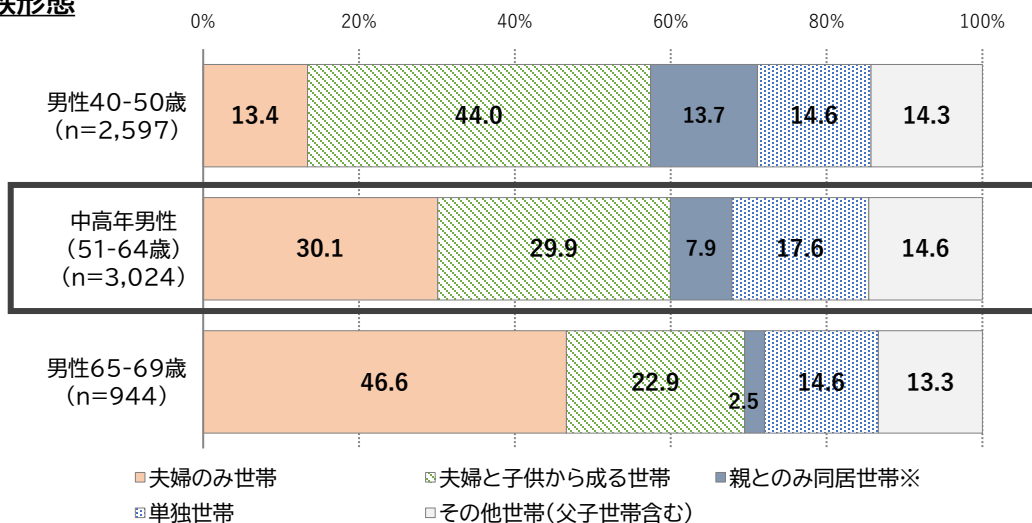
#### ◆現在の配偶者等の状況



#### ◆同居家族(複数回答)



#### ◆家族形態

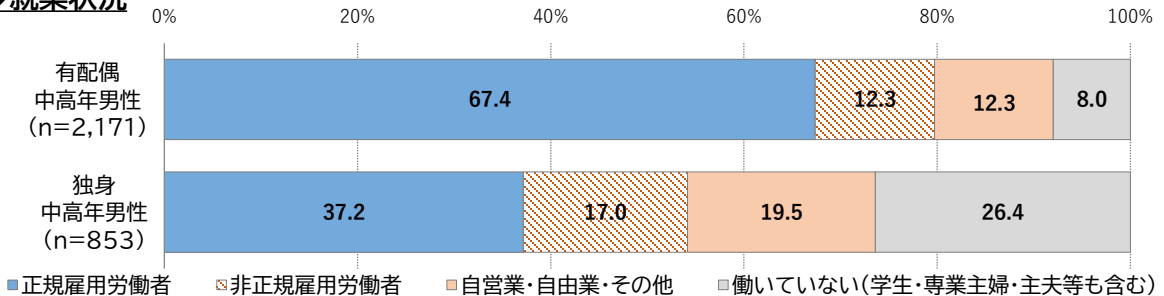


※「親とのみ同居」…自分と親(自分の親)の組み合わせで同居しており、かつ、親以外の世帯員がいない人

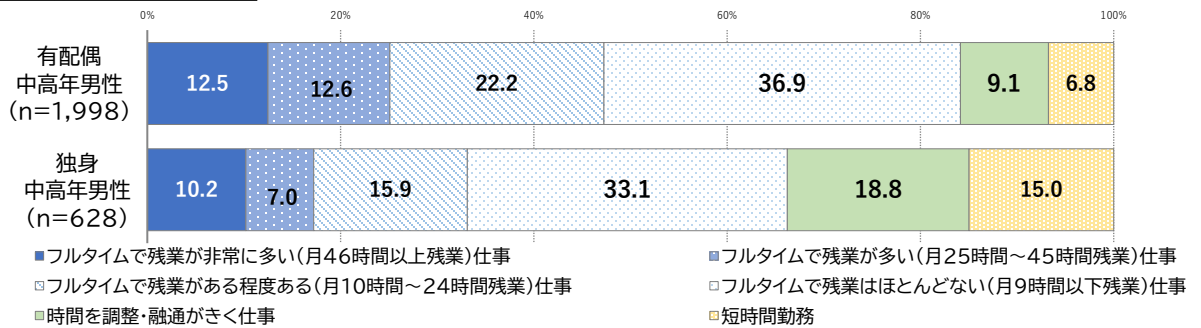
## (2) 就業状況と個人年収(配偶状況別)

- ・現在の就業状況について、「有配偶」では「正規雇用」が67.4%。対して「独身」では37.2%と差が大きい。
- ・勤務形態については、「有配偶」では、36.9%が「フルタイムで残業はほとんどない仕事」。「独身」では、「時間を調整・融通がきく仕事」18.8%、「短時間勤務」15.0%が「有配偶」と比べて少し高い。どちらの区分でも「フルタイムで残業が非常に多い(月46時間以上残業)仕事」は1割強。
- ・個人年収については、「有配偶」では「700万円以上」が32.1%と最も高い。一方、「独身:1人暮らし」では「300-400万円台」が24.6%、「独身:親とのみ同居」でも「300-400万円台」が26.3%と、最も高い。

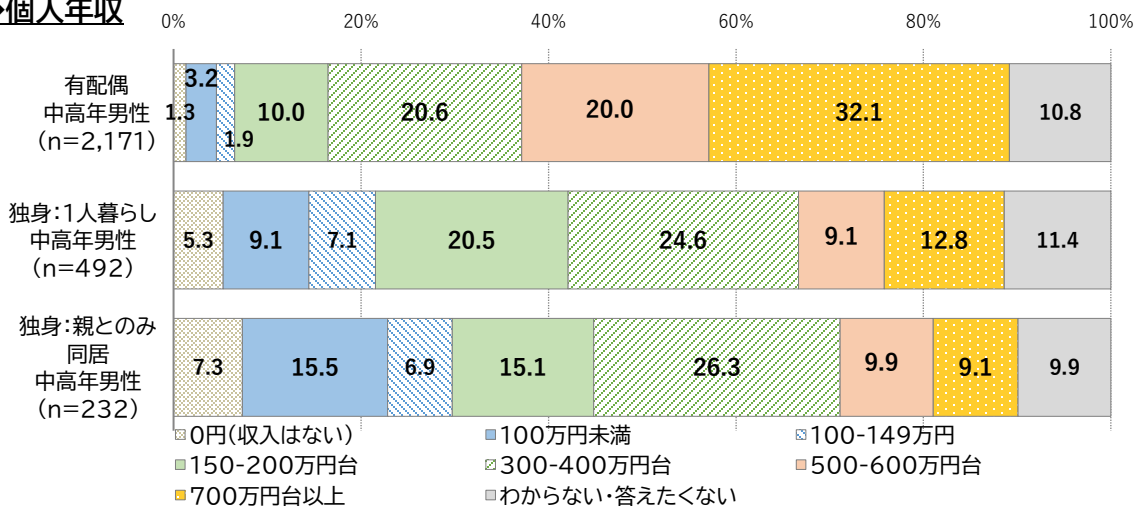
### ◆就業状況



### ◆勤務形態(勤務時間)



### ◆個人年収



※「親とのみ同居」…自分と親(自分の親)の組み合わせで同居しており、かつ、親以外の世帯員がいない人